

カ故ニ之ヲ爲ス權限ヲ有スヘシ即チ訴訟代理人ハ當然反訴主參加故障假差押若クハ假處分又ハ強制執行ニ由リ生スル訴訟行爲其他訴訟ニ關スル總テノ訴訟行爲及相手方ヨリ辯濟スル費用ノ領收ヲ爲ス權限ヲ有ス然レトモ控訴者クハ上告ヲ爲シ再審ヲ求メ代人ヲ任シ和解ヲ爲シ訴訟物ヲ拋棄シ又ハ相手方ヨリ主張スル請求ノ認諾ヲ爲ス權ハ特別委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ有セス是レ當然委任者ノ意思ナリト推測スルコトヲ得サレハナリ

以上述ヘタル所ヲ稱シテ訴訟委任ノ法律上ノ範圍ト云フ

●共同訴訟ノ條件ヲ説明スヘシ(明治四十二年六月 根室地方裁判所書記試驗)

解説

共同訴訟ノ成立ニハ左ノ形式的及ヒ實質的ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トス

第一 形式的條件

- (イ) 受訴裁判所カ其訴訟事件ニ付キ事物及ヒ土地ノ管轄權ヲ有スルコトヲ要ス
- (ロ) 併合スヘキ訴ハ同一種類ノ訴訟手續ニ依ルコトヲ要ス

第二 實質的條件

- (イ) 數人カ訴訟ニ付キ權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ立ツヘキ場合ナルトキ
- (ロ) 同一ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物ナルトキ
- (ハ) 性質ニ於テ同種類ナル事實上及ヒ法律上ノ原因ニ基ク同種類ナル請求又ハ義務カ訴訟ノ目的物タルトキ

●共同訴訟人中ノ或一人ノ訴訟行爲ハ他ノ共同訴訟人ニ利害ヲ及ホスヤ否ヤヲ詳説スヘシ(明治三十三年十月 福岡地方裁判所書記試驗)

解説

共同訴訟人ノ法律上ノ位置即チ資格ハ各自獨立ナルモノニシテ各別ニ訴ヲ爲シタル訴訟人ニ異ナルコトナシ從テ共同訴訟人ハ各自各別ニ攻撃又ハ防禦ヲ爲シ得ルモノニシテ之カ對手タル者モ亦其共同訴訟人ニ對シテ各別ニ攻撃又ハ防禦ヲ爲スコトヲ得ルヲ原則トス故ニ共同訴訟人中ノ或者ノ訴訟行爲ハ他ノ共同訴訟人ノ利害ニ影響

スルコトナシ是ヲ以テ共同訴訟人ニ對スル裁判ハ必スシモ一齊ルヘキモノニアラ  
ス然レトモ總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキト  
キニ限リ例外トシテ左ノ規定ニ從フヘキモノトス(四九條五〇條)

一、共同訴訟人中ノ或ル人ノ攻撃及ヒ防禦ノ方法(證據方法ヲ含ム)ハ他ノ共同訴  
訟人ノ利益ニ於テ效ヲ生ス共同訴訟人中ノ或ル人カ争ヒ又ハ認諾セサルトキト  
雖モ總テノ共同訴訟人カ悉ク争ヒ又ハ認諾セサルモノト看做ス

二、共同訴訟人中ノ或ル人ノミカ期日又ハ期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者  
ハ懈怠セサル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做ス

三、然レトモ懈怠シタル共同訴訟人ニハ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲スヘキ總テノ  
送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ要ス其懈怠シタル共同訴訟人ハ何時ニテモ其後ノ訴  
訟手續ニ再ヒ加ハルコトヲ得

解説

●第三者ノ訴訟参加ノ種類ヲ列挙シ之ヲ略述スヘシ(明治三十三年十一月  
山形地方裁判所書記試験)

第三者カ訴訟ニ参加スヘキ種類ハ(1)主参加(2)從参加(3)告知参加(4)指名参加トス以下

之ヲ略說セム

主参加ハ第三者カ他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ目的物ノ全部又ハ一部ヲ自  
己ノ爲メニ請求スルト又ハ原告及被告ノ共謀ニ依リテ自己ノ債權ニ害ヲ生スルコト  
ヲ主張スル爲メニ其訴訟ニ参加スルヲ云フ

從参加ハ又之ヲ補助参加トモ云フ蓋シ從参加トハ他人ノ間ニ權利拘束トナリタル訴  
訟ニ於テ第三者カ當事者ノ一方ヲ補助スルカ爲メニ其訴訟ニ參加附随スルヲ云フ

告知参加トハ第三者カ訴訟ノ權利拘束ノ通知ニヨリテ其訴訟ニ参加スル場合ヲ云フ  
指名参加トハ第三者ヲシテ訴訟ヲ引受けシムルヲ以テ目的トナスモノニシテ左ノ要  
件ヲ具備スルコトヲ要ス(民訴六十二條)

- 一、被告ハ動産若クハ不動産ノ占有者ナルトキ
- 二、被告ハ第三者ノ名ヲ以テ之ヲ占有スルコト
- 三、訴訟ノ權利拘束ト爲リタルトキ

此三條件ヲ具フル時ハ被告ハ第三者ヲ指名シテ訴訟ニ参加セシムルコトヲ得ルモノ  
ナリ之ヲ指名参加ト稱ス

○主參加トハ如何ナルモノナリヤ(明治三十二年三月 新潟地方裁判所書記試験)

解説

主參加訴訟ハ甲乙間ノ訴訟ノ目的物ニ對シ第三者カ自己ノ爲メニ之ヲ請求セント欲スル場合及其甲乙ナル當事者ノ共謀ニ依リ第三者カ權利ヲ損害セラルヘキ場合ニ限リ之ヲ起スコトヲ得ルモノトス而シテ主參加訴訟ハ左ノ原則ニ依ルヲ要ス

イ、主參加ノ請求スル目的物ハ物權タルト債權タルトヲ問ハス又財産權上ノ請求タルト否トヲ問ハス其目的物カ本訴訟ノ目的物ト同一ナルコトヲ要ス然レトモ必スシモ本訴訟ノ目的物ノ全部ニ對スルコトヲ要セス其一部ヲ請求ノ目的物トスル場合ニ於テモ主參加訴訟ヲ起ストヲ得茲ニ云フ本訴訟トハ主參加ニ付テノ用語ナリト知ルヘシ

ロ、本訴訟カ權利拘束トナリタルヨリ權利拘束ノ終リニ至ルマテニ限ル

ハ、本訴訟カ第一審ニ繫屬中ナルト上級審ニ繫屬シタル場合トヲ問ハス其本訴訟カ初メ第一審トシテ繫屬シタル裁判所ニ當事者雙方ニ對シテ共同被告トシテ起スヘキモノトス而シテ此主參加訴訟ノ裁判籍ハ一ノ特別裁判籍ニシテ且專屬裁判籍ノ性質ヲ有ス

●訴訟參加ノ種類及ヒ其性質ヲ説明スヘシ(明治三十四年七月 福岡地方裁判所書記試験)

解説

訴訟參加トハ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ他人ノ訴訟ニ關與スルヲ云フ今之ヲ大別スルトキハ主參加及ヒ從參加ノ二トナル(五一條乃至六二條)

第一 主參加 主參加トハ他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟物ノ全部又ハ一部ヲ自己ノ爲メニ請求スルノ目的ヲ以テ其原被告ヲ共同被告トシテ爲シタル訴ヲ云フ以是觀之主參加人タルコトヲ得ヘキ者ハ其參加セントスル訴即チ本訴ノ係争物上ニ請求權ヲ有スル者ナラサルヘカラス而シテ主參加人ノ請求ハ必ス本訴ノ請求ト同一性質ナルコトヲ要ス又主參加訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ主參加人ノ請求セントスル目的物カ既ニ他人ノ間ニ起リタル訴訟ニ於テ權利拘束ト爲リタル場合ナルコトヲ要ス然レトモ第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ自己ノ債權ニ損害ヲ生スルコトヲ主張スル場合ハ前述ノ如ク本訴ノ目的物ヲ請求スルニアラスト雖法律ハ其債權保護ノ爲メ主參加訴訟ヲ許セリ之レ特例ナリ然リ而シテ主參加訴訟ノ目的物ハ有形物ナルト無形物ナルトヲ問ハス又財産權上ノ

請求ナルト人身權上ノ請求ナルトヲ問ハスト雖モ其參加ニ依リテ得ントスル所ノ目的物ハ本訴ノ目的自體ニ關スルモノナルコトヲ要シ主參加訴訟ハ本訴ノ原告ト共同被告ト爲スコトヲ要ス以上ノ如クナルヲ以テ主參加人ハ普通訴訟ノ原告ト同一ナル位置ニ居ルモノニシテ普通訴訟ノ原告カ爲スコトヲ得ヘキ總テノ行爲ハ主參加人モ亦之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス從テ主參加訴訟ヲ爲ス手續ノ如キモ亦普通訴訟手續ニ異ナルコトナシ

第二 從參加 從參加トハ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ原告若クハ被告ノ一方ヲ補助スル爲メ之レニ附隨スルヲ云フ故ニ主參加ハ獨立ノ訴訟ナレトモ從參加ハ附帶ノ訴訟ナル點ニ於テ異ナル而シテ從參加ニハ自カラ進ンテ參加スルモノト原告若クハ被告ノ請求ニ依リ參加スルモノトナリ前者ヲ純然タル從參加ト云ヒ後者ヲ告知參加ト云フ以下之レヲ分説スヘシ

(一) 從參加(純然タル) 從參加トハ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ原告若クハ被告ノ一方ヲ補助スル爲メ自ラ進ンテ之ニ附隨スルヲ云フ故ニ從參加人タルコトヲ得ヘキ者ハ其參加セントスル訴訟

ノ勝敗ニ依リテ自己ノ權利上ニ利害ノ關係ヲ有スル者ナラサル可カラズ從參加ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ本案ノ權利拘束中ナラサルヘカラスシテ其權利拘束中ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ於テモ參加スルコトヲ得而シテ從參加人ハ主タル原告若クハ被告ノ爲メニ攻撃防禦ノ方法ヲ施用シ且ツ總テノ訴訟行爲ヲ有效ニ行ヒ殊ニ期間内ニ故障支拂命令ニ對スル異議又ハ上訴ヲ爲ス權ヲ有ス然レトモ元來原告若クハ被告ニ附隨スルモノナルヲ以テ訴訟ノ程度ヲ妨クルヲ得ス又主タル原告被告ノ陳述ト抵觸スルトキハ主タル者ヲ以テ標準トス從參加人ハ承諾ヲ得テ訴訟ヲ擔任スルコトヲ得

(二) 告知參加 告知參加トハ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ノ原告若クハ被告ヲ補助スル爲メ其原告若クハ被告ノ告知ニヨリテ附隨スルモノヲ云フ告知參加ニ二種アリ分説スヘシ

(イ) 一般告知參加 民事訴訟法第五十九條ニ因リ原告若クハ被告若シ敗訴スルトキハ第三者ニ對シ擔保又ハ賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘント信シ又ハ第三者ヨリ請求ヲ受クヘキコトヲ恐ル、場合ニ於テハ訴訟ノ權利拘束間第三者ニ訴訟ノ告知ヲ爲スコトヲ得ト此場合ニ於テ第三者カ告知ニ依リ參加附隨

シタルトキハ一般告知参加ト稱シ前ニ述ヘタル從參加ノ規定ニ依ル

(ロ) 本人告知参加 茲ニ本人告知参加トハ第三者ノ名ヲ以テ占有スルコトヲ主張スル者其物ノ占有者トシテ被告トナリタルトキ本案ノ辯論前第三者ヲ指名シ之ニ陳述ヲ爲サシムル爲メ呼出ヲ求メタルニ因リ第三者カ参加スルヲ云フ故ニ此参加ハ物上權ノ訴ニ關シ且本案ノ辯論前ナルヲ要ス而シテ此参加ニ於テ第三者カ被告ノ主張ヲ争フトキ又ハ陳述ヲ爲サ、ルトキハ被告ハ原告ノ申立ニ應スルコトヲ得又第三者カ被告ノ主張ヲ正當ト認ムルトキハ被告ノ承諾ヲ得訴訟ヲ引受クルコトヲ得

●主参加及ヒ從参加ヲ詳説スヘシ(明治三十三年十月 京都地方裁判所書記試驗)

解説

本問ニ付テハ前問ノ解説ヲ参照シテ答案ヲ附スヘシ

●訴訟費用ノ負擔ハ如何ニ之ヲ定ムヘキヤ(明治三十三年九月 青森地方裁判所書記試驗)

解説

訴訟費用ノ負擔ヲ定ムルニハ一方ニ於テ負擔者ヲ見一方ニ於テ負擔ノ範圍ヲ見ル

第一 訴訟費用ノ負擔者

- (一) 原則 訴訟費用ハ其之カ原因ヲ作爲シタルヲ以テ其負擔者ト爲ス
- (二) 敗訴者カ訴訟費用ヲ負擔スル場合
  - (イ) 敗訴ノ原告若クハ被告ノ訴訟ノ費用ヲ負擔シ殊ニ訴訟ニ依リテ生シタル費用ヲ相手方ニ辨済スヘキモノトス即チ敗訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムルヲ原則トス
  - (ロ) 訴訟中ニ訴ヲ取下ケ請求ヲ拋棄シ又ハ相手方ノ請求ヲ認諾スル原告若クハ被告ハ敗訴者ニ准シ訴訟費用ヲ負擔セシム
  - (ハ) 當事者ノ各方一分ハ勝訴ト爲リ一分ハ敗訴ト爲ルトキハ其費用ヲ相消シ又ハ割合ヲ以テ分擔ス第一ノ場合ニ於テハ各當事者ハ支出シタル費用ヲ自ラ負擔シ他ノ一方ニ對シ返済ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ裁判所ハ相手方ノ要求ノ格外ニ過分ナルニ非ス且別段ノ費用ヲ生セサリシトキ又ハ判事ノ意見鑑定人ノ鑑定若クハ相互ノ計算ニ依リ要求額ヲ定ムルニ非レハ容易ニ過分ノ要求ヲ避クルコトヲ得サリシトキハ當事者ノ一方ニ訴訟費用ノ全部ヲ負擔セシムルヲ得

(ニ) 無益ナル上訴又ハ取下ケタル上訴ノ費用ハ之ヲ提出シタル原告若クハ被告ノ負擔ニ歸ス是又準敗訴者ナリ

(三) 勝訴者ヲシテ訴訟費用ヲ負擔セシムル場合

(イ) 被告直ニ請求ヲ認諾シ且其作為ニヨリ訴ヲ起スニ至ラシメタルニアラサルトキハ訴訟費用ハ原告ノ勝訴ト爲リタルニ拘ラス其負擔ニ歸ス

(ロ) 期日若クハ期間ヲ懈怠シ又ハ自己ノ過失ニヨリ期日ノ變更辯論ノ延期辯論續行ノ爲メニスル期日ノ指定期間ノ延長其他訴訟ノ遲滯ヲ生セシメタルトキハ例令勝訴者トナリタルニモ拘ハラス之カ爲ニ生シタル費用ヲ負擔ス

(ハ) 裁判所ハ無益ナル攻撃又ハ防禦ノ方法ヲ主張シタ原告被告ヲシテ本訴ノ勝訴者トナリタルニ拘ハラス其方法ノ費用ヲ負擔セシム

(ニ) 原告若クハ被告カ前審ニ於テ主張スルコトヲ得ヘカリシ事實又ハ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ新ニ提出スルニ依リ勝訴者ト爲リタルトキハ其原告若クハ被告ニ上訴ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシム

(四) 和解ノ場合ニ於ケル訴訟費用ノ負擔

當事者カ訴訟物ニ付キ和解ヲ爲ストキハ其訴訟費用及ヒ和解ノ費用ハ共ニ相消シタルモノト看做ス但別段ノ合意ヲナシタルトキハ此限ニアラス

(五) 共同訴訟人間ニ於ケル訴訟費用負擔

(イ) 主タル請求カ連帶ナルトキ 費用モ亦連帶シテ負擔ス

(ロ) 普通ノ權利ナルトキ 共同訴訟人ハ平等ニ費用ヲ負擔ス然レトモ利害ノ關係著シク相異ナルトキハ裁判所ハ其利害ノ關係ノ割合ニ從ヒ費用ヲ負擔セシムルコトヲ得又共同訴訟人中ノ或人ノミカ特別ノ行爲ヲ爲シタルトキハ他ノ共同訴訟人ハ此レカ爲メニ生シタル費用ヲ負擔セス然レトモ同一ニ確定スヘキトキハ代理關係ヲ有スルカ故ニ有害ナル行爲ノ外ハ一般ニ負擔セサルヘカラス

第二、訴訟費用負擔ノ範圍

訴訟費用負擔者カ負擔スヘキ費用ハ裁判所ノ意見ニ於テ相當ナル權利伸張又ハ權利防禦ニ必要ナリト認ムルモノニ限ル(七二條以下)

●口頭辯論調書ニ記載シテ明確ニスヘキ要件ヲ舉示スヘシ

(明治四十二年九月)  
山口地方裁判所書記試験)

解説

口頭辯論調書ニ記載スヘキ實質の事項即チ當事者ノ辯論ノ實質ハ其詳細ナルコトヲ要セス單ニ其要領ノミヲ記載スルヲ以テ足ルモ左ニ掲クル一乃至六ノ事項ハ必ス之ヲ調書ニ記載シテ明確ニセサルヘカラス但シ附録トシテ調書ニ添付シ且調書ニ附録トシテ表示シタル書類ニ記載スルモ調書ニ記載シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノナリ

- 一、 自白、認諾、拋棄及ヒ和解
- 二、 明確ニスヘキ規定アル申立及ヒ陳述
- 三、 證人及ヒ鑑定人ノ供述但シ其供述ハ以前聽カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル
- 四、 檢證ノ結果
- 五、 書面ニ作り調書ニ添付セサル裁判(判決、決定、命令)
- 六、 裁判ノ言渡

●調書ニ記載シテ明確ニスヘキ事項如何(明治四十二年三月)  
山口地方裁判所書記試験)

解説

問題ニハ單ニ調書トアルモ口頭辯論調書ヲ指スモノナルヲ以テ前問ト同一ノ解説ヲ附スヘキモノナリ

●送達ノ意義及種類ヲ説明スヘシ(明治四十二年六月)  
福岡地方裁判所書記試験)

解説

第一 送達ノ意義

送達トハ訴訟ニ關スル書類ヲ訴訟關係人ニ交付スル手續ヲ謂フ民事訴訟ニ於テ當事者若クハ裁判所ノ爲スヘキ訴訟行爲ニ付キ書類ノ交付ヲ要スル場合尠ナカラス此場合ニ於テハ當事者ヨリ裁判所ニ對スルモノノ外ハ總テ送達ノ手續ニ依ラサルヘカラサルモノナリ

第二 送達ノ種類

送達ノ種類ハ之ヲ大別シテ通常送達方法ト公示送達方法トノ二種ト爲ス

第一 通常送達 ハ告知スヘキ事項ノ記載シタル書類ヲ交付シテ之ヲ爲ス通常送達方法ニ左ノ三種アリ

- (一) 送達人ニ依ル送達 トハ執達吏又ハ郵便配達人ニ依ル送達ナリ
- (二) 郵便ニ付スル送達 トハ假住居ノ届出ヲ爲ササル場合ニ於テノミ爲ス所ノ送達方法ニシテ其郵便ニ付シタルトキヲ以テ送達ヲ完了シタリト爲スモノ是ナリ

(三) 囑託ニ依ル送達 トハ官廳又ハ官吏ニ囑託シテ爲ス所ノ送達ナリ

第二 公示送達 トハ送達スヘキ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼附シ之ヲ以テ送達ヲ爲シタリト看做スモノニシテ原告若クハ被告ノ現在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲スヘキ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハス若クハ之ニ從フモ其效無キコトヲ豫知スルトキニナスモノナリ

●書類送達ノ方法ヲ詳記スヘシ(明治三十七年九月安濃津地方裁判所書記試験)

●送達ノ種類テ舉ケ之カ手續ノ種類ヲ詳説スヘシ(明治三十二年四月名古屋地方裁判所書記試験)

●送達ノ方法ノ種類ヲ舉ケヨ(明治三十三年五月同上)

●送達ノ種類(明治三十四年五月青森地方裁判所書記試験)

右四問共前ニ福岡地方裁判所ノ問題ニ付キ爲シタル送達ノ種類ニ關スル解説ヲ参照

シテ答解ヲ附スヘシ

●郵便ニ依リテ爲ス送達ト郵便ニ付シテ爲ス送達トハ如何ナル差異アルヤ

(明治四十二年十月松山地方裁判所書記試験)

解説

郵便ニ依リテ爲ス送達ト郵便ニ付スル送達トハ左ノ點ニ於テ異ナル

(一) 郵便ニ付スル送達ハ受訴裁判所ノ所在地ニ住居並ニ事務所ヲ有セサル原告若クハ被告カ假住所選定ノ届出ヲ怠リタル場合ニ爲ス方法ナルモ郵便ニ依ル送達ハ然ラス

(二) 郵便ニ依ル送達ハ郵便配達吏ヲ以テ送達吏ト爲スモノナルモ郵便ニ付スル送達ニハ送達吏ナルモノナシ

(三) 郵便ニ依ル送達ハ送達吏タル郵便配達吏カ一般ノ規定ニ從ヒ送達ヲ爲スニアラサレハ其效力ヲ生セサルモ郵便ニ付スル送達ハ郵便ニ付シタル時即チ書類ヲ郵便函ニ投入シタル時ヲ以テ送達ヲ爲シタルモノト看做サレ敢テ其書類ノ到達シタルト否トヲ問ハサルモノナリ



●送達ノ種類及ヒ其效力(明治四十一年三月  
山形地方裁判所書記試験)

解説

第一 送達ノ種類

前ニ解説シタル所ヲ参照スヘシ

第二 送達ノ效力

民事訴訟ニ於ケル送達ノ目的ハ訴訟ニ關スル書類ヲ其關係人ニ交付シ其者ヲシテ送達セラレタル書面ニ記載シタル事項ヲ知ラシムルニアラサルヲ以テ有效ニ送達アリタルトキハ爾後其送達ヲ受ケタル者ハ其書類ニ記載セラレタル事項ヲ知ラサリシコトヲ以テ抗辯ノ事由ト爲スコトヲ得サルニ至ルノ效力ヲ生スルモノナリ

●訴訟書類ハ何人ニ送達スルヲ以テ有效ト爲スヤ(明治三十四年三月  
大分地方裁判所書記試験)

解説

訴訟書類ハ何人ニ送達スルヲ以テ有效ト爲スヤ場合ニ依リテ異ナル左ノ如シ

一、普通ノ場合 原則トシテハ次號以下ニ掲クル場合ノ外ハ訴訟書類ハ其被働者即

チ當事者本人ニ之ヲ爲スニアラサレハ其效力ヲ生セス然レトモ財産權上ノ訴訟ニ付テハ總理代人ニ之ヲ爲シ又ハ商業ヨリ生スル訴訟ニ付テハ代務人ニ之ヲ爲スヲ以テ本人ニ爲シタルト同一ノ效力ヲ生ス又訴訟代理人アルトキハ送達ハ其代理人カ委任ノ趣旨ニヨリ原告若クハ被告ノ代理ヲ爲ス權ヲ有スルトキニ限り代理人ニ之ヲ爲スヲ通則ト爲セトモ固ヨリ其本人ニ爲シタル送達モ効アリ

二、訴訟無能力者ノ場合 訴訟能力ヲ有セサル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲スニ非ツレハ其効ヲ生セス又天然的行爲能力ヲ缺ク者即チ公又ハ私ノ法人及其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル會社又ハ社團等ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當人ニ之ヲ爲シ若シ數人アルトキハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ送達ノ効ヲ生ス

三、豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ノ場合 此等ノ者ニ對スル送達ハ其所屬長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ササレハ其効ヲ生セス

四、囚人ノ場合 囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲スニアラサレハ其効ヲ生セス

五、受取人ノ不在ナル場合送達ヲ受ク可キ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居

ニ於テスル送達ハ成長シタル(獨國判例十五歳以上)同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スニ依リ其效ヲ生ヌ又住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ事務所ニ於テ之ニ出會ハサルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人又ハ筆生(辯護士ノ)ニ之ヲ爲スニ依リ送達ノ效ヲ生ヌ又前ノ二號ノ場合ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付キ差支アルトキハ送達ハ事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲スニ依リテ其效ヲ生ヌ(一三八條乃至一四七條)

●送達ヲ執行スルニ付キ裁判官ノ許可ヲ要スル場合及ヒ其理由如何

(明治三十三年十一月)長野地方裁判所書記試験

解説

此場合ハ即執達更カ送達ヲ爲スヘキ時ニ於テ日曜日及一般ノ祝祭日ニ該當スルトキ並ニ夜間即日没ヨリ日出マテノ間ニ於テ爲スヘキ送達ニシテ郵便ニ付セサルモノハ皆裁判官ノ許可ヲ要ス而シテ其理由ハ蓋シ送達ハ必ラス正當ノ時期ニ於テセサル可ラス夫ノ夜間ニナスカ如キ又ハ日曜日祝祭日ニ爲スカ如キハ普通法律ノ認容セサル

所ナリ然ルニ特ニ之ヲ認メ裁判官ノ許可ヲ得テ送達ヲ行フ所以ノモノハ畢竟事件ノ急迫ヲ要スル場合多キノ故ナラム乎

●夜間送達ノ有效ナル場合(明治三十七年十一月)福井地方裁判所書記試験

解説

夜間ノ送達ハ一ノ例外ニ屬スルヲ以テ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲スヘキ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事又ハ受命判事若クハ受託判事ノ完結スヘキ事件ニ在テハ其判事ノ特別許可ヲ受ケタル場合ニ限り有效ナルモノトス是レ蓋シ夜間ハ普通人民ノ休息スヘキ時間ナルヲ以テ急速ヲ要スルモノニアラサル限リハ之ヲ侵サシメサルノ趣旨ニ出テタルモノニ外ナラス而シテ郵便ニ付スル送達ノ場合ニハ其郵便ノ投函ト同時ニ送達ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ別ニ此ノ許可ヲ要セスシテ有效ナリ

●公示送達ヲ爲ス場合及ヒ其送達ノ方法ハ如何

(明治三十二年四月)長野地方裁判所書記試験  
(明治三十三年十二月)鳥取地方裁判所書記試験  
(明治三十四年五月)松江地方裁判所書記試験

第一、公示送達ヲ爲ス場合

- (イ) 送達ヲ受ク可キ原告若クハ被告ノ所在地ノ知レサル場合
- (ロ) 外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キ場合ニ於テ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託スルノ規定ニ依ルコト能ハサル場合
- (ハ) 外國ニ於テ送達ヲ施行ス可キ場合ニ於テ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託スルノ規定ニ依ルモ其效ナキコトヲ豫知スル場合
- (ニ) 公示送達ヲ爲スヘキ場合ハ以上三箇ノ場合ナリト雖モ以上三箇ノ場合ニハ常ニ公示送達ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス何トナレハ公示送達ヲ爲スヘキ場合ハ其事件力裁判ヲ爲スヘキモノタルヲ要スレハナリ故ニ訴訟ノ性質ヲ有セサル通知ノ如キハ公示送達ノ方法ニ依ルコトヲ得ス即チ民事訴訟法第三八二條第二項第五四二條第六一〇條第六一三條及第六二九條等ノ場ニハ公示送達ヲ許サス

第二、公示送達ノ方法

公示送達ハ相手方ノ申立ニヨリノミ之ヲ爲スモノニシテ職權ヲ以テ之ヲ爲スコトナシ其方法如左

- (イ) 交付スヘキ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼付シテ之ヲ爲ス判決及ヒ決定ニ在リテハ其裁判ノ部分ノミヲ貼付ス
  - (ロ) 右ノ外裁判ハ送達スヘキ書類ノ抄本ヲ一個又ハ數個ノ新聞紙ニ一回又ハ數回揭示スヘキコトヲ命スルコトヲ得其抄本ニハ裁判所當事者並ニ訴訟物及ヒ送達ス可キ書類ノ要旨ヲ掲クルコトヲ要ス
- 附言本問ト同一趣旨ニ出ツル問題尙ホ各所ノ試験ニ課セラレタルヲ以テ參考ノ爲メ左ニ其問題ヲ掲クヘシ

● 公示送達ヲ爲スヘキ場合及其手續如何 (明治三十三年十一月 神戸地方裁判所書記試験)

● 公示送達ハ如何ナル場合ニ於テ爲ス事ヲ得ルヤ及其手續ハ如何 (明治三十三年九月 熊本地方裁判所書記試験)

● 公示送達ヲ爲スヘキ場合及公示送達ヲ爲ス方法ヲ説明スヘシ (明治四十二年九月 山口地方裁判所書記試験)

● 期日ノ變更辯論ノ延期及辯論續行期日ノ指定ノ區別ヲ説明セヨ (明治三十三年六月水戸地方裁判所書記試験)

(明治四十年四月名古屋地方裁判所書記試験)

解説

期日ノ變更トハ期日ノ開始前ニ於テ定リタル期日ヲ取消シ之ヲ他ノ一定ノ時期ニ變換スルヲ云フ  
辯論ノ延期トハ期日ノ開始セラレタル後其辯論ヲ將來ノ一定ノ時期ニ遷移スルヲ云フ之ヲ要スルニ期日ノ變更ト辯論ノ延期トハ事件呼上ノ前後ヲ以テ之カ區別ヲナスモノトス

辯論續行期日ノ指定トハ最初指定ノ期日ニ辯論ヲ開始シタルモ其期日内ニ辯論ヲ完結スルコト能ハサリシカ爲メニ更ニ其辯論ヲ續行スヘキ期日ヲ新ニ指定スルヲ謂フ故ニ此續行期日ノ指定ハ既ニ口頭辯論ノ開始セラレタル後ニアル點ニ於テ前ノ二者ト異ナルモノナリ

●期日ノ變更辯論ノ延期及ヒ辯論續行ノ差異ヲ擧ケテ説明スヘシ

(明治四十二年二月)  
千葉地方裁判所書記試験)

解説

本問モ亦前問ト異ナル所ナキヲ以テ解説ヲ省ク

●期日ト期間ノ差異(明治三十四年五月)  
青森地方裁判所書記試験)

解説

期日トハ裁判所ニ於テ又ハ裁判所ノ指定シタル一定ノ場所(裁判外ノ地ニ於テ證據調ヲ爲ストキノ如キ場合)ニ於テ訴訟上ノ行爲ヲ爲スニ關シ裁判所職員ト人民ト出會ノ爲メニ定メラレタル時期ヲ云フ例ヘハ口頭辯論期日ノ如キ證人訊問期日ノ如キ是ナリ期間トハ訴訟行爲ヲ爲ス可キ一定ノ時間ヲ云フ故ニ或ハ時ヲ定テ之ヲ定メ或ハ日ヲ以テ之ヲ定メ或ハ月又ハ年ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス例ヘハ上訴期間ノ如キ答辯書差出ノ期間ノ如キ是レナリ

解説

訴訟手續ノ中斷中止休止ハ之ヲ總稱シテ訴訟手續ノ停止ト謂ヒ何レモ訴訟手續ノ進行ヲ停止スルモノナルモ此三者ノ間ニハ左ノ如キ區別存スルモノナリ

第一 中斷ハ當事者又ハ裁判所ノ行爲ニ依ラスシテ或一定ノ事實ノ發生ト共ニ當然訴訟手續ヲ停止スルモノニシテ中止ハ或一定ノ事實ノ存在スル場合ニ當事者ノ申立ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ訴訟手續ヲ停止シ休止ハ訴訟當事者ノ意思ノミニ因リテ訴訟手續ノ進行ヲ停止スルモノナリ

第二 中斷中止ハ不變期間ナルト否トヲ問ハス其進行ヲ停止スルモノナルモ之ニ反シテ休止ハ不變期間ノ進行ヲ停止スルコト能ハサルモノナリ

第三 中斷中止ハ其原因タル事實ノ存続スル間繼續スルモノナルモ休止ハ更ニ當事者ノ一方ヨリ口頭辯論ノ期日ヲ定ムヘキコトヲ申立ツルマテ繼續スルモノナリ但シ當事者カ一ケ年内ニ此申立ヲ爲ササルトキハ本訴及ヒ反訴ヲ取下ケタルモノト看做サルヘキモノトス

解説

●訴訟手續ノ中止休止ノ區別及ヒ其效果如何(明治三十四年三月大分地方裁判所書記試験)

訴訟手續ノ中止トハ或條件ノ發生シタルトキ當事者ノ申立ニ依リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ命令シタルニ依リ訴訟手續ヲ停止スルヲ云ヒ訴訟手續ノ休止トハ當事者ノ合意ヲ以テ訴訟手續ノ進行ヲ停滯スルモノヲ云フ故ニ中止ノ原因ハ偶然ナル事實ヲ條件トシタルモノナレトモ休止ノ原因ハ當事者ノ明示又ハ默示ノ合意ニ依ル即チ中止トス(イ)原告若クハ被告カ戰時ノ兵役ニ服スルトキ又ハ官廳ノ命令戰爭其他ノ事變ニ因リ受訴裁判所ト交通絶ヘタル地ニ在ルトキ(一八四條)(ロ)主參加ノ訴アル時(五

二條)(ハ)訴訟ノ全部又ハ一部ノ裁判カ他ニ繫屬スヘキ訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキ(一一一條)(ニ)民事訴訟中罰スヘキ行為ノ嫌疑生シタルトキ(一二二條)等ノ原因アル場合ニ之ヲ爲シ休止ハ口頭辯論期日ニ當事者双方出頭セサルトキ又ハ出頭スルモ何等ノ辯論ヲ爲ササルトキハ申立ナキヲ以テ欠席判決ヲ爲ス能ハサルカ故ニ休止ノ合意ヲ爲セルモノト看做シ更ニ辯論期日ヲ定ムヘキコトヲ申立ツルマテ之ヲ爲スモノトス而シテ兩者效果ハ左ノ如シ

一、中止ノ效力 中止ハ各期間ノ進行ヲ止メ而シテ中止ノ終ハリタル後更ニ全期間ノ進行ヲ始ムルモノナリ而シテ茲ニ所謂各期間トハ不變期間ナルト否トヲ問ハサルナリ然レトモ年ヲ以テ定メタル期間一旦確定シタルトキハ如何ニ理由アルモ變更スルコト能ハス中止ノ間本案ニ付キ爲シタル訴訟ノ行為ハ無効トス然レトモ中止アリタルカ爲メ特ニ要スヘキ訴訟行為ヲ妨ケス

二、休止ノ效力 休止ハ單ニ訴訟手續ヲ停止スルニ止マリ中止ノ如ク其進行ヲ止メタル期間中ニ爲シタル手續ヲ無効ト爲スモノニ非ス故ニ其訴訟手續開始シタルトキハ既ニ生シタル手續ヲ繼受シテ爾後ノ手續ヲ爲スヘキモノナリ又休止ハ當事者ノ合意ヲ以テ爲スヘキモノナルヲ以テ公益ニ關スル手續ハ當事者ノ合意ヲ

以テ妄リニ之ヲ停止スルヲ許サス即チ不變期間又ハ第七十五條第一項ニ規定スル原狀回復申立ノ期間ハ之ヲ伸長スルヲ許サス

●訴訟手續ノ中斷、中止、休止ノ性質及ヒ其效果ハ如何

(明治三十三年三月  
京都地方裁判所書記試験)

解説

第一 性質

訴訟手續ノ中斷、中止及ヒ休止ハ共ニ訴訟手續ノ進行ヲ停止シ且ツ既ニ經過シタル期間ノ效力ヲ消滅セシムルノ性質ヲ有ス唯中斷ハ一定ノ原因ノ發生ト共ニ當然手續ヲ停止シ又中止ハ或事實ノ生シタル場合ニ當事者ノ申立ニ因リ若クハ裁判所ノ職權ヲ以テ訴訟手續ノ停止ヲ命スルニヨリテ生シ休止ハ訴訟當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ因リテ手續ヲ停止スルモノナルノ點ニ於テ三者其性質ヲ異ニスル所ナリ

第二 效力

中斷ハ其效力中止ト同一ナルヲ以テ前問ノ解説ヲ參照シテ答案ヲ附スヘシ

○地方裁判所訴訟手續ト區裁判所訴訟手續ノ大差如何

(明治三十三年三月  
和歌山地方裁判所書記試験)

解説

今兩者訴訟手續上ノ差異ノ大ナルモノヲ擧クレハ凡ソ左ノ如シ

- 一、訴ヲ提起スルニ地方裁判所ハ必ス訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スヲ要スルモ區裁判ハ必ス書面タルヲ要セス口頭ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得
- 二、地方裁判所ニ於テハ訴狀ノ送達ト口頭辯論ノ期日トノ間ニハ小クトモ二十日ノ期間ヲ存スルコトヲ要スルモ區裁判所ハ三日ノ時間ヲ要スルノミ且急迫ナル場合ニハ何レモ之レヲ二十四時マテ短縮スルコトヲ得
- 三、區裁判所ニ於テハ原告若クハ被告ハ其申立及事實上ノ主張ニシテ豫メ通知スルニアラサレハ相手方ニ於テ之ニ對シテ陳述ヲナシ得ヘカラサルモノヲ口頭辯論ノ前直接ニ相手方ニ通知スルコトヲ得ルモ地方裁判所ハ口頭辯論前ニ書面ニテ差出スコトヲ要ス
- 四、地方裁判所ニ於テハ原則トシテ準備書面ノ交換ヲ要スルモ區裁判所ニ於テハ其

交換ヲ要セス

一三四

五、地方裁判所ニ於テハ訴訟能力者タル親族又ハ雇人ヲ以テ訴訟代理人ト爲スニハ辯護士アラサル場合ニ限ルモノナルモ區裁判所ニ於テハ辯護士在ルトキト雖トモ此等ノ者ヲ訴訟代理人ト爲スコトヲ得

六、區裁判所ニ於テハ當事者ハ通常ノ裁判日ニハ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付キ辯論ヲナスコトヲ得ルモ地方裁判所ハ然ラス

其他和解ヲナシ又ハ督促手續ニ於テ仕拂命令ヲ發スル等ハ一ニ區裁判所ニ屬シテ地方裁判所ニ屬セス

尙區裁判所ト地方裁判所トノ訴訟手續上ノ差異ハナキニアラサルモ其重ナルモノハ概ネ以上ノ如シ

●地方裁判所ト區裁判所トノ間ニ於テ訴訟手續上如何ナル差異アリヤ

(明治四十二年九月)  
高知地方裁判所書記試驗

解説

本問モ亦其題意ニ於テ前問ト異ナル所ナシ

●訴狀ニ具備スヘキ條件ヲ擧ケテ之ヲ説明スヘシ

(明治三十二年三月新潟地方裁判所書記試驗)  
明治三十二年八月神戸地方裁判所書記試驗

解説

訴狀ニ具備スヘキ條件ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 一、當事者及裁判所ノ表示
- 二、起シタル請求ノ一定ノ目的
- 三、請求ノ一定ノ原因
- 四、一定ノ申立

以上ノ要件ヲ具フルヲ要ス而シテ其之ヲ要スル所以ヲ略説スレハ當事者ヲ表示シテ原告及被告ノ誰ナルヲ表明シテ誤ナカラシムルコトヲ要スルカ故ナリ又裁判所ヲ表示スル場合ニハ通常其裁判所ヲ代表スル監督判事又ハ其所長ノ名ヲ記スルヲ例トス又起シタル訴ノ一定ノ目的ヲ記載セサレハ原告ノ求メントスル利益即目的カ不明ナルカ故ナリ又一定ノ申立ヲ訴狀ニ認ムルハ其請求ノ主旨ヲ明ニ表示スルモノナリ之レ裁判所ハ請求以外ニ判決ヲナスヘキモノニアラサレハナリ

●訴訟物ノ權利拘束ノ意義及ヒ其效力如何

(明治四十三年十一月長野地方裁判所書記試驗)  
(明治四十二年十月鳥取地方裁判所書記試驗)

解説

第一 權利拘束ノ意義

訴訟物ノ權利拘束トハ訴狀ノ送達若クハ訴ノ提起ニ因ル訴訟法上並ニ實體法上ニ於ケル效果ヲ總稱ス換言スレハ當事者ノ申立ニ因リ裁判所カ訴訟ニ付キ裁判ヲ爲スヘキ權利義務ヲ有スル訴訟ノ程度ニ於ケル效果ヲ謂フ

第二 權利拘束ノ效力

訴訟物ニ付キ權利拘束發生スルトキハ左ノ效力ヲ生ス

- 一、當事者ハ權利拘束ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得權利拘束ノ抗辯トハ訴訟ノ權利拘束中同一ノ訴訟物ニ付キ當事者カ同一ノ裁判所又ハ他ノ裁判所ニ本訴若クハ反訴ヲ以テ請求ヲ爲シタル場合ニ相手方カ此抗辯ニ依テ其訴訟ニ應スルコトヲ拒ム抗辯ヲ云フ而シテ當事者カ此抗辯ヲ爲シ得ルニハ二箇ノ訴訟カ必スシモ同一ノ訴訟手續ヲ以テ提起セラルルヲ要セス
- 二、受訴裁判所ノ事物及ヒ土地ノ管轄ハ訴訟物ノ價額ノ増減住所ノ變更其他管轄ヲ定ムル事情ノ變更ニ因リテ變換セラルルコトナシ

三、原告ハ被告ノ承諾ナクシテ訴ヲ變更スルコトヲ得ス茲ニ訴ノ變更トハ訴ノ申立及ヒ原因ノ變更ヲ云フ被告ノ承諾ハ口頭辯論ノ際之ヲ爲シ明示タルト默示タルトヲ問ハス而シテ原告カ訴ノ原因ヲ變更セスシテ左ノ三事項ヲ爲シタルトキハ訴訟法上之ヲ訴ノ變更ト看做ナス

- (イ) 本案又ハ附帶ノ請求ニ付キ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルコト
- (ロ) 最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルコト
- (ハ) 事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト

四、訴カ權利拘束中ニ在ルトキハ被告ハ原告ニ對シ反訴ヲ提起スルコトヲ得

●權利拘束ハ如何ナル場合ニ生シ又如何ナル效力ヲ有スルカラ詳述スヘシ

(明治三十三年三月)  
(福岡地方裁判所書記試驗)

解説

第一 權利拘束ヲ生スヘキ場合

權利拘束トハ當事者ノ申立ニ依リ裁判所カ訴訟ニ付キ裁判ヲ爲スヘキ權利義務ヲ

法律學 民事訴訟法



有スル訴訟ノ程度ヲ云フ訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲スモノナレトモ其提起ハ未タ法律上何等ノ效力ヲ生ス可キモノニアラス裁判所カ其訴狀ヲ相手方ニ送達スルニ因リテ始メテ權利拘束ヲ發生ス然レトモ權利拘束ヲ發生スルニハ常ニ訴狀ノ送達ヲ必要トスルモノニアラスシテ訴訟ノ進行中當事者カ新ナル請求ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テハ口頭辯論ニ於テ其請求ヲ爲シタルトキヨリ權利拘束ノ效力ヲ生ス又支拂命令ノ場合ニ於テハ債務者ニ支拂命令ヲ送達スレハ之ニ依テ權利拘束ヲ發生スルモノトス但シ右等ノ場合ニ權利拘束ヲ生スルニハ訴訟成立條件ニ欠缺ナキコトヲ要スルハ勿論ナリ

第二 權利拘束ノ效力

前問ノ解説ヲ參照スヘシ

● 權利拘束ノ效力如何

明治三十二年四月大阪地方裁判所  
明治三十三年十一月宮崎地方裁判所書記試驗  
明治三十四年四月富山地方裁判所

解説

前問ノ解説ニ同シ

● 左ノ條文ニ説明ヲ附スヘシ(明治三十三年六月  
水戸地方裁判所書記試驗)

第九十六條 原告カ訴ノ原因ヲ變更セシテ左ノ諸件ヲ爲ストキハ被告ハ異議ヲ述フルコト得ス

第一 事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト

第二 本案又ハ附帶ノ請求ニ付訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルコト

第三 最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ因リ賠償ヲ求ムルコト

解説

第一 事實上又ハ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルコト 事實上ノ申述ヲ補充スルトハ訴狀又ハ準備書面ニ掲ケタル事實上ノ申述ノ足ラサル所ヲ補フヲ云フ又事實上ノ申述ヲ更正ストハ必スシモ員數ノ誤若クハ書損等ヲ更正スルニ止ラスシテ或ハ契約ノ日時ヲ改メ又ハ物權ノ訴ニ於テ其取得ノ事實ヲ變更スルカ如シ次ニ法律上ノ申述ヲ補充シ又ハ更正スルトハ適用スヘキ法則其他法律上ノ解釋ヲ補充更正スルカ如シ

第二 本案又ハ附帶ノ請求ニ付訴ノ申立ヲ擴張シ又ハ減縮スルコト 訴ノ申立ヲ擴張スルトハ訴ノ申立ヲ補充並ニ擴張スルコトヲ包含ス例之初メ千圓ノ請求ヲナシ後其額ヲ増加シテ千五百圓トナスカ如シ又申立ノ減縮ノ場合ハ訴ノ一部ノ取下ト

ナルコトアルカ故ニ此場合ニ於テハ取下ノ規定ヲ適用スヘク又或場合ニハ拋棄トナルカ故ニ拋棄ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

第三 最初求メタル物ノ滅盡又ハ變更ニ依リ賠償ヲ求ムルコト 例ヘハ所有權ヲ主張シテ家屋取戻ノ訴ヲ起シタルニ會テ火災ニ依テ其家屋燒失シタル時ハ之ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ルカ如シ  
以上其概略ヲ説明セルニ過キス

●反訴トハ如何又反訴ハ如何ナル場合ニ提起スヘキモノカ

(明治三十二年四月名古屋地方裁判所書記試驗)  
明治三十三年三月福岡地方裁判所書記試驗

解説

反訴トハ訴訟カ權利拘束トナリタル後ニ於テ其訴訟ノ被告ヨリ原告ニ對シ一定ノ請求ニ付テノ判決ヲ受クル爲メ同一裁判ニ提起スル所ノ訴ヲ云フ元來被告ヲシテ原告ニ對シ反訴ヲ提起スルコトヲ許ス所以ハ主トシテ原告ノ請求ニ對スル防禦法トシテ其請求ヲ確定セシムルヲ目的トス故ニ一種ノ防禦法ナリ然レトモ固ヨリ訴ナルヲ以テ裁判所ハ之ヲ審理裁判スルノ義務アルハ論ヲ俟タス反訴ハ前述ノ如キ者ナルヲ以

テ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ提起シ得ヘキ者ニアラス必スヤ左ノ諸制限ニ從ハサル可ラス(二〇〇條二〇一條)

- (イ) 被告ヨリ原告ニ對シ起ス所ノ訴ナルヲ要ス
- (ロ) 本訴カ管轄裁判所ニ於テ權利拘束中ナルヲ要ス
- (ハ) 答辯書差出期間前ニ提起スルヲ原則トス
- (ニ) 反訴ヲ以テ非財產權上ノ請求又ハ專屬管轄ノ規定アルヲ請求ヲ爲ストキハ本訴ヲ管轄スル裁判所ハ反訴ニ對シテモ亦管轄權アル場合ナルコトヲ要ス普通ノ場合ニ於テハ本訴ノ管轄裁判所ハ反訴トシテ爲ス所ノ請求ニ對シ管轄權ヲ有スルト否トヲ問ハス苟モ反訴ト云フ以上ハ總テ本訴ノ管轄裁判所ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得

- (ホ) 本訴ニ對シ法律上反訴ヲ許シタルコトヲ要ス故ニ爲替訴訟及ヒ證書訴訟又ハ反訴ニ對シテハ反訴ヲ爲スコトヲ得ス
- (ヘ) 我訴訟法ヲ一見スルトキハ以上五箇ノ條件ヲ具備スルトキハ本訴ト全ク無關係ノ請求ト雖モ尙ホ反訴トシテ提起スルコトヲ得ヘキカ如シ斯ノ如キハ反訴ノ法律上ノ性質ニ反シ且立法ノ趣旨ヲ無視スルモノト云ハサルヘカラス故ニ法

文ニ於テハ何等ノ規定無キモ反訴ノ立法上ノ趣旨ヨリ推測スルトキハ本訴ト相殺シ得ヘキ請求若クハ本訴ト權利上又ハ事實上ノ關聯アルモノニ限ルト解スルヲ妥當トス

●訴ノ取下ノ方法及其取下ノ效果如何(明治四十年五月 秋田地方裁判所書記試驗)

解説

第一 訴取下ノ方法

訴ノ取下ハ裁判所ニ書面ヲ差出シテ之ヲ爲スカ或ハ口頭辯論ニ於テ訴ノ取下ヲ爲スヘキ旨ヲ陳述シテ之ヲ爲スモノナリ但シ訴ノ取下ハ被告ノ口頭辯論開始後ニ於テハ被告ノ承諾アルコトヲ必要トスルヲ以テ取下ノ方法ハ口頭辯論ノ開始ノ前後ニ依リテ其法則ヲ異ニス

甲 書面ヲ以テ爲ス場合 此場合ニ於テハ(一)被告ノ辯論ノ始マル前ナルトキハ原告カ訴ノ取下ヲ爲スヘキ旨ノ書面ヲ受訴裁判所ニ差出スヲ以テ足ルモ(二)其辯論開始後ナルトキハ(イ)原告カ書面ヲ差出シ後日口頭辯論ニ於テ取下ヲ爲スヘキ陳述ヲ爲シ被告カ之ニ同意ヲ爲スカ(ロ)或ハ原告ノ取下ノ書面ト被告ノ承

諾書ト二箇ノ書面ヲ同時ニ差出スコトヲ要ス

乙 口頭ノ供述ヲ以テ書ス場合 此場合ニ於テハ(一)辯論開始前ニハ單ニ原告カ訴ノ取下ヲ爲スノ意思ヲ表示スルヲ以テ足ルモ(二)辯論開始後ニ於テハ原告ノ陳述ニ被告カ承諾ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ爲スニ因リテ始メテ訴取下ノ效果ヲ生スルモノナリ

第二 訴取下ノ效果

訴ノ取下ハ恰モ訴ノ提起ナカリシト同一ノ状態ニ復セシムルモノニシテ實體法上ニ於テハ時効中斷又ハ債務者ノ附連滯等ノ效力ヲ生セス又訴訟法上ニ於テハ權利拘束ノ總テノ效力ヲ消滅セシムルト同時ニ原告ノ爲シタル訴提起ノ行爲ヲモ共ニ其效力ヲ失ハシムルモノナリ  
訴ノ取下ハ原告ノ私法上ノ請求權ヲ拋棄スルモノニアラサルヲ以テ原告ハ同一ノ請求ニ付キ再ヒ訴ヲ提起スルコトヲ得ルハ勿論ナリ然レトモ其取下タル訴ノ訴訟費用ハ原告ニ於テ其全部ヲ負擔セサルヘカラサルモノナリ故ヲ以テ原告若シ其訴訟費用ヲ辨濟セスシテ再ヒ同一ノ訴ヲ提起シタルトキハ被告ハ訴訟費用未済ノ妨訴抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルモノナリ

訴ノ取下ハ反訴ヲ消滅セシムルノ效力ヲ生スト爲スモノアルモ反訴モ亦一ノ獨立ノ訴ナルヲ以テ本訴ノ取下ハ反訴ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニアラスト解スルヲ正當ナリトス

●各審ニ於ケル訴訟取下ノ手續及ヒ取下ノ效力如何

(明治三十三年五月)  
高松地方裁判所書記試験

解説

本問ニ付テハ前問ノ解説ヲ参照シテ答解ヲ附スヘシ但シ問題ニハ各審ニ於ケルトアルヲ以テ訴ノ取下ハ第一審ノ口頭辯論ノ終結以前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要シ控訴審以上ニ在リテハ被告ノ承諾アルトキト雖トモ訴ノ取下ヲ許ササルモノナルヲ以テ第一審以外ニハ訴ノ取下ナルモノナキコトヲ必ス答案中ニ記入セサルヘカラス(或ハ本問ヲ解シテ訴ノ取下及控訴、上告ノ取下ヲ問フモノナリトスル者アリト雖トモ是非ナリ如何トナレハ控訴上告ノ取下ハ單ニ上訴權ヲ拋棄スルニ止マリ訴訟其レ自體ヲ取下クルモノニアラス而シテ問題ハ訴訟ノ取下ト明記スレハナリ)

●妨訴ノ抗辯トハ何ソヤ例ヲ舉ケテ説明スヘシ(明治四十二年八月)  
札幌地方裁判所書記試験

解説

妨訴抗辯トハ原告ノ請求ニ對シテ被告ノ提出スル訴訟抗辯ノ一種ニシテ法律ヲ以テ特定シタル訴訟條件ノ欠缺ヲ主張シ是ニヨリ被告カ本案ノ辯論ヲ拒ミ其抗辯ノミニ付キ特ニ判決ヲ受クルコトヲ得ル抗辯ヲ謂フ例ヘハ原告カ被告ニ對スル請求ニ付キ訴ヲ提起シタル後其訴ヲ取下クルコトナクシテ更ニ同一ノ請求ニ付キ同一ノ裁判所又ハ他ノ裁判所ニ訴ヲ提起シタルトキハ被告ハ其請求ハ既ニ裁判所ニ繫屬シ權利拘束ヲ發生シ居ルヲ以テ後ノ訴ニハ應訴スルノ義務ナキコトヲ主張シテ後ノ訴ノ却下ヲ求ムルカ如シ而シテ此ノ妨訴抗辯ニハ七種アリ(其如何ナルモノナルカニ付テハ次問ヲ參照スヘシ)

●妨訴抗辯ヲ列舉シ各其意義ヲ説明スヘシ(明治三十三年二月)  
宮崎地方裁判所書記試験

解説

現行法上妨訴抗辯ニ屬スルモノハ左ノ七種ナリ

第一 無訴權ノ抗辯 此抗辯ハ原告ノ提起シタル訴ハ通常裁判所ニ於テ審理スヘ

キ事件ニアラス随テ被告ハ本案ニ付キ答辯ヲ爲スノ責任ナキコトヲ主張シ原告ノ訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ヲ謂フ

第二 裁判所管轄違ノ抗辯 原告ノ訴ニ付キ受訴裁判所ニ土地及ヒ事物ノ管轄權ナキコトヲ主張スル抗辯ヲ謂フ

第三 權利拘束ノ抗辯 一ノ訴訟ノ權利拘束中原告若クハ被告ヨリ同一ノ訴訟物ニ付キ同一ノ裁判所若クハ他ノ裁判所ニ本訴又ハ反訴ヲ以テ主張シタルトキ其訴訟物ニ付キ既ニ權利拘束ノ發生セルコトヲ理由トシテ再ヒ審理裁判ヲ受クルコトヲ妨クル抗辯ヲ謂フ

第四 訴訟能力又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯 原告トシテ訴ヲ提起シタル者ニ訴訟行為ヲ爲スノ能力ヲ有セサルコトヲ主張シ又ハ法律上代理人トシテ訴ヲ提起シタル者カ完全ナル代理權ヲ有セサルコトヲ主張シテ其訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ヲ謂フ

第五 訴訟費用保證ノ欠缺ノ抗辯 外國人カ原告トシテ訴ヲ提起スルカ又ハ外國人カ原告ノ從參加人タル場合ニ民事訴訟法第九十條ニ依リ保證ヲ立テサルトキ被告カ之ヲ理由トシテ應訴ヲ拒ミ其訴ノ却下ヲ求ムル抗辯ヲ謂フ

第六 再訴ニ付キ前訴訟費用未済ノ抗辯 此抗辯ハ原告カ一旦提起シタル訴ヲ取下クル後之ト同一ノ訴ヲ再ヒ提起シタル場合ニ前訴訟費用ヲ未タ被告ニ辨濟セザリシコトヲ理由トシテ應訴ヲ拒ム抗辯ヲ謂フ

第七 延期ノ抗辯 此抗辯ハ被告カ應訴ノ責任ナキコトヲ主張スルニアラスシテ應訴ハ之ヲ爲スモ一時其審理ヲ延期セラレンコトヲ申立ツル抗辯ニシテ其效力最モ薄弱ナルモノナリ

説解

本問ハ其題意ニ於テ前問ト異ナル所ナシ

● 妨訴抗辯ヲ列舉シテ之ヲ説明スヘシ (明治三十八年九月) (千葉地方裁判所書記試験)

● 妨訴抗辯ハ訴ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス爲シ得ヘキヤ

解説

(明治三十二年三月) (新潟地方裁判所書記試験)

妨訴ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘキ時期ニ付テハ其抗辯カ被告ノ有效ニ拋棄シ得ルモノナルト否トニ因リテ異ナル

第一 有效ニ拋棄シ得サル妨訴抗辯 即チ(一)無訴權ノ抗辯(二)專屬ノ定メアルモノニ付テノ管轄違ノ抗辯(三)訴訟能力又ハ法律上代理欠缺ノ抗辯等ハ訴訟ノ如何ナル程度ニアルヲ問ハス判決ニ接着スル口頭辯論ノ終結ニ至ル迄ハ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ得

第二 有效ニ拋棄シ得ル妨訴抗辯 即チ(一)專屬管轄ノ定メナキ管轄違ノ抗辯(二)權利拘束ノ抗辯(三)訴訟費用保證欠缺ノ抗辯(四)前訴訟費用未済ノ抗辯(五)延期ノ抗辯等ハ本案ノ口頭辯論ノ始マル前同時ニ提出セサルヘカラサルヲ原則トス茲ニ所謂同時トハ必スシモ一切ニ凡テノ抗辯ヲ同一日時ニ提出スヘシトノ意味ニアラスシテ一ノ妨訴抗辯ヲ提出シ之ニ關スル辯論ノ終結前ニ他ノ妨訴抗辯ヲ提出スル場合ヲモ包含スルモノニシテ要ハ唯一ノ妨訴抗辯ニ付キ辯論ノ終結位更ニ他ノ妨訴抗辯ヲ提出スルカ如キコトヲ禁スルニアリ

右ノ原則ニ對シテハ例外アリ即チ被告カ過失ニアラスシテ本案ノ辯論前ニ主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルトキハ辯論開始後ト雖トモ其終結ニ至ル迄ハ其妨訴抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘク又區裁判所ニ於テハ辯論開始ノ前後ヲ問ハス又必スシモ同時ニ提出スルコトヲ要セサルモノナリ但シ何レノ場合ト雖ト

モ專屬ノ定メナキ管轄違ノ抗辯ハ本案ノ辯論開始後ハ之ヲ提出スルコトヲ得サルモノナリ蓋シ合意管轄ヲ認メラルルニ至レハナリ

●妨訴ノ抗辯ヲ爲シ得ヘキ場合如何(明治三十三年十一月山形地方裁判所書記試驗)

解説

本問ハ前問ト其問題ノ書キ方ヲ異ニスルモ唯其正面ヨリ問フト其裏面ヨリ反問的ニ問フトノ差アルノミニ過キスシテ其趣旨ニ於テハ彼此異ナル所ナキヲ以テ要スルニ前問ト同一ノ答解ヲ附スルヲ以テ足ルモノナリ

●判決ノ種類ヲ擧ケ之ヲ略説スヘシ(明治四十一年九月大分地方裁判所書記試驗)

解説

判決トハ必要的ノ口頭辯論ニ基キテ爲ス裁判所ノ宣言ヲ謂フ今其種類ヲ擧クレハ左ノ如シ

第一 對審判決及ヒ闕席判決

對審判決トハ訴訟事件ニ付テ當事者双方ノ口頭辯論ヲ經テ爲ス判決ヲ謂フヲ通例トスルモ必スシモ之ヲ要セス要ハ唯當事者ノ一方ヲシテ懈怠ノ結果ヲ被ムラ

シメサル判決ハ總テ對審判決ナリ

闕席判決トハ當事者ノ一方ニ懈怠ノ結果ヲ被ムラシムル判決ナリ而シテ其當事者カ口頭辯論期日ニ出頭シタルト否トヲ問ハス其一方ノミノ辯論ニ基キテ爲ス判決ナリ

二五〇

## 第二 終局判決及ヒ中間判決

終局判決トハ本訴又ハ反訴ノ請求ニ付テノ全部若クハ一部ニ付テ訴訟事件ヲ其審級ニ於テ完結セシムル判決ヲ謂フ

中間判決トハ終局判決ヲ爲スノ準備トシテ訴訟ノ中間ニ生シタル争點ヲ決スル爲メニ爲ス判決ナリ從テ訴訟ノ全部又ハ一部ヲ完結シ之ヲ其審級ヨリ離脱セシムルモノニアラス

## 解説

●中間判決ト終局判決トノ差異如何(明治三十三年九月)  
青森地方裁判所書記試験)

中間判決ト終局判決トノ差違ハ大要左ニ掲クル所ノ如シ

(イ) 終局判決ハ受訴裁判所ニ於テ訴訟事件ヲ終結セシムルモノナレトモ中間判

決ハ訴訟ノ全部又ハ一分ニ付テノ裁判ニアラスシテ訴訟ニ關スル實體權上若クハ訴訟手續上ノ部分ニ付キ爲ス所ノ裁判ニシテ終局判決ノ理由ト爲ルモノナリ

(ロ) 終局判決ハ訴訟ニ關スルモノナレトモ中間判決ハ各箇ノ獨立ナル攻撃若クハ防禦ノ方法及中間ノ争ニ關ス

(ハ) 終局判決ハ直ニ上訴スルコトヲ得ルモ中間判決ハ特別ノ例外ヲ除ク外獨立シテ上訴スルコトヲ得ス

(ニ) 終局判決ハ必ス之ヲ爲スヘキモノナリト雖モ中間判決ハ之ヲ爲ササルモ可ナルコトアリ

●判決ノ效力ヲ説明スヘシ(明治四十一年三月)  
福島地方裁判所書記試験)

## 解説

第一 判決ノ言渡シアリタルトキハ其中間判決ナルト終局判決ナルトヲ問ハス裁判所ハ其判決中ニ包含セラレタル裁判ニ羈束セラルルモノナリ故ニ判決言渡後ニ於テ裁判所ハ其不當ナルコトヲ發見スルモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得サルノミナラス殊ニ中間判決ニ包含シタル裁判ト矛盾シタル判決ヲ其訴訟ニ對シテ爲ス

コトヲ得サルモノナリ

二五二

第二 判決ノ確定力 判決ノ確定力ニハ形式的確定力ト實質的確定力トノ二種アリ  
甲 形式的確定力 判決カ故障又ハ上訴ニ依リ攻撃スルコト能ハサル程度ニ達シタル效力ヲ謂フ而シテ此確定力ヲ生スヘキ判決ハ終局判決及ヒ終局判決ト同視セラルル中間判決ニシテ故障又ハ上訴期間ヲ徒過スルカ又ハ當事者カ故障上訴權ヲ拋棄スルニ因リテ生スルシ上告裁判所ノ判決ハ言渡ニヨリテ直チニ此效力ヲ生スルモノナリ

乙 實質的確定力 判決カ形式的確定力ヲ生シタル效力トシテ判決事項ニ付キ裁判所及ヒ當事者ヲ羈束スルノ效力ヲ謂フ即チ判決ニ依リテ確定シタル法律關係ト同一ノ法律關係ニ付キ再ヒ提起ルトキハ一事再理ノ抗辯ヲ爲スコトヲ得又判決ノ效力ハ當事者ニノミ及フヲ原則トスルモ或特定ノ場合ニ於テハ例外トシテ第三者ニモ亦其效力ヲ及ホスモノナリ

●原告又ハ被告若クハ當事者双方カ口頭辯論期日ニ出頭セサルトキハ如何處分スルヤ(明治三十一年四月大阪地方裁判所書記試驗)

解説

第一 原告又ハ被告カ口頭辯論期日ニ出頭セサルトキ

(イ) 此場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニ因リ闕席判決ヲ爲ス(第二四六條)

(ロ) 出頭セサル一方カ原告ナルトキハ裁判ハ闕席判決ヲ以テ其訴ノ却下ヲ言渡スヘシ(第二四七條)

(ハ) 出頭セサル一方カ被告ナルトキハ裁判所ハ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ自由シタルモノト看做シ原告ノ請求ヲ正當トナストキハ闕席判決ヲ以テ被告ノ敗訴ヲ言渡シ又其請求ヲ正當トナササルトキハ其訴ノ却下ヲ言渡スヘシ(第二四八條)

第二 當事者双方カ出頭セサルトキ

此場合ニ於テハ訴訟手續ハ其一方ヨリ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定ムヘキコトヲ申立ツルマテ之ヲ休止ス而シテ此休止シタル場合ニ於テハ一個年内ニ前項ノ申立ヲ爲ササルトキハ本訴及反訴ヲ取下ケタルモノト看做ス(第一八八條二三項)



● 闕席判決ノ申立ヲ却下スヘキ場合ヲ掲ケ其理由ヲ説明スヘシ

(明治三十四年十一月)  
福岡地方裁判所書記試験

解説

闕席判決ノ申立ヲ却下スヘキ場合ニアリ左ニ之ヲ示シ其理由ヲ説明スヘシ

第一 出頭シタル原告若クハ被告カ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ付キ必要ナル證明ヲ爲ス能ハサルトキ

闕席判決ハ訴訟ノ本案ニ付テノ裁判ナルカ故ニ裁判所ハ闕席判決ヲ爲スニ先チ其訴訟ハ果シテ訴訟條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査セサルヘカラス何トナレハ裁判所カ職務上調査スヘキ事項中ニ欠缺アルコトヲ發見シタルトキハ縦令當事者ノ一方カ闕席シタルニ拘ラス裁判所ハ不適法トシテ訴訟ヲ却下セサルヘカラスレハナリ從テ此等裁判所カ職權上調査スヘキ事項ニ付キ原告カ必要ナル證明ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ進テ本案ニ入り闕席判決ヲ爲スコトヲ得ス其申立ヲ却下スヘキモノトスルハ當然ナリ被告カ反訴ヲ起シテ原告ノ地位ニ立ツ場合亦同シ

第二 出頭セサル原告若クハ被告ニ事實ノ供述又ハ申立ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ

以テ通知セザリシトキ

被告カ闕席シタル場合ニ於テ裁判所カ闕席判決ヲ爲スニハ原告ノ事實上ノ主張ヲ被告カ自白シタルモノト看做シテ其裁判ヲ爲スヘキモノトス而シテ被告カ自白シタルモノト看做ストハ原告カ主張シタル事項ニ對シテ被告ハ争ハサルヲ云フ斯ク被告カ原告ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノト看做スニ付テハ其事實タルヤ必ス自白シ得ヘキ位地ニ在ルモノナラサル可ラス是レ此懈怠ニ基ツク裁判ヲ爲スニ付テハ豫メ其事實ヲ被告ニ通知スルコトヲ要スル所以ナリ然ルニ若原告カ辯論ニ於テハ被告カ之ニ對シテ自白ヲ爲シタリト看做シ得ヘキ理由ナキヲ以テ裁判所ハ法律上ノ懈怠ノ結果ニ依リ闕席判決ヲ下スコトヲ得サルハ勿論ナリ故ニ此等ノ場合ニ於テハ原告ハ闕席判決ノ申立ヲ爲スモ裁判所ハ之ヲ却下セサルヘカラサルナリ被告カ反訴ヲ提起シタル場合亦同シ

解説

● 自白ト認諾及ヒ拋棄ヲ區別シ例ヲ舉ケテ詳説スヘシ (明治三十四年三月)  
福島地方裁判所書記試験

法律學 民事訴訟法

諾トハ相手方ノ主張シタル權利ヲ爭ハサル旨ノ意思表示ナリ即チ認諾ハ相手方ノ主張スル請求ニ對シテ總テノ防禦方法ヲ拋棄スルモノナリ之ニ反シテ自白ハ相手方ノ主張シタル事實ニ付テノミ防禦ヲ拋棄スルモノナリ故ニ自白ト認諾トハ其目的物ニ於テ權利ト事實トノ差異アルモノトス次ニ拋棄トハ相手方ニ對シテ自己ノ主張スル請求權ヲ用ヘサルヲ謂フ故ニ拋棄ハ前ノ二者トハ判然其區別アルモノナリ今此三者ニ付キ例ヲ舉ケテ其區別ノ點ヲ明瞭ナラシメンニ例ヘハ原告カ被告ニ對シテ何年月何日金何千圓ヲ貸與シタリト主張スルニ對シテ被告カ其貸與ノ事實ヲ認メタルトキハ即チ自白ニシテ若シ原告カ其貸金ヲ請求シタルニ對シテ被告カ其請求ヲ爭ハサルトキハ即チ認諾ナリ之ニ反シテ原告カ一旦其貸金ヲ請求シタルモ後ニ至リ其請求ヲ爲ササルヘキ意思ヲ表示スルハ是レ即チ權利ノ拋棄ナリトス

●自白ト認諾トノ差異如何(明治三十三年五月 名古屋地方裁判所書記試驗)

解説

現行民事訴訟法上ニ於ケル自白ト認諾トノ差異ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 自白ト認諾トハ其性質ヲ異ニス 此點ニ付テハ前問ノ解説ヲ參照スヘシ

第二 自白ト認諾トハ訴訟上ノ效力ヲ異ニス 即チ認諾アリタルトキハ直チニ其事件ノ審理ヲ終了スヘキモノナリト雖トモ自白アリタル場合ニハ之ニ因リテ事件ノ修了ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ

第三 自白ハ法律上推定セラルル場合アリト雖トモ認諾ハ推定セラルル場合アルコトナシ

●人證ト鑑定トノ差異如何(明治四十二年六月 福岡地方裁判所書記試驗)

解説

人證ト鑑定トハ共ニ民事訴訟上ニ於ケル證據方法ノ一種ナリト雖トモ此兩者ノ間ニハ左ノ如キ差異存在ス

- 第一 人證ハ裁判官カ證據原因ヲ得ルノ材料ニシテ證人タルヘキ者ヲ訊問シ其陳述ヲ爲スニ依リテ活用セラルルモノナルモ鑑定ハ通常ノ學識ヲ以テ分別シ難キ特別ノ智識技能ヲ要スヘキ事柄ニ付キ其職ニ當ル者ヲシテ之レカ判斷ヲ爲サシメ以テ裁判官カ證據原因ヲ得ルノ手段ナリ故ニ
- 第二 人證ハ純然タル證據方法ナルモ鑑定ハ證據方法タルト同時ニ一面ニ裁判官

ノ智識ヲ補足スル方法タルノ性質ヲ具有スルモノナリ

第三 人證ニ於ケル證人ハ係争事實ニ付キ訴訟外ニ於テ爲シタル實驗ニ基キ訴訟ニ於テ證明ノ爲メニ供述ヲ爲スモノナルモ鑑定ニ於ケル鑑定人ハ裁判官ノ指示シタル材料ニ付キ自己ノ特別ナル智識技能ニ基キテ實驗シタル現在ノ事實ヲ供述シ以テ裁判官ヲ補助スルモノナリ故ニ證言ハ過去ノ事實ニ關シ鑑定ハ現在ノ事實ニ關スルノ區別アリ

●證人カ證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合ト得サル場合トヲ詳述スヘシ

(明治三十三年十一月  
宮崎地方裁判所書記試驗)

解説

甲 證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合

- 一、原告若クハ被告又ハ其配偶者ト親族ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ
- 二、原告若クハ被告ノ後見ヲ受クル者
- 三、原告若クハ被告ト同居スル者又ハ雇人トシテ之ニ仕フル者(民訴第二九七條)

- 四、官吏又ハ公吏タリシ者カ其職務上黙秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ
- 五、醫師、藥商、穩婆、辯護士、公證人、神職及ヒ僧侶カ其身分又ハ職業ノ爲メ委託ヲ受ケタルニ因リテ知リタル事實ニシテ黙秘スヘキモノニ關スルトキ
- 六、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ第二九七條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上ノ訴追ヲ招ク恐レアルトキ
- 七、問ニ付テノ答辯カ證人又ハ二百九十七條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムヘキトキ
- 八、證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニアラサレハ答辯スル能ハサルトキ

(民訴一九七條)

乙、證言ヲ拒ムコトヲ得サル場合

- 證人カ前項證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合ノ一號及七號ノ場合ニ於テハ左ノ事項ニ付證言ヲ拒ムコトヲ得ス
- 一、家族ノ出產婚姻又ハ死亡
- 二、家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實
- 三、證人トシテ立會タル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及旨趣

法律學 民事訴訟法

四、原告若クハ被告ノ前主又ハ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲  
 五、前項證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合ノ四、五號ニ該當スル者ニシテ默秘ノ義務ヲ  
 免除セラレタル者  
 是レナリ

●督促手續トハ如何又此手續ヲ許ササル場合ヲ詳述スヘシ

(明治三十四年七月  
 福岡地方裁判所書記試驗)

解説

督促手續トハ一ノ特別手續ニシテ通常訴訟ノ手續ニ依ラス債權者ヲシテ債務者ニ對  
 シ執行力アル權限ヲ有セシムル手續ヲ云フ即チ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若ク  
 ハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求權ヲ有スル債權者ハ裁判所ニ申立  
 テ債務者ニ對シテ一ノ條件付支拂命令ヲ發セシムルコトヲ得セシム而シテ其命令書  
 ニ依リテ債務者ハ一週間内ニ其義務ノ履行ヲ爲スカ又ハ異議ノ申立ヲ爲スヘク然ラ  
 サレハ債務者ハ直ニ強制執行ヲ受クルニ至ルコトアルモノトス而シテ債務者ニ於テ  
 其期間内ニ異議ノ申立ヲ爲ストキハ債權者ハ普通ノ訴訟手續ニ依ルノ外ナク之ニ反

シ異議ヲ申立テサルトキハ債權者ハ其命令ニ執行命令ヲ求ムルヲ得ルモノトス督促  
 手續トハ以上ノ如キモノナルヲ以テ此手續ヲ許スニハ其請求ハ一定ノ金額ノ支拂其  
 他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスルヲ要ス然レトモ其原因  
 ノ如何ヲ問ハス而シテ其請求ニシテ反對給付ヲ條件トスルモノ又ハ外國ニ送達ヲ爲  
 スヘキモノナルトキ若クハ公示送達ヲ要スルモノナルトキハ督促手續ニ依ルヲ許サ  
 ス一人ノ債務者ニ對スル數箇ノ請求若クハ數人ノ債務者ニ對スル數箇ノ請求ニ對シ  
 テモ亦支拂命令ヲ求ムルコトヲ得(二八二條以下)

●支拂命令ヲ發スルコトノ申請ニ具備スヘキ條件ヲ列擧スヘシ

(明治三十三年十二月  
 爲取地方裁判所書記試驗)

解説

支拂命令ヲ發センコトノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但口頭ヲ以テ  
 申請ヲ爲ストキハ之ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス  
 支拂命令ノ申請ハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス  
 一、當事者ノ表示

- 二、裁判所ノ表示
- 三、請求ノ一定ノ數額目的物及ヒ原因ノ表示若數箇ノ請求ヲ爲ストキハ各請求ニ對スル數額及ヒ目的物ヲ表示セサルヘカラス但申請ニ關スル費用ハ當事者ノ申立ナキモ之ヲ裁判ス
- 四、支拂命令ヲ發センコトノ申立

●支拂命令ニ記載スヘキ要件如何

解説

- 其要件ヲ擧クレハ左ノ如シ
- 一、當事者及裁判所ノ表示
  - 二、請求ノ一定ノ數額
- 此外即時ノ強制執行ヲ避ケント欲セハ尙ホ左ノ要件ヲ必要トス
- 三、此命令送達ノ日ヨリ十四日期間内ニ請求ヲ満足セシメ及其手續ノ費用ニ付キ定ムル數項ヲ債權者ニ辨濟スヘキコト
  - 四、裁判所ニ異議ヲ申立ツ可キ旨ノ債務者ニ對スル命令ヲ記載スルコト

但第三條件ノ期間ハ爲替訴訟ヨリ生スル請求ニ付テハ二十四時間其他ノ請求ニ付テハ申立ニ因リ三日マテ短縮スルコトヲ得ヘシ

●支拂命令ニ對シ異議ノ申立アリタルトキノ效果如何(明治三十四年五月松江地方裁判所書記試驗)

解説

- 支拂命令ニ對シテ適當ナル時期ニ異議申立アリタルトキハ左ノ如キ效力ヲ生ス
- 第一 異議ノ申立ニ因リテ支拂命令ハ其效力ヲ失フ但其支拂ニ因リテ生シタル權利拘束ノ效力ハ消滅スルモノニアラス
- 第二 支拂命令ニ依ル請求カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ在リテハ異議ノ申立ニ因リ何等ノ手續ヲ爲スコトナク當然ニ債權者カ支拂命令ノ送達ノトキニ訴ヲ提起シタルモノト看做サル
- 第三 請求シタル訴訟物カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキノナルトキハ裁判所ハ適當ナル時期ニ異議ノ申立アリタルコトヲ債權者ニ通知スヘク債權者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ一ヶ月ノ期間内ニ管轄地方裁判所ニ訴ヲ提起セサルヘカラス債權者カ若シ此期間内ニ訴ヲ提起セサルトキハ前ニ生シタル訴訟物ノ權利拘束ノ

效力ハ消滅スルモノナリ

第四 督促手續ノ費用ハ異議ノ申立ニ因リ後ニ起ルヘキ訴訟費用ノ一部ト看做サレ其訴訟ニ於ケル敗訴者ノ負擔ニ歸スヘキモノナリ然レトモ債權者ニシテ若シ右第三ニ説明シタル訴ヲ提起セサルトキハ其費用ハ債權者ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス

●支拂命令ニ對シ異議ノ申立アリタルトキ請求ニ付キ起スヘキ訴カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ因リ其手續上ノ差異如何(明治四十二年十月 函館地方裁判所書記試驗)

解説

前問ノ解説中ノ第二第三ヲ参照シテ答案ヲ作ルヘシ

●執行命令ト轉付命令トノ差異(明治三十四年五月 青森地方裁判所書記試驗)

解説

執行命令ト轉付命令ノ差異左ノ如シ

一、執行命令ハ支拂命令ヲ假ニ執行スルコトヲ許ス所ノ命令ナリト雖モ轉付命令ハ債務者カ債權者ニ對シ支拂ヲ爲スニ換ヘ差押ヘラレタル債權ヲ券面額ニテ差押

債權者ノ有ニ歸セシムル爲メノ移付ノ命令ナリ

二、執行命令ハ強制執行ヲ爲シ得ヘキ債務名義ナレトモ轉付命令ハ債務名義ニ因ル強制執行ヲ實行スルノ一ノ手段ニ過キス

三、執行命令ハ假執行ノ宣言ヲ付シタル闕席判決ト同一ナルニ債務者ハ之ニ對シテ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得レトモ轉付命令ハ否ラス

四、轉付ノ命令ニ依リ差押債權者ハ直ニ債權讓受人ノ地位ヲ得

●上訴ノ種類ヲ列舉シ各其特質ヲ説明スヘシ(明治三十三年六月 盛岡地方裁判所書記試驗)

解説

上訴ハ未タ確定セサル裁判ニ對スル不服ニ付テ更ニ上級裁判官ヲシテ裁判ヲ爲サシムル所ノ權利ノ救済方法ナリ今其種類ヲ舉クレハ如左

- 一、控訴
- 二、上告
- 三、抗告

是レナリ以下其性質ヲ略説セム

一、控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ爲ス所ノ不服ノ訴ニシテ其訴訟手續モ亦殆ト第一審裁判所ト同一ニシテ其事件ノ眞否又ハ存否ニ付テ審理ヲ爲スヲ目的トス

- 二、上告ハ第二審ノ終局判決ニ對シテ爲ス所ノ不服ノ申立ナリ而シテ上告審ニ於テ審理スヘキ事項ハ主トシテ不服ノ申立ヲ受ケタル判決中法律適用ノ當否ニ付キ審究スルニ在リテ控訴審ノ如ク判決ノ基礎トナリタル事實ノ眞否又ハ存否ニ付テ爲スヘキモノニアラス
- 三、抗告ハ性質上決定ニ對スル不服ノ申立ナリ而シテ控訴ハ上告ヲナシ得ルモ抗告ハ控訴ノ如ク第二次ノ申立ヲナスコトヲ得ス

●控訴、上告、抗告ノ區別如何(明治三十四年十一月 福岡地方裁判所書記試驗)

解説

控訴上告抗告ノ區別ハ大要左ノ如シ

- 一、控訴及上告ハ未確定ノ終局判決ニ對スル不服ノ申立ナリト雖モ抗告ハ未確定ナル決定又ハ命令ニ對スル不服ノ申立ナリ
- 二、控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スモノニシテ上告ハ第二審ノ終局判決ニ對シテ之ヲ爲スモノナリ
- 三、控訴ハ事實並ニ法律ノ點ニ付キ上級裁判所ノ審査ヲ受クルヲ目的トシ上告ハ單

ニ法律ノ點ニ付テノミ上級裁判所ノ審査ヲ受クルヲ目的トシ抗告ハ控訴及ヒ上告ヲ補充スルト本案訴訟ノ複雜ヲ防止スルヲ目的トス

- 四、上告ニ於テハ新ナル證據ヲ提出スルヲ得ス唯法律上ノ點ニ限り原裁判ニ對シテ不服ノ申立ヲ爲スヲ得ト雖モ控訴及ヒ抗告ニ於テハ法律上ノ點ハ勿論新事實新證據ニ依リテ原裁判ヲ攻撃スルヲ得
- 五、控訴ハ當事者ノ出廷ヲ要ス上告及ヒ抗告ニ於テハ之ヲ要セス然レトモ抗告ハ必要ト認ムルトキハ被告人ヲシテ出廷セシムルヲ得
- 六、控訴及上告ハ原則トシテ裁判ノ執行ヲ妨クルモ抗告ハ原則トシテ執行停止ノ效力ヲ有セス
- 七、控訴及上告ハ一箇月ノ不變期間内ニ申立ヲ爲スヘキモノナレトモ抗告ハ普通抗告ナレハ制限ナク即時抗告ナレハ七日ノ不變期間内ニ申立ヲナスヘキモノトス

●上告ト抗告トノ異同ヲ説明セヨ(明治三十三年十一月 神戸地方裁判所書記試驗)

解説

- 一、申立ノ目的タル裁判ニ關スル異同 上告ハ未確定ノ判決ニ對スル不服ノ申立ニ

シテ抗告ハ不確定ナル決定ニ對スル不服ノ申立ナリ

- 二、申立ノ原因ニ關スル異同 上告ハ法律ノ點ニ限り不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモ抗告ハ法律上ノ點ハ勿論事實ニ對シテモ不服ヲ申立ツルコトヲ得
- 三、申立ノ範圍ニ關スル異同 抗告ハ決定中法律ノ特ニ許シタル場合ニ限り之ヲ爲スヲ得ルモ上告ハ如何ナル判決ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得
- 四、證據ニ關スル異同 上告ハ新ナル證據ヲ提出スルコトヲ得サルモ抗告ハ新事實及ヒ新證據ヲ提出スルコトヲ得
- 五、申立ノ期間ニ關スル異同 抗告申立ノ期間ハ決定書送達ノ日ヨリ三日ニシテ上告ハ判決言渡ノ日ヨリ三日ナリトス
- 六、裁判更正ニ關スル異同 抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判官カ其抗告ヲ理由アリトスルトキハ上級裁判所ノ判決ヲ待タス自ラ之ヲ更正スルヲ得ルト雖モ上告ハ縱令原裁判所ニ於テ之ヲ理由アリトスルモ自ラ更正スルヲ得ス
- 七、被告人出頭ニ關スル異同 抗告ハ必要ナリト認メタル場合ニ限り被告人ヲ出頭セシムルコトヲ得上告ハ全ク之ヲ要セス

- 八、辯論ニ關スル異同 抗告ハ通例口頭辯論ヲ開カスシテ裁判シ從テ其裁判ハ公廷ニ於テ言渡スコトナキモ上告ハ口頭辯論ヲ開キ其裁判モ亦公廷ニ於テ言渡スコトナキモ上告ハ口頭辯論ヲ開キ其裁判モ亦公廷ニ於テ言渡スコトナキトス
- 九、原裁判ノ執行ニ關スル差異 上告ハ其裁判確定ニ至ルマズ原裁判ノ執行ヲ停止スルモ抗告ハ豫審終結決定ニ對スルモノヲ除ク外原裁判ノ執行ヲ停止セス
- 十、上訴ニ關スル異同 上告及ヒ抗告ノ裁判ニ對シテハ共ニ更ニ上訴スルヲ得ス

●控訴、抗告及ヒ故障ノ區別如何(明治三十三年四月 神戸地方裁判所書記試験)

解説

控訴ハ第一審ノ終局判決及ヒ上訴ニ關シテ終局判決ト看做サルル中間判決ニ對シテ上級裁判所ヘ其廢毀變更ヲ目的トシテナス不服ノ申立ナリ

又抗告ハ裁判所又ハ裁判官ノ決定ニ對シテ爲ス普通ノ上訴ナリ故障ハ闕席判決ニ對スル權利救濟ノ方法トシテ其裁判所ニ提起ス可キ不服申立ノ方法ナリ

故ニ此三者ノ區別ハ控訴、故障ハ判決アリシ點ハ同一ナルモ故障ノ場合ハ必ス闕席判決アリシコトヲ要ス控訴ハ上級審ニナスモ故障ハ同審級ノ裁判所タルヲ要ス抗告



ハ決定ニ對シテ爲シ得ル方法ニシテ判決ニ對シテハ爲スコトヲ得サルヲ以テ前二者トハ此點ニ於テ區別アリトス。

●故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シ控訴ヲ爲スコトヲ得サルヤ

(明治三十三年十一月  
山形地方裁判所書記試験)

解説

闕席判決ニ對シテハ故障ヲ許スヲ以テ控訴ヲ許ササルヲ本則トス然レトモ故障ヲ許ササル闕席判決即チ法律上全ク故障ノ申立ヲ禁止シタル闕席判決ニ對シテハ不服ヲ申立ツル者ニ於テ懈怠ナカリシコトヲ理由トスル場合ニ限り控訴ヲ爲スコトヲ許スモノナリ茲ニ懈怠ナカシリコトヲ理由トスルトハ原告若クハ被告カ口頭辯論期日ノ未タ了ラサル以前ニ出願シタルトキハ勿論本案ノ辯論了ハリ唯各個ノ事實、證書又ハ發問ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ任意ニ退廷シタル場合ニ故障棄却ノ新闕席判決アリタルトキ又ハ其闕席シタル故障申立者カ合式ノ呼出ヲ受ケサリシトキ又ハ期日ノ呼出ニ應シテ出頭スルモ事件ノ呼上ナキカ爲メニ期日ノ呼出ヲ受ケタルニ拘ハラヌ急病若クハ天災等ノ爲メ事實ニ於テ出願スルコトヲ得サリシ場合ノ如キハ其當事者ニ

期日ノ懈怠アリシコトハ覆フヘカラサル事實ナルヲ以テ其者ハ控訴ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ而シテ此懈怠ナカリシ理由ハ其闕席判決ニ對スル不服ノ申立ト共ニ之ヲ主張セサルヘカラス

●控訴審ニ於テハ相手方ノ承諾アルトキト雖トモ訴ノ變更ヲ許ササル理由ヲ詳述スヘシ(明治三十三年九月  
熊本地方裁判所書記試験)

解説

控訴ハ第一審ノ終局判決ニ對シテ不服ノ申立ナルヲ以テ控訴ノ提起ハ常ニ第一審裁判所ノ終局判決アルコトヲ前提トスルモノナリ故ニ控訴審ニ於テハ假令相手方ノ承諾アルモ訴ノ變更ハ之ヲ許ササル所ナリ是第一審裁判所ハ先キノ申立ニ據リ裁判ヲ爲シタルモノナルヲ以テ控訴審ニ於テ變更ヲ許スカ如キハ第一審裁判所ノ關與セサル事項ナルヲ以テ之ヲ許スハ控訴ノ主旨ニ反シ其根底ヲ誤ルモノナレハナリ

●證書訴訟ノ要件又爲替訴訟ト證書訴訟ノ區別(明治三十三年十一月  
神戸地方裁判所書記試験)

解説

證書訴訟手續ヲ以テ訴訟ヲ提起シ得ヘキ要件ハ左ノ如シ

一、一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求タルヘキコト

二、其請求ヲ起ス理由タル總ヘテノ事實ヲ證書ニ依テ證明スルヲ得ヘキモノタルコト

此二箇ノ要件ヲ具備スルニ於テハ其請求カ債權ニ基クト將タ物權ニ基クモノナルトヲ問ハス此手續ニ由リ起訴スルコトヲ得ヘシ

又證書訴訟ト爲替訴訟トノ區別ハ元來爲替訴訟ハ證書訴訟ノ一種ナルモ其商法ノ規定ニ依ル手形ニ關スル請求ヲ證書訴訟トシテ主張スル場合ヲ云フニ故リ故ヲ以テ左ニ爲替訴訟ノ特別ノ要件ヲ述フレハ從テ證書訴訟トノ區別ヲ知ルニ足ラム

一、商法ニ規定シタル手形ニ基ク請求ニ限ルコト

二、爲替ノ訴ハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ提出スルコトヲ得

三、數人ノ爲替義務者ヲ共同被告トシテ起訴スル場合ニハ支拂地ノ裁判所又ハ被告カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所ニ之ヲ訴フルコトヲ得

四、訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ記スルコト

五、爲替ノ訴ニ於テハ口頭辯論ノ期日及ヒ訴狀送達トノ間ニ存スヘキ期間ハ特ニ二十四時間迄減縮スルコトヲ得

以上五箇ノ條件ハ爲替訴訟ニ關スル特別ノ條件ニシテ他ノ證書訴訟ト異ナル所ナリ

●證書訴訟ト爲替訴訟トノ異同ヲ説明スヘシ(明治四十二年六月 根室地方裁判所書記試驗)

解説

爲替訴訟ハ證書訴訟ノ一種ナルヲ以テ前問ニ於テ説明シタル爲替訴訟ニ特別ナル五箇ノ條件ヲ除クノ外ハ總テ證書訴訟ノ手續ニ依ルヘキモノナルカ故ニ宜シク前問ノ解説ヲ参照シテ答案ヲ附スヘシ

●證書訴訟ト通常訴訟ト異ナル點如何(明治三十三年三月 京都地方裁判所書記試驗)

●通常訴訟ト證書訴訟トノ差異ヲ説明セヨ(明治四十二年八月 神戸地方裁判所書記試驗)

解説

證書訴訟ト通常訴訟ト異ナル要點ハ左ノ如シ

- 一、證書訴訟ハ其請求ノ原因タル事實ヲ證書ヲ以テ證明セサル可ラサルモ通常訴訟ハ此制限ナシ
- 二、證書訴訟ニ依テ請求セラルルモノハ財産權上ノ請求ニシテ一定ノ金額ノ支拂其他代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスルモノナラサル可ラサルモ通常訴訟ハ否ラス財産權上ノ訴ハ如何ナルモノモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ
- 三、證書訴訟ハ相手方タル被告モ總テ證書ニ據テ立證スルヲ要スルモ通常訴訟ハ此制限ナシ
- 四、被告ハ證書訴訟ニ於テ敗訴ノ言渡ヲ受ケタル時ハ更ニ通常訴訟手續ニ因リ同一事件ニ付テノ裁判ヲ求ムルコトヲ得ルモ通常訴訟ハ否ラス

●債務名義トハ何ソヤ(明治四十二年十月 函館地方裁判所書記試験)

解説

強制執行ハ裁判ニヨリテ確定シタル私權ノ實行ヲ得セシムルヲ以テ其目的ト爲スモノナレハ其執行ヲ爲サントスルニハ必スヤ裁判上法律關係ヲ確定セラレタル執行ノ原因ナカルヘカラス此執行ノ原因ヲ稱シテ強制執行ノ債務名義ト謂フ但シ現行民事

訴訟法ニ於テハ裁判上確定セラレタルニアラサル公正證書ヲモ便宜上一ノ債務名義ト爲セリ即チ此債務名義ハ強制執行ノ基本タルモノナレハ其執行ノ範圍モ亦債務名義ニヨリテ定マルモノナリ而シテ債務名義ニハ判決ニ因ルモノト判決以外ノモノトノ二種存在ス(其如何ナルモノナルカハ次回ニ詳述セン)

●執行シ得ヘキ債務名義ノ種類ヲ列擧スヘシ(明治四十二年十月 鳥取地方裁判所書記試験)

解説

執行シ得ヘキ債務名義ハ之ヲ判決ニ因ルモノト判決以外ノモノトノ二種ニ大別スルコトヲ得ヘシ

第一 判決ニ因ル債務名義

甲 確定ノ終局判決 本案ニ付キ權利ヲ認メ實體上ノ判斷ヲ下シタルモノニ限ルヘキハ勿論ナリ

乙 強制執行ニ關シテ終局判決ト看做サルル中間判決 控訴審ニ於テ被告ノ防禦方法ヲ却下シテ被告ニ敗訴ヲ言渡ス留保判決及ヒ證書訴訟爲替訴訟ニ於テ被告ニ敗訴ヲ言渡ス留保判決是レナリ

丙 假執行ノ宣言ヲ附シタル終局判決

丁 外國裁判所ノ判決ニ附スル執行判決

戊 仲裁判斷ニ附スル執行判決

第二 判決以外ノ債務名義

甲 抗告ヲ以テノミ不服ノ申立ヲ許ス裁判 即チ(一)訴訟費用額確定ノ決定(二)裁判所書記、法定代理人、辯護士其他ノ代理人、執達吏ニ對シ其過失又ハ懈怠ヨリ生シタル費用ノ賠償ヲ命スル決定(三)證人鑑定人等ニ費用ノ賠償ヲ命スル決定等是レナリ

乙 執行命令

丙 裁判上ノ和解 裁判上ノ和解ハ裁判所書記カ調書ニ記載シテ明確ニスルヨリテ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ル

丁 公證人ノ作リタル公正證書 公正證書ハ(一)一定ノ金額ノ支拂又ハ其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコト(二)直チニ強制執行ヲ受クヘキ旨ヲ證書ニ記載シタルコトノ二條件ヲ具備スルニヨリテ執行シ得ヘキ債務名義ト爲ル

戊 破産手續ニ依リ債權調査會ニ於テ確定シタル請求

己 假差押及假處分命令 此命令ハ本來債務名義タルモノニアラサルモ執行ニ付テ強制執行ニ關スル規定ヲ準用スルカ故ニ此點ニ於テ債務名義ト爲ルモノナリ

●判決以外ノ債務名義ヲ説明スヘシ(明治四十年五月)秋田地方裁判所書記試驗

前問ヲ參照スヘシ

●假執行ノ宣言ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲スヘキモノナルカ

(明治三十三年十月福岡地方裁判所書記試驗) 明治三十二年四月名古屋地方裁判所書記試驗

解説

假執行ノ宣言ヲ附スルコトハ第一審ニ於テスルコトアリ又控訴審上告審ニ於テスルコトアリ而シテ本法ノ規定ニ依レハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ附スル場合ト債權者ノ申立ニ因リ之ヲ附スル場合若クハ債務者ノ申立ニ因リ之ヲ制限スル場合アリ以下其場合ヲ示ス

第一 職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ附スル場合

元來我民事訴訟法ハ不干涉主義ヲ原則ト爲セトモ經濟上ノ利益ヲ慮リ例外トシテ左ノ判決ニ付テハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ附スヘキモノトス

(イ) 認諾ニ基キ敗訴ヲ言渡ス判決

(ロ) 證書訴訟又ハ爲替訴訟ニ於テ言渡ス判決

(ハ) 同一審ニ於テ同一ノ原告若クハ被告ニ對シ本案ニ付キ言渡シタル第二又ハ其後ノ關席判決

(ニ) 假差押又ハ假處分ヲ取消ス判決

(ホ) 養料ヲ支拂フ義務ヲ言渡ス判決但訴ノ提起後ノ時間及ヒ其提起前最後ノ三箇月間ノ爲ニ支拂フヘキモノナルトキニ限ル

以上ハ請求ノ性質上權利ノ實行ヲ迅速ナラシムルノ必要アリト看做シ職權上假執行ノ宣言ヲ附スルモノトス而シテ其訴訟ニ於ケル訴訟費用モ亦併セテ其宣言ヲ爲スヲ相當トス(五〇一條)

第二 債權者ノ申立ニ依リテ假執行ノ宣言ヲ爲ス場合

(イ) 總テノ住家其他ノ建物又ハ其或ル部分ノ受取明渡使用占據若クハ修繕

ニ關シ又ハ賃借人ノ家具若クハ所持品ヲ賃借人ノ差押ヘタルコトニ關シ賃貸人トノ間ニ起リタル訴訟

(ロ) 占有ノミニ係ル訴訟

(ハ) 雇人トノ間ニ雇期限一箇年以下ノ契約ニ關リ起リタル訴訟

(ニ) 左ニ掲ケタル事項ニ付キ旅人ト旅店若クハ飲食店主人トノ間ニ起リタル訴訟又ハ旅人ト水陸運送人トノ間ニ起リタル訴訟

甲 賄料又ハ宿料又ハ旅人ノ運送料又ハ之ニ伴フ手荷物ノ運送

乙、旅店若クハ飲食店ノ主人又ハ運送人ニ旅人ヨリ保護ノ爲メ預ケタル手荷物金錢又ハ有價物

(ホ) 以上ノ外財産權ニ關スル請求ニシテ金額又ハ價額ニ於テ貳拾圓ヲ超過セサル訴訟

(ヘ) 財産權ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者カ執行ノ前ニ保證ヲ立テント申立テタル場合

(ト) 財産權ノ請求ニ關スル判決ニ限リ債權者カ判決ノ確定前ニ執行セザルハ債ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害ヲ受クヘキコトヲ説明スル場合

以上ハ法律カ債權者保護ノ爲ニ特ニ規定シタリ(五〇二條五〇三條)

第三 債務者ノ申立ニ依リ假執行ノ宣言ヲ制限又ハ免除スル場合

債務者カ判決前ニ判決ヲ執行セラルルカ爲ニ回復スヘカラサル損害ヲ受クヘキ事實ヲ説明シタルトキハ裁判所ハ其申立ニ因リ左ノ如ク宣言スルモノトス(五〇四條)

(イ) 職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ判決ヲ假ニ執行スヘカラサルコト

(ロ) 債權者ノ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ債權者ノ申立ヲ却下スルコト

●外國裁判所ノ判決ハ本邦ニ於テ直チニ強制執行ヲ爲シ得ヘキモ若シ直チニ爲シ得サルモノトセハ之ヲ爲シ得ヘキ手續ヲ示スヘシ

(明治三十三年三月) 福岡地方裁判所書記試験

解説

外國裁判所ノ判決ニ基ク強制執行ハ我國ニ於テ直チニ之ヲ許ササルモノトス蓋シ外

國裁判所カ其裁判所ノ名義ヲ以テ爲シタル命令ハ其自國人民ヲ羈束スヘキニ止リ他國人民ニマテ其效力ヲ及ホスヘキモノニアラサルカ故ナリ是ヲ以テ我國ニ於テ外國裁判所ノ判決ノ執行ヲ爲スコトヲ求メンニハ先ツ其執行ノ許可ヲ求ムル訴ヲ我國裁判所ニ起シ執行判決ヲ受ケサルヘカラス而シテ執行判決ヲ求ムル訴ニ付テハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判又ハ地方裁判所之ヲ管轄シ又普通裁判籍ナキトキハ民事訴訟法第十七條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ對スル訴ヲ管轄スル裁判所之ヲ管轄ス執行判決ヲ爲ス目的ハ外國裁判所ノ判決カ實體上其當ヲ得タルヤ否ヤヲ調査スルニアラス唯形式上確定シタル判決ナルヤ否ヤ及本邦ノ法律並ニ國際條約ニ依リ我國ニ於テ許シ得ヘキモノナルヤ否ヤヲ調査シ果シテ適法ノモノナルトキハ之ニ依テ執行ヲ許スニ在リ然ルトキハ是我國裁判所ノ命令ニ基ク執行ナルヲ以テ國ノ威嚴ヲ毀損スルコトナシトス(五一四條五一五條)

●確定判決ト公證人ノ作リタル證書ニ於ケル強制執行上ノ差異如何

(明治三十三年六月) 盛岡地方裁判所書記試験

解説

- 一、前者ノ執行力アル正本ハ第一審裁判所ノ書記又訴訟カ上級裁判所ニ繫屬スルトキハ其裁判所ノ書記カ附與スルモノナレトモ后者ノ執行力アル正本ハ其證書ヲ保存スル公證人之ヲ附與ス
- 二、前者ノ執行文附與ニ對スル異議ニ付テノ裁判及ヒ更ニ執行附與ニ付テノ裁判ハ執行文ヲ附與シタル裁判所書記ノ屬スル裁判所之ヲ爲セトモ后者ノ其等ノ裁判ハ公證人職務上ノ住所ヲ有スル地ヲ管轄スル區裁判所之ヲ爲ス
- 三、請求ニ關スル異議ノ主張ニ付テハ後者ハ前者ニ關スル民事訴訟法第五百四十五條第二項ノ制限ニ從ハス

解説

●執行文ヲ附スヘキ各債務名義ヲ舉ケテ説明スヘシ(明治四十二年二月千葉地方裁判所書記試験)

強行執行ヲ實施スルニ執行文ノ附與ヲ必要トス債務名義ノ種類ヲ舉示スレハ左ノ如シ

- (一) 確定ノ終局判決
- (二) 強制執行ニ關シテ終局判決ト看做サルル中間判決

- (三) 假執行ノ宣言ヲ附シタル終局判決 但シ假執行ノ宣言ヲ取消ス裁判ヲ執行スルニハ執行文ヲ要セス
- (四) 外國裁判所ノ判決ニ附スル執行判決
- (五) 仲裁判斷ニ附スル執行判決
- (六) 抗告ヲ以テノミ不服ノ申立ヲ許ス裁判
- (七) 裁判上ノ和解
- (八) 公證人ノ作リタル公正證書
- (九) 破産手續ニ依リ債權調査會ニ於テ確定シタル請求
- (十) 執行命令ハ本原トシテ執行文ヲ要セサルモ其命令ヲ發シタル後債權者又ハ債務者ニ承繼アリタルトキハ執行文ノ附與ヲ受クルニアラザレハ執行ヲ實施スルコトヲ得サルモノナリ

●執行文ハ如何ナル裁判ニ對シ附與スヘキヤ(明治三十四年四月富山地方裁判所書記試験)

解説

本問モ亦前問ト同一趣旨ニ出ツルモノナルヲ以テ前問ノ解説ヲ採テ答案ト爲スコト

ヲ得唯問題ニハ裁判トアルヲ以テ前問ノ債務名義中裁判ニアラサル債務名義即チ公正證書及ヒ債權調査會ニ於テ確定シタル請求ヲ舉クルコトヲ要セサルモノナリ

●執行文ヲ附セスシテ執行シ得ル裁判ヲ列擧スヘシ(明治四十二年八月 札幌地方裁判所書記試験)

解説

執行シ得ヘキ債務名義ハ執行文ノ附與ヲ受クルニアラサレハ執行ヲ實施スルコトヲ得サルヲ本則トス然レトモ左ニ擧クル三箇ノ債務名義ハ執行文ノ附與ヲ要スルコトナク直チニ執行シ得ルモノナリ

- 第一 假執行ノ宣言ヲ取消シ又ハ變更スル裁判
- 第二 執行命令 但シ債權者又ハ債務者ニ承繼アリタルトキハ執行文ヲ要ス
- 第三 假差押及假處分命令 此命令モ亦執行命令ト同シク承繼アリタル場合ニ限リ執行文ヲ要ス

●執行力アル正本ハ何人ニ對シ如何ナル場合ニ附與スヘキヤ

(明治四十二年九月 大分地方裁判所書記試験)

解説

執行力アル正本ハ債務名義ニ表示セラレタル債權者ノ申請ニ因リテ之ヲ附與スルモノナリ而シテ執行力アル正本附與ノ申立ハ執行シ得ヘキ債務名義ノ存在スルコトヲ必要ノ前提條件トスルモノナルヲ以テ判決ニ付テハ確定シ若クハ假執行ノ宣言アルコトヲ必要トシ又必要アル場合ニハ債權者ニ於テ判決確定ノ證明書ヲ提出シテ之ヲ求メサルヘカラス其他判決ニ因ラサル債務名義ノ場合ニハ直チニ其附與ヲ申請スルコトヲ得ヘシ

要スルニ執行力アル正本ハ判決其他ノ執行シ得ヘキ債務名義ノ存在スル場合ニ其債務名義ニ表示セラレタル債權者若クハ其承繼人ノ申請ニ因リ裁判所書記又ハ公證人ニ於テ債務名義ニ表示セラレタル債務者又ハ其承繼人ニ對シテ強制執行ヲ爲スカ爲メニ債權者又ハ其承繼者ニ附與スルモノナリ

●書記カ獨立シテ判決ノ執行力アル正本ヲ附與スル場合及裁判長ノ命令ヲ俟ツ場合ヲ擧ケヨ(明治三十三年五月 名古屋地方裁判所書記試験)

解説



強制ノ執行ヲ爲シ得ヘキ判決ニシテ執行ニ關シ執行文ノ附與ヲ必要トスルモノニ對シテハ書記ハ獨立シテ執行力アル正本ヲ附與スルヲ本則トス然レトモ元來書記ハ裁判ヲ爲スノ權ヲキテ特別ノ判斷ヲ要スヘキ場合ニ於テハ裁判長ノ命令ヲ受ケタル上ニアラサレハ執行文ヲ附與スルコトヲ得サルモノトス其場合ハ即チ左ノ如シ

(イ) 判決ノ執行力其趣旨ニ從ヒ保證ヲ立ツルコトノ條件ニ繋ルノ外他ノ條件ニ繋ル場合 即チ債權者カ反對給付ヲ爲ス義務アル場合若クハ行爲ヲ爲ス義務アル場合又ハ停止條件ニ繋ルカ如キ場合ノ意義ナリ此場合ニ於テハ債權者ハ信用スヘキ證明書ヲ以テ其條件ヲ履行シタルコト若クハ條件ノ到來セルコトヲ證明セサルヘカラス

(ロ) 判決ニ表示シタル債權者ノ承繼人ノ爲メ執行文ヲ附與シ又ハ之ニ表示シタル債權者ノ一般ノ承繼人ニ對シ執行文ヲ附與スヘキ場合但其承繼カ裁判所ニ於テ明白ナルトキ又ハ證明書ヲ以テ之ヲ證スルトキニ限ル

(ハ) 債權者カ執行力アル正本ノ數通ヲ求メ又ハ前ニ附與シタル正本ヲ返還セスシテ更ニ同一ノ正本ヲ求ムル場合

●裁判所書記カ判決ノ執行力アル正本ヲ附與スルニ當リ裁判長ノ命令ヲ要スル場合如何(明治四十年四月名古屋地方裁判所書記試驗)  
(明治四十二年十月岡山地方裁判所書記試驗)

前問ノ解説ヲ參照スヘシ

●強制執行ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ停止シ又ハ制限スルコトヲ得ルヤ

(明治三十四年三月)  
(福島地方裁判所書記試驗)

解説

債務者又ハ第三者カ左ニ掲クル所ノ裁判書又ハ證明書ヲ提出スルトキハ執行機關殊ニ執達吏ハ着手シタル強制執行ヲ停止若クハ制限スヘキ義務アルモノトス而シテ此停止又ハ制限ニハ一時的ノモノト終局的ノモノトアリ(五五〇條)

- イ、執行スヘキ判決若クハ其假執行ヲ取消ス旨又ハ強制執行ヲ許サストシテ宣言シ若クハ其停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル執行力アル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキ(執行力アル正本ハ敢テ執行文ヲ附與シタル正本タルコトヲ要セス執行シ得ヘキ裁判タルヲ以テ足レリトス)

(ロ) 執行ヲ免ルル爲メ保證ヲ立テ又ハ供託ヲ爲シタル旨ヲ記載シタル公正ノ證明書ヲ提出シタルトキ

二、一時的ニ停止又ハ制限スル場合

イ、執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命シタル旨ヲ記載シタル裁判ノ正本ヲ提出シタルトキ

ロ、執行スヘキ判決ノ後ニ債權者カ辯論ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキ

以上ノ外尙ホ強制執行ヲ停止セサルヘカラサル場合アリ即チ債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ執行ヲ停止セサルヘカラサルモノトス(破産九八七條)

●照査手續トハ何ソヤ(明治四十二年十月 松山地方裁判所書記試驗)

解説

民事訴訟法ニ於テハ特別ノ例外ヲ除クノ外ハ一度差押ヲ爲シタル物件ニ對シ重ネテ差押ヲ爲スヲ許ササルモノナルカ故ニ執達吏ハ執行力アル正本ニ依リ債權者ヨリ委任ヲ受クルモ一度差押ヘラレアル物件ニ對シテハ二重ノ差押ヲ爲スコトヲ得サルヲ

以テ第一ノ差押ヲ爲シタル執達吏ニ付キ差押調書ノ閲覧ヲ求メ之ニ依リ未タ差押ニ繫ラサル殘餘ノ財産アリヤ否ヤヲ照査シ若シ未タ差押ニ繫ラサル財産アルトキハ更ニ之ヲ差押ヘ照査調書ヲ作り前ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付シ併合シテ其差押物件ノ換價ヲ爲サンコトヲ求ムヘク若シ他ニ差押フヘキ殘餘ノ財産存セサルトキハ其旨ノ照査調書ヲ作り既ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ之ヲ交付スヘキモノナリ第二ノ執達吏カ此等ノ手續ヲ盡シタルトキハ第二ノ債權者ノ執行委任ハ法律上當然前ニ差押ヲ爲シタル執達吏ニ移轉スルノ效力ヲ生スルモノナリ此手續ヲ稱シテ照査手續ト謂フ

●金銀ノ債權ニ付テノ強制執行ノ種類ヲ列舉シ其手續ノ大略ヲ説明スヘシ

(明治三十三年四月 神戸地方裁判所書記試驗)

解説

左ニ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ種類ヲ舉ケ其手續ヲ略説スヘシ

第一 動産ニ對スル強制執行

甲 有體物産ニ對スル強制施行

法律學 民事訴訟法

金錢ヲ目的トスル債權ニ付テノ強制執行ハ債務者ノ財産ヲ差押ヘ之ヲ競賣シテ債務及ヒ執行費用ヲ完済スルニ在リ

一、差押實施手續 (一)債務者ノ占有中ニアル有體動産ノ差押ハ執達吏其物ヲ占有シテ之ヲ爲ス(二)債權者ノ承諾アリ且其運搬ヲ爲スニ困難ナルトキハ占有ヲ奪ハスシテ債務者ノ保管スルコトヲ得(三)共有物ハ全部ヲ差押ヘ之ヲ競賣ス(四)執達吏ハ債務者ニ差押ヲナシタル通知ヲナスヘシ

二、差押後ノ手續

(イ) 現金ノ差押 (一)執達吏カ現金ヲ差押ヘタルトキハ之ヲ債權者ニ引渡ス(二)其金錢ノ取立ヲナシタル後ハ他ノ債權者ハ之カ差押若クハ配當加入ヲナスコトヲ得ス

(ロ) 現金以外ノ差押 (一)現金以外ノ差押物ハ公賣ス(執達吏カ)(二)差押ノ日ト競賣ノ日トノ間ニ通常少クトモ七日ノ期間ヲ要ス(三)競賣ハ差押地又ハ合意地ニ於テス(四)競賣物ノ引渡ハ代金ト引換ニス

三、有價證券及ヒ其他裏書ヲ以テ移轉スヘキ債權ニ對スル差押

(イ) 有價證券 此差押ハ執達吏其證券ヲ占有シテ之ヲ爲シ市場相場アル

トキハ其相場ニ依リ之ナキ時ハ競賣ス

(ロ) 爲替證券其他裏書ヲ以テスル證券ノ差押ハ執達吏之ヲ占有シテナシ裁判所カ別段ノ方法ヲ以テ賣却スヘキ旨ヲ命セサル限ハ其權利ノ轉付ヲ以テ執行ス

乙 債權及他ノ財産權ニ對スル強制執行

一、差押ノ實施手續 此場合ニハ書面又ハ口頭ヲ以テ差押命令ノ申請ヲナスヲ要ス申請ヲ許シテ差押命令ヲ發シタルトキハ第三債務者ニ送達シ次ニ債務者ニ送達シ而シテ債權者ニ通知スヘキモノトス債權ノ差押ハ執行裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス債權ノ差押ハ第三債務者ニ對スル決定ノ送達ヲ以テ之ヲナシタルモノト看做シ第三債務者ノ現存セサルトキハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達シタルトキヲ以テ差押ヲナシタルモノト看做ス有體動産ノ引渡又ハ給付ノ請求ニ對スル差押ハ其動産ヲ債權者ノ委任シタル執達吏ニ引渡シ又ハ給付スヘキコトヲ命シ不動産ノ請求ノ差押ニ付テハ債權者ノ申立ニ依リ其不動産ヲ其所在地ノ區裁判所ヨリ命シタル保管人ニ引渡スヘキコトヲ命スヘキモノトス

二、差押後ノ手續 差押タル金銭ノ債權ニ付テハ差押債權者ノ選擇ニ從ヒ取立命令又ハ轉付命令ヲ發スルコトヲ得差押タル債權ノ目的金銭ナルトキハ換價ヲ要セサルモ金銭以外ノモノ(イ)動産ナルトキハ差押物ノ換價法ニ從ヒ(ロ)不動産ナルトキハ不動産ノ換價法ニ依ル

丙 差押財産ノ賣得金又ハ差押金ヲ以テ辨濟ヲ受ケントス債權者數名アリテ之ヲ以テ其債權者ノ總債權ヲ辨濟スルニ至ラサルトキハ配當手續ヲ行フ

第二 不動産ニ對スル強制執行  
強制競賣及ヒ強制管理ノ二方法アリ

甲 強制競賣

一、差押前ノ手續 不動産ニ對スル強制競賣ハ債權者ノ申立ニ依リ之ヲ爲ス其競賣手續ハ競賣開始決定ニヨリ之ヲ爲シ其決定書ニハ不動産ノ差押ヲ宣告ス

二、差押後ノ手續 執達吏ハ裁判所ノ指揮ヲ受ケテ競賣ヲ取扱フ競賣期日前ニハ債權申立催告、最低競賣價額確定、期日ノ公告等ヲ要ス而シテ競賣競落ト爲ル

三、債權者ハ不動産ノ競賣ニ因ル賣却代金ニ付テ配當要求ヲナスハキモノトス配當ノ競落決定ノ確定後ニ實施ス

四、裁判所ハ競賣期日ノ公告前利害關係人ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ競賣ニ代ヘ入札ヲナスヲ得

乙 強制管理

不動産ノ收益ノミヲ以テ債權ノ辨濟ニ充ツルヲ目的トスル場合ニハ強制管理法ヲ行フ

執行裁判所ハ管理人ニ對シ必要ナル指揮ヲナシ業務施行ヲ監督ス他ハ競賣ノ手續ニ同シ

第三 船舶ニ對スル強制執行

債權者ノ申立ニ依リ行フ  
債權者ノ申立ニ依リ通常ノ方法ヲ以テスル差押前ト雖モ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要處分ヲナスヲ得之ヲナシタルトキハ開始決定ノ送達ヲ以テ爲ス  
競賣手續ハ不動産ト略同一ナリ

●債権ニ對スル強制執行ノ取立命令ト轉付命令トノ差異如何

解説

(明治三十四年五月)  
佐賀地方裁判所書記試験

債権ニ對スル強制執行ノ場合ニ於ケル取立命令ト轉付命令トノ間ニハ左ノ差異アリ  
(六〇二條以下)

- 一、取立命令ハ代位ノ手續ヲ要セスシテ差押タル債權ヲ取立ツル爲メノ命令ナレトモ轉付命令ハ債務者カ債權者ニ對シ自ラ支拂ヲ爲スニ換ヘ差押ヘラレタル債權ヲ券面額ニテ差押債權者ノ有ニ歸セシムル爲メノ命令ナリ
- 二、債權者ハ取立命令ニ依リ取得セル權利ヲ拋棄スルコトヲ得然レトモ再ヒ請求スルヲ妨ケス轉付命令ニ付テハ此規定ナキカ故ニ拋棄シタルトキハ再ヒ請求スルコトヲ得ス
- 三、取立命令ハ金錢及有價物ニテモ可ナレトモ轉付命令ハ金錢ニ限ル
- 四、債權者カ取立ヲ爲スヘキ行用ヲ怠リタルトキハ之カ爲メ債務者ニ生シタル責任スト雖轉付命令ニ付テハ其責ニ任セス
- 五、轉付命令ハ命令ヲ發シタルノミニテ支拂ヲ爲シタルモノト看做スト雖トモ取立

命令ハ取立ヲ執行裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス取立ヲ命シタルノミニテハ未タ其債權ハ差押債權者ノ有ニ歸セス

- 六、債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲナサシメテ執行ヲ免ルルコトヲ許ストキハ取立命令ノミヲ發スルコトヲ得レトモ轉付命令ヲ發スルコトヲ得ス
- 七、取立命令ニ付テハ其債權ノ金額ニ及フモノトスレトモ轉付命令ハ債權ノ存スル程度ニ限ル尤モ取立命令ト雖トモ要求額ニ制限スルコトヲ得

●不動産ニ對スル強制競賣ト強制管理トノ性質上ノ差異如何

(明治四十二年三月)  
山形地方裁判所書記試験

解説

不動産ニ對スル強制競賣ハ不動産自體ヲ直チニ競賣シ其賣得金ヲ得ルヲ以テ其本質ト爲スモ之ニ反シテ強制管理ハ不動産自體ヲ賣却スルニアラスシテ其不動産ヲ管理シ之ヨリ生スル收益ヲ取得シ若シ其收益ニシテ金錢ニアラサルトキハ之ヲ換價シテ金錢ヲ得ルヲ以テ其本質ト爲スモノナリ故ニ強制競賣ハ其性質上差押ノ場合ニノミ限ルヘキモノニシテ假差押ノ場合ニハ此方法ヲ採ルコトヲ得サルモ強制管理ハ假差

押ノ場合ニモ之ヲ爲シ得ルモノナリ  
以上ノ如ク強制競賣ト強制管理トハ其性質目的ヲ異ニスルニ依リ強制競賣ノ場合ニ於テハ強制執行ヲ完結シタルトキハ其不動産ハ債務者ノ所有ヲ離レテ競落人ノ所有ニ歸スルモノナルモ強制管理ハ其強制執行ヲ完結スレハ其不動産ハ未タ差押ナカリシ以前ト等シク債務者ニ於テ完全ニ其使用、收益、處分ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルモノナリ

● 配當實施ノ手續ヲ略述セヨ(明治四十二年八月 神戸地方裁判所書記試験)

解説

強制執行ニ於ケル配當實施ノ手續ヲ略述スレハ左ノ如シ

第一 配當裁判所カ配當實施ニ際シ債權ノ全部ヲ配當スヘキ場合ニハ其債權者ニハ配當支拂書ヲ交付スルト同時ニ其所持スル債務名義ニ關スル證書即チ執行力アル正本ヲ有スル債權者ニ付テハ其正本ト債權證書トヲ提出セシメ又民法ノ規定ニ依ル配當要求者ニ付テハ債權證書ヲ提出セシメ之ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス

第二 債權ノ一部ノミヲ配當スヘキ場合ニ於テハ債權行ニ執行力アル正本又ハ債權證書ヲ提出セシメ之ニ其配當額ヲ記入シテ還付シ之ト同時ニ其債權者ヨリ配當シタル部分ノ金額ヲ證記シタル受取證書ヲ提出セシメテ之ヲ債務者ニ交付セサルヘカラス

第三 期日ニ出題セサル債權者ニ配當スヘキ部分ハ之ヲ配當スルコトヲ得サルカ故ニ尙ホ引續キ供託シテ之ヲ保存スヘキモノナリ  
右ノ手續ニ依ル配當實施ハ敢テ現金ヲ積權者ニ交付スルニアラス先キニ供託シタル金員ハ其儘ニ爲シ置キ唯配當額支拂書ヲ交付シ之ヲ受ケタル債權者ハ其支拂證書ヲ以テ供託金ヲ受クヘキモノナリ  
以上ノ手續ヲ爲シタルトキハ配當裁判所ハ口頭辯論書ニ關スル規定ニ準據シテ書記ヲシテ其調書ヲ作ラシメ其配當ヲ完結スヘキモノトス

● 假差押申請ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲スコトヲ得ルヤ(明治三十三年九月 青森地方裁判所書記試験)

解説

假差押申請ハ左ニ掲クル目的ト理由トヲ有スル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第一 假差押ノ目的

假差押ノ本質ハ金錢ノ債權ニ付キ動産又ハ不動産ニ對スル強制執行ヲ保全スル爲メ假ニ之ヲ差押ヘ以テ債務者ノ處分權ヲ制限スルヲ目的トス故ニ假差押ハ金錢ノ債權以外ノ請求ニテモ之ヲ満足セシムルニ當リ其請求ノ目的物ニ代エテ其價額若クハ損害賠償トシテ金錢ヲ求メ得ヘキ性質ノモノニ係ルトキハ金錢ノ債權ト看做シ其請求ノ爲メニ亦假差押ヲ爲シ得ヘキモノトス

第二 假差押ノ理由タル必要ノ條件

假差押ハ前ニ説明セシ目的ヲ有シ尙且左ノ理由中ノ一ノ存スルコトヲ要ス

(イ) 判決ノ執行ヲ爲スコト能ハサルニ至ル恐アルトキ 例ヘハ債務者カ其財産ヲ浪費シ又ハ其所有權ヲ他人ニ贈與シ債權者ニ損害ヲ與ヘントスルノ恐アル場合ノ如シ

(ロ) 判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ノ恐アルコト 例ヘハ差押ヲ爲ササルハ債務者カ遠國ニ住居ヲ移シ其他財産ヲ隠匿シ他日執行ヲ爲サンニハ遠國ニ於テ爲ササルヘカラサル場合又ハ其財産ヲ搜索スルニ困難ノ狀況アル場合ノ類而シテ茲ニ判決云々ト云フモ通常ノ場合ヲ云フニ過キス他ノ債務者

義例ヘハ和解調書又ハ公正證書等ニ付テモ其理由ノ存スルトキハ假差押ヲ爲シ得ヘシ

●假處分ヲ請求シ得ヘキ場合如何(明治三十四年五月 松江地方裁判所書記試驗)

解説

假處分ノ請求ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スル場合ナルコトヲ必要トス

第一 給付請求權ノ保全ヲ目的トシテ假處分ヲ請求スル場合

甲 係争物ニ關スルコトヲ要ス 係争物トハ金錢ノ給付ヲ目的トセサル請求權ノ目的物ヲ謂フモノニシテ既ニ訴訟ニ於テ争ニ係ルモノハ勿論未タ訴訟ヲ提起セサル以前ニ於テ當事者間ノ争ノ目的タルモノヲモ包含ス

乙 係争物ノ現狀ノ變更ニ因リ權利ヲ實行不能トナリ又ハ之ヲ實行スルニ著シキ困難ヲ生スルノ虞アルコトヲ要ス 蓋シ假處分ハ未來ノ執行保全ノ爲メニスルモノナレハ斯ル狀態ノ生セサルニ於テハ豫メ之ヲ爲サシムルノ必要ナクレハナリ

第二 給付請求權ノ保全ヲ目的トセシテ假處分ヲ請求スル場合

甲 繼續セル法律關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルモノナルコトヲ要ス 即チ此假處分ハ財産上ノ法律關係ナルト身分關係ナルトヲ問ハス其法律關係ニ付キ假ニ權利ヲ行使セシメ若クハ假ニ其權利ヲ行使セシメサルカ如キ權利狀態ノ假定スルモノナレハナリ

乙 著シキ損害ヲ避ケ若クハ急迫ナル強暴ヲ防ク爲メ又ハ其他ノ理由ニ因リ假ノ地位ヲ定ムルノ必要トスル狀況ノ存在スルコトヲ要ス

●假差押ト假處分ノ區別(明治三十二年三月和歌山地方裁判所書記試驗) 明治三十二年四月長野地方裁判所書記試驗)

解説

假差押ト假處分ノ差異ハ凡ソ左ノ如シ

- 一、假差押ハ金錢ノ債權ニ付キ未來ニ於テ爲スヘキ強制執行ヲ保全シ假處分ハ特定物ノ供給例ヘハ一定ノ物品ノ引渡ニ付テノ強制執行ヲ保全シ又ハ爭アル權利ニ付テ假リノ地位ヲ定ムルモノナリ
- 假差押ノ方法ハ必スシモ始メヨリ金錢ノ債權アル場合ノミナラス最初他ノ請求ヲ爲シタル後ニ其請求ノ満足ヲ得サル爲メ之ニ換ヘテ其價額ヲ求ムル場合ニモ

用ユルモノトス

- 二、假差押ハ單ニ強制執行ノ保全ヲ目的トスルモノナレトモ假處分ハ強制執行ヲ目的トセサル時ニモ之ヲ爲スコトアリ即係爭權利ノ地位ヲ定ムルトキ之ヲ爲スコトヲ得
- 三、假差押ノ申請ニ付テシ裁判ハ裁判所ノ意見ニ依リテ如何ナル場合ニテモ口頭辯論ヲ經スシテ爲スヲ得レトモ假處分ノ命令ハ急迫ナル場合ニ限リ口頭辯論ヲ經ルヲ要セサルモノトス

●假差押ト假處分トノ異同如何(明治四十二年六月 福岡地方裁判所書記試驗)

解説

第一 兩者ノ異ナル點

此點ニ付テハ前問ノ解説ヲ参照スヘシ

第二 兩者ノ同一ナル點

- (イ) 兩者ハ共ニ強制執行ノ保全ヲ其目的トス
- (ロ) 兩者ハ共ニ未來ノ強制執行ヲ保全スルヲ目的トス



(ハ) 兩者ハ共ニ本訴訟ノ前提トシテ其完結ヲ待ツコト能ハサル場合ニ適用アルモノナリ故ニ本訴訟ト相牽連シテ其中出ヲ爲ササルヘカラス但シ必スシモ既ニ本訴訟ノ提起アリタルコトヲ要セス

●假差押ノ執行ニ着手シタルモ差押フヘキ物件ナキ爲メ一旦之ヲ中止シ十四日ノ期間經過後ニ至リ始メテ該物件ヲ發見シ之ニ對シテ執行ヲ爲サントスルトキハ更ニ新ナル假差押命令ヲ要スルヤ否ヤ(明治四十二年九月 高知地方裁判所書記試驗)

解説

假差押命令ノ執行ハ命令ヲ言渡シ又ハ中立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日ノ期間内ニ爲スコトヲ要シ其期間ヲ徒過スルトキハ當然其命令ノ效力ヲ失ヒ以テ其命令ヲ以テ假差押ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルモノナルコトハ民事訴訟法第七百四十九條第二項ノ明定スル所ニシテ而カモ其期間ヲ徒過シタル原因ノ如何ヲ問ハサルヲ以テ縱令本問ノ如ク其目的物件ヲ發見スルコト能ハサリシカ爲メニ十四日ノ期間ヲ經過シタルトキト雖トモ其後ニ於テ更ニ假差押ヲ爲サントスルニハ必ス新ニ假差押命令ヲ受クルコトヲ要スルモノト解セサルヘカラス

●公示催告ノ要件及ヒ效力(明治三十七年十一月 福井地方裁判所書記試驗)

解説

公示催告手續ハ一種ノ特別訴訟手續ニシテ不知ノ相手方又ハ關係人ニ對シ權利主張ノ催告ヲ爲シ其催告ニ應セサルハ失權ノ宣告ヲ爲スヲ目的トスル手續ナリ今其要件及ヒ效力ヲ略述スレハ左ノ如シ

第一 要件

- (一) 公示催告ハ必ス當事者ノ申立アルコトヲ要ス
- (二) 公示催告ニハ申立人ノ表示請求又ハ權利ヲ公示催告期日即チ催告ノ爲メニ指定シタル期日迄ニ届出ヲ爲スヘキ旨ノ催告及ヒ其届出ヲ爲ササルニ由リ生スヘキ失權ヲ表示シテ發スルコトヲ要ス
- (三) 公示催告ハ前號ノ要件ヲ具備シタル催告書ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ公告シテ之ヲ爲シ又證書ノ無効宣言ヲ目的トスル場合ニハ此外必ス新聞紙及取引所ニ公告セサルヘカラス
- (四) 公示催告ノ期日ハ右ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ少ナクトモ二箇月ノ期間ヲ

存スルコトヲ要ス但シ法律ニ別段ノ定メアルトキハ格別ナリ

第二 效力

公示催告ノ效力ハ催告ニ應シテ届出ヲ爲ササル者ニ對シ除權判決ヲ以テ失權ノ宣告ノ爲スニアリ

●訴訟代理ノ普通委任ニ依ル場合ト特別委任ニ依ル場合トニ於テ其權限及ヒ效力ニ如何ナル差異アリヤ(明治四十三年十月德島地方裁判所書記試驗)

解説

訴訟代理ノ普通委任ヲ受ケタル者ハ其訴訟ニ關スル一切ノ訴訟行爲ヲ爲スノ權即チ本訴訟ニ關スル辯論故障抗告ヲ爲シ反訴ヲ提起シ主參加、假差押假處分及ヒ強制執行ヲ爲スニ必要ナル代理權及ヒ訴訟費用ニ付キ相手方ヨリ辯濟ヲ受クルノ權限ヲ有スルモ特別委任ヲ受ケタルモノニアラサレハ控訴若クハ上告ヲ爲シ再審ヲ求メ訴ヲ取下ケ代人ヲ任シ和解ヲ爲シ訴訟物ヲ拋棄シ又ハ相手方ヨリ主張スル請求ヲ認諾スルノ權限ヲ有セサルモノトス

普通委任ヲ爲シタルトキハ其代理人ハ裁判所及ヒ相手方ニ對シ法律上當然前示ノ權限ヲ有スルモノト看做サルヘキモノナルカ故ニ其代理權ニ加ヘタル制限ハ本人代理

人間ニハ有效ナルヘキモ裁判所及ヒ其訴訟ノ相手方ニ對シテハ何等ノ效力ナキモノトス之ニ反シテ特別委任ノ範圍ニ屬スル事項ハ一個ノ事項ノミヲ委任スルト將テ數個ノ事項ヲ委任スルトハ當事者ノ隨意ニ定メ得ルモノナルカ故ニ其委任ヲ證スヘキ書面ニハ必ス其範圍ヲ明確ニ記載セサルヘカラス尤モ普通委任ノ場合ニ於テモ辯護士ニアラサル者ヲ以テ訴訟代理人ト爲ス場合ニハ各個ノ訴訟行爲ニ付キ委任ヲ爲スコトヲ得ヘキモノナルニヨリ是亦特別委任ノ場合ト等シク訴訟委任ヲ證スヘキ書面ニ其代理權ノ範圍ヲ明示セサルヘカラサルモノトス

●職權ヲ以テ裁判ヲ送達スヘキ場合ヲ舉ケヨ(明治四十四年五月山形地方裁判所書記試驗)

解説

裁判ニハ判決、決定、命令ノ三種存在スルモ判決及ヒ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ決定ハ常ニ當事者ノ申立ニヨリテ送達スヘキモノニシテ當事者ノ申立ヲ俟タズ職權ヲ以テ送達ヲ爲スヘキ裁判ハ言渡ヲ爲ササル裁判所ノ決定及ヒ言渡ヲ爲ササル裁判長並ニ受命判事又ハ受託判事ノ命令タル裁判ニ限ラルルモノトス

●證據保全ハ如何ナル場合ニ之ヲ爲スヤ(同上)

解説

證據保全トハ當事者カ後日訴訟ニ於テ利用セントスル證據方法ノ紛失又ハ之ヲ使用シ難キニ至ル虞アル場合ニ於テ豫メ證據調ヲ爲シ證據原因ヲ保存シ置クヲ謂フ故ニ此手續ハ當該訴訟ノ繫屬前ナルカ若クハ少クトモ其訴訟カ未タ證據調ノ程度ニ達セサル以前ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス蓋シ訴訟ノ提起前若クハ訴訟ノ進行中ト雖モ未タ證據調ノ程度ニ達セサル以前ニ於テハ證據調ノ必要アリヤ否ヤハ未定ノ問題ニ屬スト雖モ之カ爲メニ他日證據調ノ必要生シタル場合ニ既ニ其證據方法ヲ失ヒ遂ニ其利用ヲ爲スコトヲ得サルニ至リ當事者ニ損害ヲ被ムラシムルコトナキニアラサルヲ以テ豫メ此ニ證據ヲ保全セシメ置クノ必要存在スルニ因ル此ノ如ク證據保全ハ將來ニ必要ヲ生スルコトアルヘキ證據調ヲ豫メ爲シ置クモノナルカ故ニ之ヲ爲スニハ左ノ如キ條件ヲ必要トス

- (一) 證據方法ヲ紛失スルノ虞レアルトキ若クハ其證據方法ヲ使用シ難キニ至ル虞レアル場合ナルコトヲ要ス 但シ此要件ハ相手方ノ承諾ナキ場合ニ限り之ヲ必要トスルモノニシテ若シ相手方カ證據保全ヲ爲スニ付キ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ此要件ヲ免除シタルトキト雖モ尙ホ證據保全ヲ爲スコトヲ得ハシ
- (二) 證據保存ノ方法ハ證人若クハ鑑定人ノ訊問又ハ檢證ノ方法ノミニ依ルコトヲ要ス故ニ其他ノ證據方法ヲ用アルコトハ絶對ニ許サレサルモノトス

●債權ニ對スル差押及ヒ其假差押ノ方法並ニ效力如何(明治四十三年十月 徳島地方裁判所書記試験)

解説

第一 債權ニ對スル差押ノ方法及其效力

甲 差押ノ方法

債權ニ對スル差押ハ執行裁判所ノ差押命令ヲ以テ爲スヘキモノニシテ其差押命令ニハ左ノ二ヶノ禁止ヲ明示スル裁判ヲ以テ爲スヘキモノトス

- (イ) 第三債務者ニ對シテ債務者ニ支拂ヲ爲スヘカラサルコトノ禁止
- (ロ) 債務者ニ對シテ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スヘカラサルコトノ禁止

此差押命令ハ單純ナル債權者ノ申立ニ依リ豫メ第三債務者及債務者ヲ審訊スルコトナクシテ之ヲ發シ此命令カ第三債務者送達セラレタルトキニ差押ノ效力ヲ生スルモノトス

乙 差押ノ效力

差押命令カ第三債務者ニ送達セラレタルトキハ第三債務者ハ債務者ニ對シテ有  
效ニ辨濟スルコトヲ得ス然レトモ差押債權者ノ權利ヲ害セサル範圍内ニ於テ之  
ヲ處分スルハ毫モ妨クル所ニアラス而シテ其效力ハ差押タル債權額ヲ限度トス  
但シ其債權ノ利息及ヒ其債權ヲ擔保スル物權ニモ及フハ勿論ナリ又俸給及ヒ之  
ニ類似スル繼續收入ノ債權ハ第一回ノ收入ニ關スル債權ヲ差押ヘタル效力トシ  
テ其以後ニ來ルヘキ同一ノ收入ニマテ其效力ヲ及ホスモノトス

第二 債權ニ對スル假差押ノ方法及其效力

甲 假差押ノ方法

債權ニ對スル假差押ハ本訴既ニ裁判所ニ提起セラレタル後ナルトキハ其管轄裁  
判所然ラサルトキハ假ニ差押フヘキ債權ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ申請シ  
其裁判所ノ係争債權ハ假ニ差押フル旨ノ判決(口頭辯論ヲ經タルトキ)若クハ決  
定ヲ第三債務者ニ送達シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ其送達アリタルトキハ假差  
押ノ效力ヲ生スルモノトス

乙 假差押命令ノ效力

債權ニ對スル假差押モ他ノ動産不動産等ニ對スル假差押ノ場合ト異ナル所ナク  
其判決若クハ決定ノ確定スルヲ俟タヌ又假執行ノ宣言ヲ要セス其命令自體ニ於  
テ執行力ヲ有ス而シテ此假差押命令ニ基ク執行力ハ他ノ債務名義ニ依ルモノト  
異ナリ左ノ如キ變例ヲ生ス

(イ) 假差押命令ハ承繼アルトキノ外ハ執行文ノ付與ヲ要セス又其命令ヲ債務  
者ニ送達スル前ト雖モ執行スルコトヲ得但シ此後ノ分ハ債權ノ假差押ニ適用  
ナシ

(ロ) 假差押命令ハ其言渡又ハ申立ニ送達シテヨリ十四日內ニ執行ニ着手セザ  
ルトキハ其效力ヲ失フモノトス

債權ニ對スル假差押ノ執行ハ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁ス  
ル旨ノ命令送達スルコトニヨリテ之ヲ爲ス

第二類 普通學

第一部 讀書

◎白文訓點(明治二十九年九月岐阜縣文官普通試驗)

(二) 嘗來江戶一日過街市。適大小神祇組飲於酒樓。望見藤樹相謂曰。彼以聖人得稱者也。聖人其如吾黨。何試唾其面辱之。直來遍聲色並厲曰。鈍賊得非世所謂今之聖人。而胡沾虛名以誣罔人邪。戟手向之。藤樹徐陳姓名曰。少長于近江農家。以其小識字見爲里中童蒙師耳。安得若君之言乎。其容貌言吐感動人神祇組不覺節折曰。吾黨過矣。吾黨過矣。願先生宥無禮之罪。從今敬受教於門下。

(左ノ字表ヲ解釋スヘシ)

解説

聲色並厲 色ヲ爲シ聲ヲ厲マヌノ意ナリ

節折 膝ヲ屈スルノ意ナリ

(二) 余數往來攝播間。訪所謂櫻井驛者。得之山崎路。一小村耳。過者或不省其爲驛址。蓋經足利織豐數氏。世故變移。道里驛程。從輒改耳。余於是低回不能去。願望金剛山巔。立雲際。想見公舉義之秋。及其子孫據以扞護王室也。觀公詣行在對天子。曰臣而未死。賊不患不滅。夫以一兵衛尉。而居然以天下之重自任。豈非感激值遇。許身許國哉。故能於赤子障江河。回天日於既墜。何其壯也。

(左ノ字義ヲ解釋スヘシ)

解説

低回 決然之ヲ去リ兼ヌル譯ナリ

欠

MISSING

シ常ニ念フ今壯年ニナリナカラカメ戰フナクハ唯ハ復スヘキノ身ニテアリシ  
カラ意外ノ疾ニ罹ルアラハ其コソ天子ニ對シ奉リテハ不忠ノ臣トナリ父ニ對  
シテハ遺志ヲ繼カサル不孝ノ子トナラン今ヤ賊ノ大將軍勢ヲ率キテ來リ戰ヲ  
挑ム今コソ至カ命ノ亡フル迄戰フヘキ亦得カタキ好時機テアル

◎白文訓點(明治三十二年三月滋賀縣文官普通試驗)

書曰。明德慎罰。惟刑恤哉。禮云。爲上易事。爲下易知。則刑不煩矣。  
上人疑則百姓惑。下難知則君長勞矣。夫上易事則下易知。君長  
下勞。百姓不惑。故君有一德。臣無二心。上播忠厚之誠。下竭股肱  
之力。然後大平之基不墜。康哉之詠斯起。當今道被華戎。功高宇宙。  
無思不服。無遠不臻。然言尙簡。文志在於明察。刑賞之用。有未  
盡。夫刑賞之本。在乎勸善而懲惡。帝王所以與天下爲畫。一不以  
貴賤親疎而載重者也。



●白文訓點及釋義(明治三十一年三月靜岡縣文官普通試験)

三二〇

彼北條氏雖失於政其權力有更甚焉藉累世之威而加積弱之餘百萬虎狼隨其指呼魚咻中國莫之或撓天下方以承久爲戒重踵屏息莫敢言勤王之事而楠公獨以眇々之軀唱義其間當其衝路挫其爪牙以鼓舞四方義士之氣使之一時踵起殄戮元惡於斧鉞之下報列聖之深仇雪累世之大耻天下萬姓再得仰日月之光雖曰屬皇運之泰而非公爲之唱焉能至此是烏知非天生斯人以匡濟世道哉

彼ノ北條氏ハ其政權ヲ失セリト雖モ其權威勢力ハ却テ義時ノ時ヨリ更ニ一層甚シキ所アリ累世即チ時政ヨリ高時ニ至ル九代ノ威力ヲ藉リテ而シテ弱リ弱リタル殘餘ノ朝廷ニ對シテ兵ヲ加フ百萬ノ虎ノ如キ狼ノ如キ武士ハ北條氏ノ指圖ニ隨ヒテ全國ヲ一ニシ充分勢威ヲ張ランカ朝廷之ニ恐レ敢テ師ヲ出ササラン天下ノ者ハ承久ノ變ヲ以テ戒トシ踵ヲ重ネ息ヲ屏シ毫モ王事ニ勤メントスル者ナシ而ルニ獨リ正成ハ僅ニ眇々ノ軀ヲ以テ朝廷ヲ助ケ逆賊ヲ討タントスルノ義心ヲ

唱ヘ其衝路ニ當リ北條氏ノ爪牙タルヘキモノヲ千窟城ニ挫キ以テ四方ノ義心アル武士ノ氣象ヲ鼓舞獎勵シ之ヲシテ一時ニ踵キ起リ高時ヲ斧鉞ノ下ニ誅戮セリ代々ノ天皇ノ深仇ヲ報ヒ累ナリシ朝廷ノ大耻ヲ雪キ天下萬民ヲシテ再ヒ日月ノ光ヲ仰クヲ得セシメハ固ヨリ皇運ノ挽回セシニ因ルト雖モ公ノ之カ首唱ヲ爲スニ非サレハ焉ノ以テ斯ノ如キ大功ヲ見ルニ至ラン是レ焉ソ天帝斯ノ如キ人傑ヲ誕生セシメ世道人心ノ傾曲心救濟セラレタルニアラサルヲ知ランヤ

●白文訓點及義解(明治三十一年五月巖手縣文官普通試験)

景雲之元釋奠大學其二年旌表孝子貞婦其三年百官朝道鏡於西宮噫釋奠之禮何禮乎旌表之典何典乎而眞備則以爲道行矣乎故講禮講學儼然稱士大夫而無氣節焉則其無益於國也如此夫以赫々天朝祖宗百世之天下而欲傳之一比丘誰不知其不可而莫敢言者何哉曰悞禍也當此時有一人焉言之是損其一身以存祖宗之天下也清麻呂是已故曰士之氣節關係天下國

家。有天下國家者。不可不養。此以爲倚賴也。及光仁天皇之即位。首召還清麻呂。復其本官。是矜式士大夫。定天下之所向也。嗚呼。可謂知所務矣。天下可百年無如諸兄真備者。不可一日無如清麻呂者。

三二二

景雲元年帝大學ニ幸シ釋奠ノ禮(孔子ヲ祀ルノ禮)ヲ行ヒ玉フ其二年孝子貞婦ヲ旌表ス其三年ニ道鏡ヲ西宮ニ朝參ス噫サテモサテモ釋尊ノ禮ハ何ンカ爲メニスル禮ナルヤ旌表ノ典ハ何ノ典テアルカ是レテモ真備ハ道行ハレタリトナス其故ニ儼然イカメシク構ヘテ士大夫ト稱シテ居ル而シテ少シモ氣節ト云フモノカナイ則國ニ利益ナキヤ如此夫レ嚇々タル天朝皇祖皇相傳ノ天下ヲ以テレ之ヲ一比丘ノ道鏡ヘ傳ヘントス誦トシテ其不可ナルコトヲ知ラサルノ理アランヤ三歲ノ童子モ亦之レヲ知ラン斯ル觀易ク且ツ重大ナル事件テアリナカラ一人トシテ言議スルモノナキハ何ソヤ不可思議ノ事テナキヤ果セルカナ尋ネ見レハ禍ヲ懼ルルカ故ナリ此時ニ當リテ之ヲ言フモノアリ是其一身ヲ犧牲ニ供シ祖宗ノ天下ヲ存スル所以ナリ如此ナレハ士ノ氣節ハ天下國家ノ存亡ニ大關係ヲ有ス天下國家

ヲ保ツ者ハ此ノ氣節ヲ養ヒ以テ倚賴ト爲ササル可カラヌ光仁天皇即位ノ首ニ當リテ第一ニ清磨ヲ召還シテ本官ヲ復セラル是レハ專ラ士大夫ノ手本ト爲シ天下ノ歸向スル所ヲ定メラルルノテアル嗚呼サテモ務ムル所ヲ知リナサルモノト云フヘシ天下百千萬年諸兄真備ノ如キモノ在リテナラヌ一日半日ト雖モ清磨ノ如キ氣節アル者ナクテナラヌ

●白文訓點(明治三十一年七月茨城縣文官普通試驗)

(二) 家有父母而辭之遠遊勉強日每清晨遙拜畢輒復思今日光陰實爲可愛日而費諸遊學關定省曠思清使父母懷遠望憂爲天地間一罪人矣然今日所學業乃重大事件有勝於定省者故競寸陰以其業然後歸奉感僅是贖其罪矣反覆思之而後速就其業至於夜間又把終日所學之業一々點檢考其重大果有勝於定省溫清者否心神已安而後敢就寢是此則遊學中第一緊要之事矣若一日沒了這念則不孝之罪竟不得免焉

(二) 夫勇悍趨捷。重耻輕死。我國俗所自有。我先王又養之以恩。結之以信。所以撫摩鍊治之。經數百千年。闔國之民。親其上。死其長。如手足之扞頭目。以能震懼四隣。雖魏唐之強大。不能加焉者。恃此俗也。及至通唐氏。乃舍此學。彼劉撲。爲文。鏗強爲弱。平時奔競。有急遁逃。幾乎舉朝皆婦人矣。而先王遺民。勇而輕死者。皆爲將門所收。以此奪王權。營私利。無所爲而不成。承久建武之事。輒皆爲然。故先王所以自衛。後王所以自累。均此兵也。顧用捨如何年。

●白文訓點(明治三十二年三月)  
(長野縣文官普通試驗)

(文中人名ハ右肩ニ一ノ縦線國名ハ左肩ニ二條ノ縦線ヲ以テ其區別ヲ明ニスヘシ)

(一) 先帝創業未半而中道崩殂。今天下三分益州罷弊。此誠危急存亡之秋也。然侍衛之臣不懼於內。忠志之士忘身於外者。蓋追

先帝之殊遇。欲報之於陛下也。誠宜開張聖聽。以光先帝遺德。恢弘志士之氣。不宜妄菲薄。引喻失義。以塞忠諫之路也。

(二) 建武四年各愧當使馬援奉書洛陽。援至引見。宜德嚴世祖。仰笑謂援曰。遨遊二帝間。今見卿使人。大慙。援頓首謝。評因曰。當今之世。非獨君擇臣也。臣亦擇君矣。臣與公孫述四縣少相善。臣前至。愕述佳。載而後進。臣今遠來。陛下何知非刺客。姦人而簡易。若見帝復笑曰。卿非刺客。姦人。願說客耳。援曰。天下反覆盜名字者。不可勝數。今見陛下恢廓大度。同符高祖。乃知帝王自有真也。帝壯之。

●讀書(明治三十二年四月福井縣文官普通試驗)

(一) 山陽人トナリ癯瘦ニシテ體高ク肩盛マリ眼光爛々トシテ之ヲ望ムニ凜トシテ犯スヘカラサルノ威アリ性又峻峭ニシテ尋常ノ人ヲ包容スルコト能ハス常ニ昇平日久シク士氣ノ振ハサルヲ慨ク故ニ氣節ヲ以テ自ラ持シ亦以テ人ヲ導キ未タ嘗己ヲ屈シテ人ニ隨ヒ浮沈シテ容レラレンコトヲ求メサリキ

(右ノ全文ヲ解釋セヨ)

解説

山陽先生ノ人物タルヤ身體ハ瘠セテオリテ頬骨高ク肩チチマリテセマク眼ノ光カリカケンハビカビカト輝ヒテ人先生ヲ仰キ見ルトキハ凜然トケタカクシテ侵犯スヘカラサルノ威光カアリ性質又ケハシクシテ其腦中狹クシクナミナミノ人ト交際スルコトカ出来ヌ常ニ昇平ノ日久シクシテ士氣ノ振ハサルヲ慨ケカレシ是ヲ以テ氣節ヲ以テ持論トセラレシノミナラス人ヲ導クニ氣節振張ヲ以テ第一トセラレタ而シテ未タ嘗テ腰ヲ折リ膝ヲ屈シテ人ニ附隨浮沈シテ容レラレンコトヲ求メラレナンタ先生嘗テ謂ハルルアリ余今日ニ求メナシト雖トモ千百載ニ求メナキニアラスト亦以テ先生ノ人トナリヲ知ルニ足ラン乎

(二) 左ノ語ニ讀方及解釋ヲ與ヘヨ

服膺ス

(解釋) 眞心服從ノ意ナリ

土地豊饒

(解釋) 肥沃ナル土地ヲ云フ

自暴自棄

(解釋) 自カラ棄テテ顧ミサル義ナリ

聚斂ノ臣

(解釋) 租税ヲ私ニスルノ臣ヲ云フ

秩序

(解釋) 尙順序ノ如シ

鰥寡孤獨

(解釋) 妻ナク夫ナク父母ナク子ナキヲ云フ

(三) 裁判官ヲシテ公平廉潔ナラシメ權威ヲ懼レス法律ヲ枉ケサラシメン爲メ之ヲ終身官トナシ己レノ匪行アルニ非ラサレハ退職ヲ命スルコトナシ此ノ如クナルトキハ裁判官ハ只法律ヲ恪守シ特立特行シテ司法ノ大任ヲ盡クスコトヲ得ルナリ

(右採符ヲ施セル語ヲ解釋セヨ)

解説

公平廉潔

私心ナク清廉潔白ナルヲ云フ

法律ヲ枉ケ

法律ヲ曲解スルヲ云フ

匪行

正當ニナラサル行ヒヲ云フ

法律ヲ恪守シ

法律ヲ固ク守ルヲ云フ

特立特行シテ

人ニ依リ又ハ人ニ左右セラレサルヲ云フ

●白文訓點及釋義(明治三十二年六月大藏省文官普通試驗)

公嘗欲官一士。問之於士井利勝。利勝曰：彼不常來臣家。臣未知其如何。公弗懌曰：汝宰我家。務在訪人材。材者豈肯附權勢哉。如汝所言。則知耻好義者。將日趨柔媚。知耻好義者。國家之元氣也。元氣消亡。國家衰老。其能久乎。昔酒井正親以神谷某不禮已也。謂我曰：彼真可用者。因請倍其俸。正親爲公忘私。獎勵士氣。汝輩何不類焉。

家康公嘗テ一人ノ士ヲ官ニ採用セントシ之ヲ士井利勝ニ問フ利勝曰ク彼レ平常臣カ家ニ來ルナキヲ以テ其人物ノ如何ヲ知ラスト公懌ヒス曰ク汝ハ我家ヲ宰配シ其務メハ人材ヲ訪ヒ索ルニ在リ夫レ材アル者ハ何ソ以テ權勢ノ家ニ阿付センヤ汝ノ言フ所ノ如クンハ則チ耻ヲ知リ義ヲ好ム者モ日々ニ柔弱ニ流レ妄リニ權勢ノ家ニ媚伏スルニ至ラン耻ヲ知リ義ヲ好ム者ハ國家ノ元氣ナリ此元氣ニシテ消亡センカ國家衰老シ其レ能ク久シク保タンヤ往昔酒井正親ナルモノアリ其臣ニ神谷某ト云フ者己レニ禮セサルヲ以テ家康公ニ謂テ曰ク彼レ真ニ用ユヘキモ

ノナリト因テ其俸ヲ倍セント公即チ之ヲ許ス正親ノ如キハ公ノ爲メニ私ヲ忘レ士氣ヲ獎勵スル此ノ如シ汝輩何ソ之ニ類セザラン

●白文訓點釋義(明治三十三年四月岐阜縣文官普通試驗)

皇祖皇宗、繼天建極、教人化民、莫一不出於至誠。是以民皆純一。正直、父子之親篤而君臣之義明矣。自六經傳我仁義道德之說、益明愈廣。雖世運隆替、學科迭興、而至教之之要、則莫復加焉。夫本道德而達於智誠、始於彝倫、而及於事業、教學之要也。故道之以仁義、教之以忠孝、使天下之民志一定於義、則其智之所進、其才之所成、發於言辭、顯於行實、施爲事業者、莫出於仁義忠孝也。

(右訓點ヲ附シ〇印ノ所ヲ別書シテ講義スヘシ)

自大經傳我仁義道德之說益明愈廣

解説

三三〇

六經トハ五經ト孝經ヲ云フ仁義道德ノ道ヲ説キタル書ナリ  
而シテ此仁義道德ナルモノハ我國固有ノ人倫トシテ人タルヘキモノノ盡スヘキ道ナ  
ルコトハ業已ニ明ナリシモ支那ヨリ六經カ一度我國ニ傳テ以來一層其仁義道德ノ説  
カ明ニ且廣大トナレリ

夫本道德而達於智識始尋倫而及於事業教學之要也

解説

道德ヲ基トシテ智識ヲ啓キ發達サセテ人タルノ道ヲ大切ニシテ後事業ニ及ホシテ世  
ニ處スルノカ數學ノ要訣テアルト云フ義ナリ

●讀書(明治三十四年三月宮城縣文官普通試験)

(一) 左ノ文章中——符ヲ付ケタル漢字ニ假名ヲ附シ讀方ト意義トヲ示シ且「か  
くても」以下ヲ平易ナル語ヲ以テ解釋セヨ

神無月の頃、栗栖野といふ所を過ぎて、ある山里に尋ね入る事

ありしに、遙なる苔の細道を踏み分けて、心細く住みなしたる  
庵あり。木の葉にうづもる懸樋の雫ならでは、露、音なふも  
のなし。 関伽棚に、菊、紅葉など、折り散らしたる、さすがに、住  
む人のあればなるべし。 かくても、あられるよと、哀に見る  
程に、かなたの庭に大きな相子の木の枝もたわわになりた  
るが、まはりをきびしく圍ひたりしこそ少し、ことさめて、こ  
の木なからましかばとおぼえしが。

解説

神無月 カシナヅキ トハ舊曆十月ヲ云フ

懸樋の雫 カケヒ トハ懸樋ハ寛トモ書キテ、庭ナトヘ竹ノトヒモテ引キタル水ヲイフ

関伽棚 アケガタ トハアカノ具、花皿ナトヲ折敷キテ奉ル爲ニ用キル棚ニテ関伽ハ水ノ梵語  
也

「かくても」以下ノ解

「かくても」以下ノ解  
「ヤウニシテモ住ミテキラルルコトヨト、アワレニ見テアル程ニ、カシコ

普通學 讀書

三三一

ノ庭ニ大キナル柑子ノ木カアリテ、枝モタワムバカリニ、實ノナリツイテアルノ  
カ見ユルカ、サデソノ木ノマワリヲ、ヒドク、打カコヒテアルナドニ至リテハ、  
少シ興味ノサメル心地ガスル、コノ柑子ノ木カナカツタヲヨカラウニ、ト思ハレ  
タコトテアツタトノ意。

(二) 左ノ文章ニ誤アラハ正セ

イ、恩を受けて報へざるものは人にあらざるべくと存候

ロ、曲者を手捕になせしは勇猛とこそいふべかりける

ハ、もし醫藥の効あれば多分は助かるべし

ニ、支那兵百名許は今度の戦にて虜にせり

(三) 左ノ語ニ假名ヲツケテ讀方ヲ示シ且ツ其意義ヲ解釋セヨ

解説

總攬 統御ノ意

因襲 ナラハシ

擧盛 身ヲ縮ムルコト

僂焉 ウツムクコト

僂僕 人ノ前ヲ通ルトキ身ヲ縮  
メテ禮意ヲ表スルコト

卓犖 拔出デスグレタルコト

籌畫 ハカリゴト

從容 オトリシタルコト

行脚 僧ノ國々ヲメグリテ佛  
ノ道ヲ修行スルヲ云フ  
回祿 火事、ミツナガシ

(四) 左ノ文章ニ訓點ヲ附シ且ツ假名ヲツケテ讀方ヲ示セ

伯樂一過冀北之野、而馬群遂空。夫冀北馬多於天下。伯樂雖善  
知馬、安能遂空其群邪？解之者曰：吾所謂空，非無馬也。無  
良馬也。伯樂知馬，遇其良，輒取之，群無留良焉。苟無良，雖  
謂無馬，不爲虛語矣。

●白文訓點(明治三十四年十一月長崎縣文官普通試験)

今茲辛巳秋、將省方慰輿情、先期布告中外。內閣奉旨、選扈駕臣工儀  
衛務從簡略。又分遣官吏、察沿道地形及驛站、廣狹、物力、豐約。因頒  
條令於令牧。曰：觀風察治、要施實惠。道路橋梁、方通車騎。行營、養舍  
苟庇風雨、不必加修。治過爲粉飾。飲食使役、官給其直。寄寶珍玩、不

許進獻。四民安堵。勿廢生業。其老幼扶攜。觀威儀。不必呵斥。驅逐。孝悌力田。高年及才學超衆者。具狀以聞。其往年經臨。浴恩。典者。不在此限。

●白文訓點及釋義(同上)

別後契濶不能相問訊。而歲既改矣。老兄以忙。僕則懶耳。來憤自謝其忙而不責僕懶。且惠酒資以祝春禧。使僕愧感不已焉。而僕尤所以深愧且感者。來書特云。所託袴。絹工人織成。在春夏之交。成當送致。嗚呼。是客秋酒間偶然相託。既自悔以瑣事瀆君子也。老兄乃處公事鞅掌之劇。不忘朋友。一時之囑必果。所諾小事且然。況大事私事且然。況於公事。是僕所以深愧且感於老兄之信宜也。

所託云々 御依頼ノ袴ハ絹工人ニ織ラシメマス出來上ルノハ春ト夏ノ間頃デア

ル出來上レハ早速御送り申ストノ意

處公事云々 公事ニ奔走シテ御忙カシキ間ニモ朋友ノ事ヲ忘レス一寸ノ頼マレ事テモ必ス仕途クル請合ツタ事ハ小サナ事テモコノ通リテアルマシテ大キナ事ハ無論テアル又御互ノワタクシ事テモコノ通リテアルマシテ公ケノ事ニハ無論一層御盡シニナルナラントノ意

●白文訓點(明治三十六年四月山梨縣文官普通試驗)

左ノ白文訓點句讀ヲナスヘシ

- 一、近時書生不過僅修一二學料具多少智識而天下者一大活物非區々死學問小才子所能辨必也世間慘風飽人生酸味知世態人情然後可談經世要務矣
- 二、孔子曰視其所以觀其所由察其所安人焉廋哉
- 三、君又ノ恩高於山深於海然而吾未能報其萬分之一識可嘆矣



●白文訓點(明治三十八年六月大阪稅務監督局文官普通試驗)

一、秀吉之在關東也遊於鎌倉觀源朝賴塑像進撫其背曰若我友也  
徒手取天下唯有吾與若而已然若承繼名族不如吾起人奴也吾  
遂略地至明若以為如何

二、往時平安故老有及觀元龜間事言其時宮闕燹廢群兒入頽垣中  
搏土為戲及織田公來始有可觀云夫應仁以還海內分裂輦轂之  
下每為兵馬馳遂之場於右府誰能闢除草乘以再造王室哉

三、左ノ語ニ假名ヲ附シテ讀方シ且其意義ヲ解説セヨ  
總攬、因襲、顰蹙、卓犖、籌畫、從容

●(明治三十九年四月山梨縣文官普通試驗)

左ノ讀方ヲ解説スヘシ

鵲畔之爭 蓋棺事定 不辨菽麥 朝三暮四

估僂聳牙 奇貨可居 網漏吞舟 名聲籍甚

膠柱鼓瑟 雲霓之望

●白文訓點(明治四十年四月新潟縣文官普通試驗)

一、次ノ文章ニ訓點(句讀、反點、送假名)ヲ附シ併セテ其意義ヲ解釋スヘシ

拘濟天下之才而不之用士之所以為不幸也雖然用之而不得其當  
不幸有更甚焉不若不用之為愈也夫吾才不可用也則必求天下有  
力之人借其力以濟天下是之謂用人以成我事而不暇擇其人之善  
惡得善人可雖或遇惡人勢不可中止則其所成無往不惡惡之大小  
隨才之高下才下則其惡小才高則其惡大以蓋世之才濟滔天之惡  
不為天下之戮者鮮矣

二、左ノ語句ノ意義ヲ說明セヨ

斡旋、折衝、綱紀、黜陟、杜選、牴觸、容喙

●白文訓點(明治四十年七月廣島縣文官普通試驗)

盤珪禪師年老自謂衛生在口腹乃以衝量飯每飲食必謹有一僧笑謂  
耄所爲也盤珪聞之曰生無益于人者即夭折固不足愛也生育危于人  
者一日保殘喘則兆民有一日之利貪生甚於俗爲此也是豈汝所知也  
哉

右全文ニ句讀訓點ヲ施シ且ツ——符アル字ハ本紙餘白ニ摘出シテ讀方ヲ附ケ其  
意議ヲ解説スヘシ

●白文訓點(明治四十一年三月岩手縣文官普通試驗)

一、左ノ文章ニ透リ假名ヲ付シ其意義ヲ解釋スヘシ  
後醍醐帝有笠置山使藤原藤房往召正成正成即從藤房詣行在帝  
使藤房言曰討賊之事朕一以託汝因命坐問計正成感激對曰天誅  
乘時何賊不斃東夷有勇無智如較於勇舉六十餘州兵不足以當武

模較於智乎則臣有策焉雖然勝敗常也不可以少挫所變其志陛下

苟聞正成未死則毋復勞宸慮乃拜辭還實元弘元年八月也

二、左ノ熟語ノ意義ヲ解釋スヘシ

竹帛ノ功、左遷、嚆矢、乞骸骨

●白文訓點(明治四十二年三月石川縣文官普通試驗)

左ノ文章ニ句讀、訓點ヲ付シ尙解釋ヲ爲スヘシ

虎求百獸而食之得狐狐曰子無敢食我也天帝使我長百獸今子食  
我是逆天帝命也子以我爲不信吾爲子先行子隨我後觀百獸之見  
我而敢不走乎虎以爲然故遂與之行獸見之皆走虎不知獸畏已而  
走也以爲畏狐也

●白文訓點(明治四十二年三月北海道廳文官普通試驗)

普通學 讀書

一、妻欣迎曰有人告夫婿有慶事何也勝重脫朝服坐謂之曰吾受奉行之命欲與汝計之且辭而歸顧汝謂何妻驚曰是公事也吾何得辨之勝重曰不然自古爲吏者誰不以內謁敗事自今以往汝於我所爲無一有議於外人苞苴無一有受則吾拜命矣妻曰敢不唯命是聽勝重與之誓復被朝服袴穿而出妻送見其袴後拗也呼送欲正之勝重怒曰何背誓也妻惶恐謝於是往拜命就職訟獄平允百事大治 (訓點送假名)

二、壬延親に事へて色養し夏は則枕席を扇ぎ冬は則身を以て被を温む隆冬盛寒體に全衣無し而して親には滋味を極む晝は則備賃し夜は則書を誦し遂に經史を究覽す州郡禮辟すれども供養を以て起たず父母終る自墓側に廬し其蠶に非れば衣ず其耕に非れば食はず農桑の暇宗族を訓誘し侃侃として倦まず (意

義詳解)

●白文訓點(明治四十二年八月新潟縣文官普通試驗)

一、次ノ文章ニ訓點(句讀、反點、送假名)ヲ附シ併セテ其意義ヲ解釋スヘシ  
抱濟天下之才而不之用士之所以爲不幸也雖然用之而不得其當不幸有更甚焉不若不用之爲愈也夫吾才不可自用也則必求天下有力之人借其力以濟天下是之謂用人以成我事而不暇擇其人之善惡得善人可矣或遇惡人勢不可中止則其所成無往不惡惡之大小隨才之高下才不則其惡小才高則其惡大以蓋世之才濟滔天之惡不爲天下之戮者解矣

二、次ノ語句ノ訓ト意義トヲ説明セヨ

斡旋、折衝、綱紀、黜陟、杜撰、牴觸、容喙

一、名不可幸取之也天下之事固有外似而中實不然者其似而竊其名非不可以欺一時然他日人即其似而求其真則情見實吐無不立敗名果可以幸取耶幸雖在前憂實在後人見其似而信其真幸之大者也人見其似而責其真憂之大者也以一朝之幸易終身之憂智者其肯易之耶

右訓點ヲ付ケ其意義ヲ別紙ニ解釋スヘシ

二、熹の學問は程氏に私淑し、其直傳にあらざれども、熹が精力の超邁と氣魄の雄偉とは優に程門諸子に凌駕して、直ちに其堂室に入れり、更に先儒の諸説を綜合して其の幽眇にして明かならざるものは之れを張皇し罅漏あるものは之れを補苴し集めて大成するに至れり。

右一印にふり假名ヲ付ケ且ツ全文ノ意義ヲ別紙ニ解釋スヘシ

一、吾嘗觀富者之殖財營營逐逐競毫末爭錐刀晝不得休庭不得息故當其始也家無儋石而數年之間有富累鉅萬家僮千人者士之爲學何獨異于是溫故知新崇德廣業積累焉習熟焉愛惜寸陰不敢虛度則胸中之殷富其亦將有如海含萬物山藏百貨用之弗竭取之無盡者也(以上訓點講解)

二、閑却、蹂躪、絕倫、保障、杜撰、妥協、繼續、矛盾、版圖、誅求苛察(以上音ト意義トヲ問フ)

一、受命以來夙夜憂慮恐付託不效以傷先帝之明故五月渡瀘深入不毛今南方已定用兵已足當帥將三軍北定中原庶竭駑鈍攘除姦凶興復漢室還于舊都此臣之所以報先帝而忠陛下之職分也

至於斟酌損益進盡忠言則攸之諱允之任也(以上訓點解釋)

二、左ノ熟語ヲ解釋スヘシ併セテ音ヲモ附スヘシ

軒輊、輸贏、推敲、宋襄之仁、管鮑之交、獻芹ノ誠

●白文訓點(明治四十三年九月香川縣文官普通試驗)

一、凡生爲人宜知人所以異於禽獸蓋人有五倫而君臣父子爲最大故人之所以爲人忠孝爲本

凡生皇國宜知吾所以尊於宇內蓋皇朝萬葉一統邦國士夫世襲祿位人君養民以續祖業臣民忠君以繼父志君臣一體忠孝一致唯吾國爲然

士道莫大於義義因勇行勇因義長

士行以質實不欺爲要以巧詐文過爲耻光明正大皆由是出人不通古今不師聖賢則鄙夫耳讀書尙友君子之事也

成德達材師恩友益居多焉故君子慎交游

死而後已四字言簡而義廣堅忍果決確乎不可拔者舍是無術也右士規七則約爲三端曰立志以爲萬事之源擇友以輔仁義之行讀書以稽聖賢之訓士苟有得於此亦可以爲成人矣

二、左ノ意義ヲ問フ

五倫、君臣一體忠孝一致、讀書尙友君子之事也、右士規七則約爲三端曰立志以爲萬事之源擇友以輔仁義之行讀書以稽聖賢之訓士苟有得於此亦可以爲成人矣

●(明治四十四年山形縣文官普通試驗)

一、左ノ文ニ返リ點及句讀ヲ施セ

蓋聞古之忠臣事其君也盡心焉盡力焉上定以尊主安國下足以豐財盛人內匡君之過外揚君之美不以邪損正不以私害公見善行之如不及見賢舉之如不逮竭力盡勞而不望其報測功積事而不求其

賞務有益於國務有濟於人

二、左ノ語ヲ解釋セヨ

内容、積極的、分業、法治國、對象

三、左ノ假名ヲ漢字ニ直セ

(一) チウチヨ

(四) ケイザイジヤウノキヨウクワウ

(二) ムジユン

(五) レツコククワンシ

(三) キンテイケンバフ

●(明治四十五年三月群馬縣文官普通試験)

一、蠶食( )

管鮑之交( )

參差( )

髀肉之歎( )

弱冠( )

塗炭之苦( )

藏否( )

折衝禦侮( )

毀譽欣戚( )

(右讀方ヲ付シ意義ヲ解スヘシ)

(注意) 右傍ニ讀方ヲ付シ括弧内ニ其意義ヲ記スヘシ)

一、シユ、ミ( ) ゼツ、タイ( ) ヒ、ケツ( ) テンジヤウ、ム

キウ( ) ジツ、セン、キウ、カウ( )

(右漢字ニ直スヘシ)

(注意) 右漢字ニ直シ括弧内ニ記スヘシ)

三、嗚呼士窮乃見節義今夫平居里巷相慕悅酒食遊戲相徵逐詡詡  
強笑語以相取下握手出肺肝相示指天日涕泣誓生死不相背負  
眞若可信一旦臨小利害僅如毛髮比反眼若不相識落陷穿不一  
引手救反擠之又下石者皆是也

(右本文ニ反點送假名ヲ付シ全文ノ解釋ヲ左白ニ記載スヘシ)

一、次ノ文ヲ解釋セヨ(イロ共ニ各其左ニ解釋ヲ記セ)

(イ) 青丹よし奈良の都は荒れはて、伽藍徒に古の名残を留め星

月夜鎌倉の府は廢れ盡して陰鬼空しく雨に哭すあり東流の水一たび逝いて復歸らず人間の富貴果して幾時ぞ塞翁が馬上歲月徒らに過ぎて邯鄲の枕頭芳夢早くさめぬ

(ロ) 能く遊ぶ者は溺れ能く騎る者は墜つ各々その好む所を以て却つて自ら禍をなす

二、次ノ語句ヲ解釋シ且ツ漢字ニテ讀ミ方ヲ施セ(解釋ハ括弧内ニ讀ミ方ハ各其傍ニ記セ)

- 宿世( ) 依怙( ) 校舎( ) 平仄( ) 絶對( ) 米壽
- ( ) 栗( ) 率土ノ濱( ) 一籌ヲ輸ス( ) 沙彌より長老にはなれぬ( )

三、次文ニ假名遣ノ誤アラハ其傍ニ正シ置ケ

父の教えし詞を守り命を全ふしてかゝり來るべし

●(大正二年三月山口縣文官普通試験)

一、左ノ文ノ線ヲ施モル語句ヲ別紙ニ書キ取リ讀方ト解釋トヲ施セ

上代の遊技として公卿には管絃あり蹴鞠あり武家には流鏑馬あり笠懸あり犬追物あり或は典雅或は精悍古書を繕き古畫を擴げてその昔を想へば神往の感ありといへどもその技は今殆ど流傳せず僅に残存するも告朔の餼羊たるのみ

二、左ノ文ニ句返リ點送り假名ヲ附シ尙解釋ハ別紙ニ詳記スヘシ

豹死留皮人死留名言名譽之不朽也人既有愛重名譽之心則不但寶之於生前而且欲傳之於死後此即人之所以異於禽獸而名譽之可貴乃舉生前所享之福利而無足以尙之是以古今忠孝節義之士往往有殺身以成其名者其價值之高爲如何也

三、左ノ熟字ノ字音ト意義トヲ別紙ニ認ムヘシ

操觚、越俎、啓沃、雍熙、物色、釋褐、塞責、苞苴、領袖、韜晦

## 第二部 作文

三三四

### ●招魂祭ヲ觀ルノ記(明治二十九年九月) 岐阜縣文官普通試験

吾カ村ノ南隅ニ一社アリ名ケテ招魂社ト云フ蓋シ國難殉死者ノ精靈ヲ祀ル處ナリ今年何月某日茲ニ祭禮ノ奠ヲ舉行ス余友人ヲ誘フテ之ニ赴ク老若ノ詣者續々來往シテ道途非常ニ雜沓ス既ニシテ到レハ即チ社前ニ式場ノ設ケアリ而シテ祭事已ニ始マリ唳々タル奏樂參差トシテ起リ神祇愼嚴典ヲ掌リ勅使到リテ幣ヲ奉シ尋テ文武諸官ノ參拜アリテ其町重ナル轉々感泣ニ堪ヘサルナリ抑此社ニ於テ斯克盛大ノ奠禮ヲ舉行セラルル所以ノモノハ何ソヤ即チ國家ノ爲メニ身ヲ犠牲ニ供シ而シテ忠節ヲ竭シタル者ノ其功ニ酬ヒンカ爲メニ蓋シ外ナラサルナリ故ニ殉死者今ヤ既ニ幽明界ニ異ニスト雖盡忠報國士ノ十分ヲ全フス男兒身ヲ處スルニ於テ毫モ遺憾ナシト謂フヘシ況ンヤ此餘榮アルニ於テオヤ余等之ニ賽シ去テ場外ニ出ツレハ相撲アリ又煙火アリ觀客蝟集シ餘興頗ル壯觀ヲ極ム亦以テ忠魂ヲ慰スルニ足ラン嗚呼誰カ茲ニ拜スル者盡忠報告ノ念ヲ生セザラシヤ



欠

MISSING

テ足レリト云フヘカラス國家ヲシテ泰山ノ安キニ置クヲ得ルモノ豈獨リ兵ニノミ是レ  
依ルト云フヘケンヤ

内治外防ハ國家ノ急務ナリ果シテ然ラハ其職任ニ當ルノ人材ヲ得ルコト亦國家ノ根本  
的最大急務ナリト云フヘシ於是乎人材養成ノ必要起ル而シテ之カ養成ノ方法ニ至テハ  
國民教育ヲ盛ニシテ體育智德育ノ發達ヲ促シ以テ之ヲ登用スルニ其方法宜シキヲ得レ  
ハ國家ノ要務ヲ全フスル者益々出テテ益々其用ヲ盡シ内治外防ノ完全期シテ待ツヘキ  
ナリ而シテ内治外防ノ整備ニシテ己ニ完全ナリトセハ富國強兵ノ實自ヲ舉ルヘシ嗚呼  
人材ノ養成豈忽諸ニ付スヘケンヤ

●官紀ヲ論ス(明治三十一年三月  
靜岡縣文官普通試驗)

官衙ノ威嚴ヲ保維シ吏員ノ行爲ヲ戒飭シテ能ク行政機關ノ事務ヲ緊肅ナラシムルモノ  
ハ何ソヤ曰ク公正ニシテ整然タル官紀ノ存スルヲ以テナリ

若シ夫レ官衙ニシテ官紀微セハ果シテ如何ナル状態ヲ呈センカ吏員ハ跋扈シ奸人ハ橫  
行シ賄賂公行政百出殆ント其底止スル所ヲ知ラサルニ至リ人其培ニ安スルコト能ハ  
サルヘシ勢斯ノ如クハ國家ノ安寧寔ニ期スヘカラサル也於是乎官紀ノ必要一日モナ

カルヘカラサルヤ復々多言ヲ要セサル也然リト雖官紀ニシテ酷ニ失セン乎吏員ノ自由ヲ緊束シ反テ行政ノ實舉ヲサルノ憾ナキ能ハス又緩ニ過キン乎吏僚互ニ狎昵シ上犯下虐私人其弊ニ乘スルノ害ナキ能ハス故ニ官紀ハ宜ク此中庸ヲ採ルヘシ其孰レニ偏スルモ利スル所ナキナリ即チ公正ニシテ整然タル官紀ニシテ始メテ間然スヘキ所ナシト云フヘシ

○前年中某縣管内商工業發達ノ原因并現況ヲ詳具シ當局大臣ニ申報スル文案  
(明治三十一年三月)  
(靜岡縣文官普通試験)

昨三十年中本縣管内ニ於ケル商工業發達ノ原因并現況左之通ニ有之候條此段申報候也

大臣宛

某縣知事

商工業發達ノ原因

一商業 明治三十年十二月三十一日現在ノ統計ニ依レハ商賈ノ員數、、、ニシテ之ヲ其前年ト比較スレハ、、、ヲ増加シ猶納稅其他ノ方面ヨリ觀察スルモ實ニ較著ナル發達ノ進運ヲ呈セリ是レ如何ナル原因ニ基キシカ恰モ同年ハ其何

月ニ於テ某線鐵道ノ開設全ク成リ成フルニ何郡ニ於テハ其何月ニ於テ實ニ團體ヲ組織シ爾來同心協力以テ商品ノ改良ヲ企圖シ且其販路ノ範圍ヲ擴張スルニ專ラ全力ヲ注キ大ニ商業ノ刷新ヲ促セシカ如シ故ニ其發達ノ趨勢ハ主トシテ鐵道開設ニ因リテ交通ノ便ヲ與ヘ而シテ販路ヲ擴張セシニ基クト雖亦タ彼ノ團體ノ與テ大ニ力アリトス

二工業 同年統計表ニ依レハ工場ノ員數、、、ニシテ其前年ヨリ増加セシコト無慮、、、職工ノ増加殆ント倍餘ノ多キニ達シ製品其他ノ増加亦之ニ適ヘリ是レ前述鐵道開設ノ結果貨物運輸ニ頗ル便利ヲ供シタルヲ以テ需用者頓ニ増加シ供給ノ範圍從テ昔日ノ如クナラス由來工場ノ多キヲ加フレハ職工ノ缺乏ヲ告クルハ固ト是レ數ノ免レサル處ナリト雖各工場ハ夙ニ之ヲ悟リ競フテ使役職工ニ對シ賃銀ヲ増加シ勉メテ優待ノ方法ヲ執ルヲ以テ圖ラサリキ其業ニ就カントスル者憚々焉トシテ踵キ至ル之ヲ以テ更ニ此弊害ヲ見ス而カモ反テ職工ノ豊富ニ在ルカ如シ豈斯業ノ爲メニ賀セサランヤ

現況 本年何月以來諸物價ノ騰貴ニ伴ヒ商品ノ賣行ニ一小頓挫ヲ生シ兩業共ニ多少其影響ヲ蒙リタリト雖現時ノ狀況ニテ假令物價ノ低落ニ至ラサルモ將來ニ於テ著

大ナル變動ナキ以上ハ其恢復ヲ期スル蓋シ遠キニ非サルヘシ

三四〇

●秩序論(明治三十一年三月 滋賀縣文官普通試験)

吾人ノ日夜高枕安臥シテ此世ニ生息スルヲ得ル所以ノモノハ雨露ヲ凌クノ家アルノ故ニ非ス衣食ヲ給スルノ財アルノ故ニ非ス事ニ當リテ惑ハサルノ智アルノ故ニ非ス難ニ處シテ謬ラサルノ才アルノ故ニ非ス唯タ吾人ノ共同團體タル國家ニ秩序ノ整然タルモノアルカ爲メニ外ナラサルナリ

夫レ國家ニシテ整然タル秩序ナクンハ外交ノ振張望ミ雖ク内ハ國政ノ紊亂防クヘカラス魍魎白晝ニ縱横シ百鬼群ヲ成シテ夜行シ親子相傷ケ血縁相姦シ兄弟相闘ヒ朋友相欺キ弱ノ肉ハ強ノ食タランノミスノ如クンハ國家ノ生存豈危殆ナラヌヤ況ンヤ國民ノ安居ヲヤ此時ニ方リ家アリト雖之ヲ免ルルコト能ハス財アリト雖之ヲ防クコト能ハス智アリオアリト雖之カ危キヲ避クルコト能ハサルナリ

秩序ハ猶段階ノコトシ其順次ニ從ヒテ上下スレハ其佳域ニ入ル易々タリト雖一朝其順序ヲ誤ランカ逆倒ノ患ナキ能ハサル也國家ニシテ秩序ナキトキモ亦此類ノミ何ソ徑庭アラフンヤ於是乎吾人カ今日安居シ生ヲ全フシ得ルモノ唯タ國家ノ秩序整然タルニ因ル

ト云フモ敢テ過言ニ非サルヲ信ス

●衆議院議員

(明治三十一年三月 滋賀縣文官普通試験)

敬叙貴下今般本縣第何區衆議院議員ニ御當選被遊目出度奉賀上候是レ偏ニ衆望ノ歸スル處ニシテ即チ平素御高德ノ致ス所以ト一同欣喜罷在候由來代議士ノ任タル國民ノ意思ヲ代表シテ立法機關ニ參與スルモノニシテ其責ノ重大ナル固ヨリ生等ノ多言ヲ要セサル義ニ有之候幸ニ自重自愛國家ノ爲メニ力ヲ盡サレンコトヲ希望仕候不取敢一言賀辭ヲ述ヘ度如此ニ御座候頓首

●國民教育ノ必要ヲ論ス(明治三十一年五月 岩手縣文官普通試験)

國家ノ隆盛ハ國民獨立ノ氣象ニ在リ而シテ之カ淵源ヲナスモノハ實ニ教育ナリ於是乎國民教育ノ必要起ル

夫レ國民教育ノ要タル小學中學ノ階級ニ依リテ各異ナル所アリト雖其歸スル所ハ皆一ニ身心ノ發達ヲ圖リ研鑽磨礪以テ國家ノ柱石タラシメントスルニ在リ今茲ニ屋舎ヲ建築スル者アリトセン乎其柱石タルモノ宜ク堅固ナル良材ヲ擇フヘシ否ラサレハ暴風雨

普通學 作文

三四一

等ニ際シ之ヲ支フルコト能ハサルナリ國家ノ柱石タル國民ニ於テモ亦然リ若シ國民ニシテ軟弱ナラン乎國家ノ安危一日モ測リ知ルヘカラサルナリ國民ニシテ堅固ナラン乎國家ニ如何ナル災害アリト雖克ク之ヲ支フルニ堪ユヘシ教育ノ振否豈思ハサルヘケンヤ農工商其孰レヲ問ハス國民ニシテ獨立ノ氣象ニ富マンカ殖産興業ノ發達ヲ圖ル蓋シ難事ニアラサルナリ勢已ニ此ニ至ル國家ノ隆盛知ルヘキナリ嗚呼教育ノ國民ニ必要ナル夫レ大ナル哉

●蠶業視察ノ狀況ヲ當業者ニ通報スル文(明治三十一年五月 岩手縣文官普通試驗)

其地方ノ蠶業ノ有様ヲ見ルニ獨リ春蠶ノミ飼育ニ限ラルルハ地方習慣ノ如クニシテ季節恰モ田ノ植付麥ノ刈取り等ニ忙殺セラレ蠶兒ノ取扱ヲ粗漏ニシ上簇ノ注意周到ヲ欠キ繭掻キ後レ遂ニ殺蛹ノ期ヲ失シ繭ノ品質ヲ損スル等ニ氣付カサルモノノ如シ其結果ハ必ス蠶糸ノ收穫ニ減少ヲ來シ豫定ノ利益ヲ見ル能ハサルヘシ是レ副業トシテ飼育スルモノニ付テ云フノミニシテ專業ト爲スモノト雖トモ人夫ノ減少賃錢ノ不廉之レカ起トナリテ間接ニ農事多忙ノ影響ヲ蒙リ完全ナル飼育ヲ爲ス能ハサルヤ必セリ故ニ余ハ此地方ニ向テ夏秋蠶ヲ獎勵セントス夏秋蠶ハ時一定セス人爲ニ適宜時候ヲ作ルヲ得ル

カ故ニ田圃ノ閑ナルヲ利用シテ蠶種ヲ選ンテ購入シ飼育スルノ改良方法ヲ用ユレハ増收ノ見ルヘキモノアル蓋シ余ノ信スル所ナリ右視察ノ概況通報ス

●某縣ノ農工共進會ヲ觀テ所感ヲ記ス(明治三十一年七月 茨城縣文官普通試驗)

實業ナルカナ實業ナルカナ實業思想ヲ養成スヘシ實業ニシテ盛カナラサレハ富國強兵得テ期スヘカラス然リ而シテ我國現時有爲青年者ノ志ス所ヲ見ルニ政治家タラント欲スルニアラサレハ軍人タラントスルモノナラサルハナシ政治家タリ軍人タル誠ニ可ナラサルニアラスト雖モ戰勝後ノ我國ハ實力養成ノ急務アルニアラストヤ平時ノ戰爭ハ實業ニアラサレハ勝利ヲ保スヘカラス之レ余カ實業伸張ヲ絶叫スル所以ナリ實業隆盛ヲ思ハハ生産ヲ盛ナラシムルニ如クハナシ生産ハ農業ニ依ラスシテ何ソ或ル學者ハ富ハ農業以外ニアラスト云フニアラストヤ然レトモ天然ノ産物ニ人工ヲ加ヘ或ハ無用ノ地ヨリ有用ノ地ニ移シ以テ人慾ニ投シ物ノ價值ヲ増ス又生産ニアラスト云フヲ得ンヤ之レ余カ農工ヲ併唱スル所以ナリ願ミテ我國實業社會ノ狀態ヲ觀察スルニ農工共進會ヲ設ケ之レカ進歩ヲ計ル如キモ只僅ニ其緒ニ就クト云フニ過キス我國實業者タルモノ大ニ奮發セスシテ可ナランヤ某縣ノ共進會ニ臨ミ感ノ起ル所ヲ記ス

●某官ニ任セラレタル友人ニ與フル文(明治三十一年七月 茨城縣文官普通試験)

肅啓側聞スル處ニ依レハ貴下今回某官ニ任命セラレ候由先ツ以テ恐悅ノ辭ヲ呈シ候畢  
竟平素勉勵苦學ノ結果ト奉存候猶此上ハ粉骨碎身以テ國家ノ爲ニ竭サルアラソト  
ヲ希望仕候余窃カニ官海ノ動靜ヲ窺フニ實ニ憤慨ニ堪ヘサルモノ有之或ハ曲學阿世ノ  
徒妄リニ威ヲ弄シ或ハ奸黠ノ輩頻リニ商賈ト結ヒ不義ノ暴利ヲ貪ル等ノ醜聲常ニ往々  
余輩ノ耳朶ニ觸ルル處ニシテ誠ニ官紀振肅問題ノ世ニ起ルモ亦々偶然ナラサル義ニ候  
此時ニ方リ貴下ノ如キ正士ノ出仕セラレ候ハハ自然此濁流ヲ清ムルニ到ルモ蓋シ遠キ  
ニ非ラサルコト今ヨリ奉推察候唯其泥ヲ漏シテ共ニ其波ヲ揚クルノ過チニ陥ラサラン  
コトヲ祈リ居リ候幸ニ御忠勤アラソコトヲ失言多罪

●友人ノ兵役ニ就クヲ祝スル文(明治三十二年三月 和歌山地方裁判所書記試験)

兵ハ國家ノ干城ナリ國家一日モ兵ナカルヘカラス而シテ兵役ハ國民ノ義務ナリ國民ニ  
シテ此義務ヲ忌避スル者ハ國ヲ愛スルコトヲ知ラサル痴漢ナリ國家ニシテ此痴漢多カ  
ラン平國家ハ一日モ欠クヘカラサル兵ノナク其干城ナキニ至ラン豈憂ヘサルヘケンヤ  
聞説君ハ本年適齡ヲ以テ徵兵ニ應シ不日入營セラルト欣喜ノ至リニ堪ヘサルナリ余君  
ト相知ル已ニ久シク尤モ君ノ人ト爲リヲ熟スルニ子カ性沈勇ニシテ不撓ノ氣象ニ富ム  
故ニ之ヲ損スルナクンハ干城ノ義務ヲ全フスルヤ知ルヘキナリ之レ君ノ美事ナルノミ  
ナラス國家ノ爲メ何ソ賀セサルヲ得ンヤ謹テ祝辭ヲ呈ス

●讀書有感(明治三十二年三月 新潟地方裁判所書記試験) (第一)

余一日史書ヲ繙キ偶マ稱徳帝ノ章ニ至レハ僧道鏡帝ノ寵ヲ恃ミ朝權シ弄シ專ラ施政ヲ  
恣ニシ終ニ天位ヲ侵サントスルアリ此時ニ當リ和氣清麿出テテ事ヲ神宣ニ托シ以テ帝  
ヲ諫メ其姦ヲ防キ而シテ遂ニ事ナキヲ得タリ嗚呼清麿ノ忠ヤ寔ニ嘉ニスヘキナリ夫レ  
我邦ノ海外ニ誇稱スル所以ノモノハ即チ開關以來皇統連綿未タ曾テ萬邦ニ其比ヲ見サ  
ルニアリ若シ彼レノ大謀ヲ企圖スルニ際リ清麿微セハ蓋シ連綿タル皇統茲ニ或ハ中絶  
ノ虞ナキニ非ス豈危フカラスヤ余此書ヲ讀ミ終テ和氣氏精忠ノ超然タルヲ識リ感慨胸  
ニ逼リ默スルコト稍々久シ嗚呼古來忠臣ノ世ニ現ハルル實ニ一ニシテ足ラスト雖先ツ  
其指ヲ清麿ニ屈セサル可カラスト云フ亦宜ナル哉

●裁判所ノ移轉ヲ長官ニ具申スル文(第二)

當裁判所屋舎トシテ何町ニ建築中ノ處今回落成ニ付本月何日、同所へ移轉致候條此段及具申候也

●長野縣普通文官試驗ヲ受クルニ際シ友人ニ告クルノ書(明治三十二年三月 長野縣文官普通試驗)

肅啓今般長野縣ニ於テ普通文官試驗施行相成候ニ付應試ノ希望ニテ昨日願書提出致候元來官吏ハ行政機關ノ一員ニシテ官規ノ下ニ行動シ其機關ノ運轉ヲシテ圓滿ナラシムルノ責任ヲ有スルモノニ有之之レカ方法ニ至テハ種々可有之候へ共目今ノ急務トシテ發達ヲ計ルヘキハ地方行政ニ有之候事ト存候抑モ長野ノ地タル山間ニ僻在スト雖地味肥沃ニシテ耕種ノ改良ヲ計ルニ於テハ農産物ノ數ヲ増加シ品質ノ善良ヲ來スハ敢テ望ミナキ事業ニアラスト信シ候殊ニ鐵道開設交通ノ便開ケテヨリ輸出ノ法容易ナルカ故ニ縣下ノ殖産事業ヲシテ進歩セシメ地方行政ノ目的ヲ達シ行政機關ノ一任タル職責ヲ盡スハ官吏タル者ノ當然ノ責任ニシテ國民トシテ國家ニ酬ユル所以ニ可有之ト存候幸ニ試驗合格採用相成候ハハ平素學修シタル農學ヲ實地ニ應用シ專意前述ノ利益ヲ企畫シ以テ國民タルノ義務ヲ盡スノ覺悟ニ御座候此段愚意申述候謹言

●分村請願書ヲ郡長ヨリ知事ニ進達スル際ニ於ケル副申書(明治三十二年三月 長野縣文官普通試驗)

本郡何村分村ノ件ニ付同村人民總代ヨリ別紙ノ通請願書提出候ニ付一應取調候處其理由トスル處至當ト認メラレ自治上何等ノ不都合ヲ惹起スル虞ナキノミナラス却テ村經濟上從來ノ困難ヲ救フヲ得ヘクト存候間願意御聽許相成候様致度關係書類相添へ此段及進達候也

●觀梅記(明治三十二年三月 和歌山地方裁判所書記試驗)

春和駘蕩讀書既ニ倦ク輕風暖ヲ送リテ頻リテ遊意ヲ誘フ恰モ好シ友人來訪促スニ龜井戶觀梅ヲ以テス依テ直ニ之ヲ諾シ共ニ家ヲ出ツ此日天氣晴澄一點ノ雲翳ナク最モ漫歩ニ適ス途次互ニ快談續出遂ニ歩ノ進ムヲ知ラス偶行人ノ雜沓ヲ見ル余怪テ之ヲ問フ友人曰ク既ニ到レリ此小徑ヲ入レハ即チ臥龍莊ニシテ是レ皆余輩ト意ヲ同フスルモノナリト余曰ク何ソ着クノ速ナリシト既ニシテ其園庭ニ到レハ觀客雲ノ如ク士女絡繹恰モ瓊林玉山ニ向フニ髣髴タリ園内梅樹列植スルコト殆ント數千株考根蟠風花影嬋妍頗ル風致ヲ極ム而シテ枝頭未タ放タサルノ數蕾玉ヲ綴ルカ如ク其放ツモノハ玉ノ之ヲ被フ

如ク其風ニ觸ルルヤ夢寐翩々トシテ唇ヲ動カシ笑フカ如ク語ルカ如シ滿庭ノ春色轉々十分ニシテ人ヲ留メテ醉ハシム於是乎此處彼處ヲ徘徊シテ而シテ一茶亭ニ息フ時ニ惠風清香ヲ途リ芬々トシテ鼻ヲ撲ツ精神爽快恰モ仙境ニ在ルカ如シ遂ニ日ノ西山ニ暮クヲ知ラス於是乎遺憾ヲ忍ヒ歸途ニ就ク

●螢狩記(明治三十二年四月)(第一)  
(長野縣地方裁判所書記試驗)

一夜孤燈ノ下ニ書ヲ披キ見ルコト數頁忽チ蚊軍吶喊シテ來襲ス於是乎書ヲ措キ羅扇ヲ執テ僅カニ其銳鋒ヲ防キ座シテ涼ヲ待ツ時ニ門戸ヲ叩クモノアリ出テ之ヲ窺ヘハ即チ親友數輩ナリ依テ各々座ニ引キ談話數刻語決偶々螢狩ノコトニ及フ衆皆異口同音ニ贊成ト叫フ乃チ直ニ其準備ヲ整ヘ絹囊ヲ携ヘ共ニ其途ニ就ク清風徐ニ來リテ葛衣ヲ拂ヒ晝間ノ炎暑ハ去テ跡ヲ止メス鳴蛙閣々仰キ見レハ群星炳々九宵明カナリ行ク行ク吟シ或ハ詠シ大言放呼シ知ラス數町ヲ過クルヲ忽チニシテ流聲滔々人聲喧シ是レ即チ某河畔ナリ夜照點々螢光燐々トシテ空中ニ飄飄スルアリ高ク飛フアリ低ク水中ニ落ツルアリ或ハ綠草ニ宿リ綠草ヲシテ光輝ヲ發セシムルアリ忽チニシテ合シテ球ノ如ク忽チ弓狀ニ變シ暫クシテ散亂星ノ如シ更ニ千狀萬態奇觀言フヘカラサルナリ衆一自快々東奔

西走手ヲ揚ケテ撲ツアリ杖ヲ以テ生擒スルアリ或ハ空ヲ撲テ失望スルアリ或ハ拂ヒ或ハ追ヒ衆皆愉ト呼ヒ快ト呼フ偶囊中ヲ窺ヘハ既ニ燿燿充滿殆ント空余ナキカ如シ乃チ後日ノ再遊ヲ約シ歸途ニ就ク

●試驗及第ヲ祝スル文(明治三十二年四月)(第二)  
(長野縣地方裁判所書記試驗)

拜啓先般ハ長野縣地方裁判所書記登用試驗ニ應セラレ候由ノ處本日ノ官報ニ依レハ首尾克ク御及第不堪雀躍候採用ノ命ニ接セラレ候期モ近キニ可有之君ノ學トオトヲ實地ニ應用セラレ候ハハ執務敏捷人ヲシテ喫驚セシムルコトト今ヨリ刮目シテ見ル處ニ御座候之レ獨リ君ノ幸福ノミナラス國家ノ慶事不過之ト存候此段不取敢表賀意候敬具

●職責論(明治三十二年四月)(第一)  
(福井縣文官普通試驗)

苟モ職務ヲ帶フル者ハ其職務ニ對シ必ス責ヲ負ハサルヘカラス職務ニ責任ノ離ルヘカラサル猶ホ影ノ形ニ伴フカ如シ  
抑官ノ文武ヲ論セス職ノ輕重ヲ問ハス苟モ職務ニ在ル者ニ國家カ此責任ヲ負ハシムル所以ノモノハ即チ其職務ヲ完全ニ且適法ニ執行セシメンカ爲メニシテ又在職者其人ニ



於テモ此職責ニ任スルハ當然ノ義務ニ屬スルモノトス若シ失レ職、責ニ存スルナクンハ曠職ノ徒躰ヲ接シテ生シ或ハ策ヲ彌縫ニ採リテ遠慮ヲ須ヒス或ハ放縱專肆ニ奔リ疎慢懈怠ニ流レ或ハ瀆職モ以テ意トセス所謂官紀軍紀ナルモノハ遂ニ其功ヲ失シ一國ノ亂階此ニ發スルモ亦知ルヘカラサルナリ

一般吾人ノ此世ニ處ル亦タ國家ニ責ナキヲ得ン況ンヤ特別ノ職務ヲ帶フルモノ何ソ其責ナクシテ可ナランヤ於是乎官之カ制裁ヲ設ケ以テ嚴ニ其職責ニ任セシム世上厚顔ノ徒往々此職責ノ存スルヲ知ルナク職務ヲ利シテ溫飽ノ資ニ充テ苟免以テ恥ヲ知ラサル者尠シトセス豈願ミサルヘケンヤ

●仕官ノ目的ヲ友人ニ報スル文(第二)

拜啓不肖今般某縣屬タル恩命ヲ蒙リ候ニ付不取敢御吹聴申上候却說國家ノ隆昌人民ノ幸福ヲ圖ラント欲セハ先ツ國家教育ノ普及ニ在リトハ不肖ノ常ニ唱導スル處ニ御座候然ルニ本縣ノ如キハ其源タル教育ノ法振ハス遺憾ノ事ニ存候故ニ不肖就職ノ上ハ大ニ此方面ニ全力ヲ注キ以テ其普及ヲ謀リ其進歩ヲ促シ而シテ富國ノ基礎ヲ鞏固ナラシメ度ト存居リ候是レ不肖ノ仕官ノ目的トスル所ニ有之候草々不備

●觀櫻記(明治三十二年四月)(第一)

(大阪地方裁判所書記試驗)

風鼻々トシテ暖ヲ吹キ日暄々トシテ溫ヲ照シ老雁既ニ去テ新燕將ニ來ラントシ梅花已ニ謝シテ觀櫻ノ好時節ナルヲ得タリ今茲ニ吟友ノ偶來リ余ニ觀櫻ヲ促スアリ余欣然之ヲ諾シ共ニ相携ヘテ出ツ此日ヤ天氣晴朗雲ナク風ナク轉々天公ノ出遊ヲ導クニ似タリ徐行談笑ノ内ニ忽チ數町ヲ過キ遂ニ淺草ニ出ツ茲ニ一友發言シラ曰ク墨堤既ニ近シ將ニ酒肴ヲ得之ヲ携ヘントス一友其議ヲ直贊シ且曰ク雪月花孰レノ眺望モ皆杜康ヲ其快樂ヲ得ルニ在リ何ソ之レナクシテ只茫然花ヲ觀ルモ何ノ興カアラン況ンヤ天ノ美祿ニ於テヲヤ焉ソ躊躇スルノ時ナランヤ各手ヲ拍チ口ヲ揃ヘテ曰ク宜ナル哉氏ノ言ト於是乎路傍ノ店舗ニ太白ヲ購ヒ佳釵ヲ求メ之ヲ携ヘテ行ク已ニシテ吾妻橋ヲ經テ枕橋ヲ渡リ終ニ墨堤ニ達セリ堤上櫻樹ノ併立其幾十株ナルヲ知ラス而シテ櫻花ハ淡紅濃白相交ヘ今ヤ所謂咲キ殘サス散リモ始メス最モ觀ルヘキノ時ナリ爛熳タル花ノ水ニ映スルモノハ恰モ美人ノ裝鏡ニ向フニ髻髻タリ而シテ花ハ人ニ戯レ人ハ花ニ醉ヘルカ如シ絡繹タル遊客或ハ瓢ヲ手ニシ或ハ盃ヲ口ニシ行ク々々吟スルアリ舞フ者アリ又堤下ニハ舟ヲ泛ヘテ三絃ヲ弄シ妓ヲ擁シテ盃ヲ傾グルモノアリ於是乎殆ント別天地ノ感アリ此地

春花冬雪ノ絶勝ト稱セラルルモ亦洵ニ故ナキニ非サルナリ余強カ花ヲ賞シ歩ヲ進メ白  
髻ノ境内ニ入り花下ニ筵ヲ設ケ携フル所ノ酒肴ヲ出シ獻酬頻繁始ント酣ニ及ヒ一人詩  
ヲ吟スルアレハ一人之ニ和シテ又歌ヲ詠シ興ニ乘シテ起テ舞蹈スルアリ類乎トシテ醉  
ヒ陶然トシテ樂ム途ニ佳境ニ入り歸ルヲ忘ル偶晚鶉騒然四顧寂寞タルニ驚キ花ニ告ク  
ルニ別ヲ以テシ踰々踉々境内ヲ去リ舟ニ搭シテ川ヲ渡ル願レハ十里ノ長堤雲耶雪耶其  
眺望亦一層ノ觀ヲ呈セリ嗚呼

●大阪控訴院地方裁判所ノ新築竣工ヲ司法省ニ報告スル文(第二)

當管轄某地方裁判所從來ノ屋舎頗ル頽破ニ及ヒ候ニ付豫テ地ヲ何處ニトシ新築工事ニ  
着手致居候處本月何日全ク竣成致候條此段及報告候也

●自助論(明治三十二年六月  
大阪省文官普通試験)

凡ソ人ノ此世ニ處スル須ラク自ラ助クルノ氣節アルヘシ若シ此氣節ニシテナカラシカ  
特立獨行以テ世路ノ艱險ヲ冒シテ邁往スルコト能ハス徒ニ怠惰ニ流レ終ニ一業タモ成  
スナクシテ已マンノミ是レ豈人生ノ至恨事ニアラスヤ更ニ進テ國民舉テ此氣ナシトセ

ンカ國家ノ衰亡豈能ク久シカラシヤ

試ニ看ヨ茲ニ一事ヲ就サントシテ神ヲ苦メ力ヲ勞シ毫モ他ノ補助ヲ仰カス一意専心事  
ニ當ル者ハ必スヤ其事ヲ成ス之ニ反シテ自己ノ神力ヲ勞セスシテ妄ニ他ノ補助アルニ  
倚頼シ碌々他ノ成ヲ仰ク者ハ其業必スヤ敗ル是レ前者ノ如キハ自助ニ富ムカ故ニ其成  
ルヤ蓋シ當然ノ結果ナリ若シ夫レ此氣力アル者ニシテ其業ノ成ラサルコトアリトセン  
カ是レ其人ノ罪ニアラスシテ其事ノ直ニ成スヘカラサルモノノミ後者ノ如キハ自助ニ  
乏シキカ故ニ其敗ル、ヤ亦當然ノ結果ナリ若シ夫レ此人ニシテ其事ヲ成立セシトセン  
カ是レ其人ノ僥倖ニシテ偶然ニ出テシモノノミ

實力ト空想トノ差異果シテ如何實力ハ勉勵刻苦ヲ獎メ以テ之ニ善良ノ結果ヲ與ヘ且ツ  
身ヲ立テ家ヲ興シ延テ國ヲ富マスヘシ空想ハ怠惰放逸ヲ誘ヒ以テ偶然ノ僥倖ヲ期シ且  
ツ身ヲ亡ホシ家ヲ失ヒ延テ國ヲ滅スヘシ故ニ國民舉テ實力ヲ養ハンカ國家ノ隆昌期シ  
テ待ツヘキモノナリ蓋シ實力ヲ養フノ心ハ即チ自助ヲ欲スル心ナリ嗚呼論シテ茲ニ至  
レハ斯ノ氣力ノ人生ニ於ケル效果豈偉大ナラスヤ是ヲ以テ余ハ斷言セント欲ス國民ニ  
シテ自助ノ氣節ニ富ムト否ラサルトハ獨リ一身一家ノ盛衰ニ關スルノミナラス尋テ國  
運ノ消長ニ關スト仍チ自助論ヲ作ル

●殖産興業論(明治三十二年六月)  
(新潟縣文官普通試験)

歐ノ西隅ニ僻處シ富ミ兵強フシテ夙ニ強國ニ列シ早ク天下ノ牛耳ヲ執リ萬國皆其欸ヲ買ハサルモノナキモノ之ヲ英國トナス其然ル所以ノモノ只人民ノ製造業(工業ノ一部分)ニ熱心ナルト堅忍不拔ノ氣象ニ富ムニ依ラスンハアルヘカラス果シテ然ラハ國ヲ富マスノ範ハ製造業ヲ措テ他ニアラサルカ曰ク否殖産事業モ亦國ヲ富マスノ一策ナリ北米合衆國ノ如キハ主トシテ此種類ニ屬シ其輸出スル所ノ巨額ノ農産物ハ民力ヲシテ益富庶ナラシメ國勢漸盛大ニシテ將ニ舊世界ヲ壓倒セントスルニ至レリ是ヲ以テ是ヲ以テ是ヲ見レハ殖産興業ハ共ニ富國強兵ノ根源ナリト云フモ誣言ニアラサルカ如シ翻テ我國勢ヲ察スルニ土地肥沃ニシテ水利ニ富ミ古來農ヲ以テ立國ノ基礎ト爲セシカ故ニ之ニ關スル事業ノ發達ハ少シク見ルヘキモノアリタレトモ興業ニ至リテハ國民會テ着目スルモノナク僅ニ一隅ニ孤立スル一小農國ニ過キスシテ而モ輸出ノ法アルヲ知ラサリシナリ外交ヲ道開ケ彼ノ文物ヲ輸入シテヨリ國民ニ興業ノ必要ヲ感シ彼ニ模倣シテ斯業ニ從事スル者ヲ生シテヨリ日尙淺シト雖モ生産物ノ輸出日ニ多キヲ加ヘ彼我ノ貿易漸ク盛ニ行ハレ昔日ノ憾ナキニ至ル之レ興業ノ我國ニ適スルニ依ルナルヘシト雖モ國民ニシ

テ之ヲ度外視セン乎其發達決シテ望ムヘキニアラサルナリ是ノ故ニ國民ハ銳意熱心ニ殖産ノ進歩ヲ圖ルト同時ニ興業ノ發達ヲ企畫シテ怠ラスンハ自己ノ福利ヲ増進シ國家ノ富強ヲ招クヲ得ヘク途ニハ彼レヲ凌キ世界ニ雄視スルコトヲ得ルノ地位ニ達スルヲ待ン故ニ言ハントス殖産興業ハ富國強兵ノ根源ナリト

●秋日山ニ遊フノ記(明治三十二年十月)  
(浦和地方裁判所書記試驗)(第一)

金風颯々トシテ冷ヲ送リ木葉凋落シテ秋色將ニ佳ナラントス會々友人アリ來リ促シテ曰ク此好季ニ際シ山遊ヲ試ムルモ亦可ナラスヤ余曰ク諾ト直ニ結束シテ某山ニ赴ク既ニシテ山麓ニ達シ杖ニ倚リテ峻坂ヲ攀ツ漸クニシテ上ル坂路嵯峨行步甚艱ム或ハ樹根ニ踞シ或ハ巖上ニ坐シ頭ヲ回セハ晴空藍然トシテ拭フカ如山風蕭々トシテ老松古杉ニ渡リ湖泉ハ娟々トシテ心ヲ洗ヒ山鳥ハ啾々トシテ呼フカ如シ樵聲ハ丁々トシテ深谷ニ響ク漸クニシテ絶頂ニ至リ四邊ヲ眺望スレハ曠漠タル田畝ヲ脚下ニ遠見ス此ニ於テ心目豁然トシテ積日ノ鬱憂一時ニ散シ塵事ノ身ニ至ルナシ其景色絶佳實ニ千態萬狀余カ筆ノ得テ盡ス所ニアラス則チ携フル所ノ行厨ヲ發キ孤瓢ノ家醞ヲ酌ミ共ニ飲シ且喫ス是ニ於テ感慨ヲ起ス夏去テ一夢ノ如シ忽然仲秋ニ向フ昨日ノ綠葉今日ノ落葉トナル

嗚呼國家ノ隆替モ亦四時循環ノ如キカ甲仆レ乙起ル盛者ハ衰ヘ衰者ハ盛ナリ豈ニ歎息ノ至リニ堪ヘサルヘケンヤ時ニ暮鏡山ニ響キ回顧スレハ返照西ニ没セントス是ニ於テ石磴ヲ降り友ニ語テ曰ク昇ルハ難ク降ルハ易シ所謂山仙ノ俗人境裏ニ入り來ルヲ惡ムカト豈ニ然ラサランヤト急ニ車ヲ雇ヒ家ニ歸ル時已ニ三更ナリ乃殘燈ヲ挑ケ破几ニ憑テ之カ記ヲ作ル

●甲地區裁判所出張所ヲ乙地ニ移轉センコトノ請願書(第二)

某國裁判所出張所ハ從來甲地ニ設置有之候共元來同所ハ何郡ノ僻偶ニ當リ附近多ク山野ニシテ人家稀少加フルニ交通ノ便ヲ缺キ吾人管轄内ノ多數人民ハ百事頗ル不便ヲ感シ居リ候折柄人事ノ關係ハ漸ク複雑ニ赴カントスル今日ニ際會シ一層ノ不便ヲ來タシ候今若シ乙地ニ移轉相成候ハ、吾人ノ幸福之ニ過キス候抑モ乙ノ地タルヤ恰モ管轄區域内ノ中心ニ位シ夥多ノ人家ヲ有スルノミナラス交通ノ便ニ於テ間然スル所ナク所謂四通五達ノ地ニ有之管轄區域内ノ人民東西互ニ其便利ヲ得ルハ必然ニ可有之ト存候希クハ特別ノ御詮議ヲ以テ同地ヘ移轉ノ義御採用相成度此段奉請願候也

●旅行記(明治三十三年三月)(第一)

程谷驛ヲ過キ坂路稍ヤ峻行松缺ル處西北諸山ヲ見ル岳蓮尤モ秀絶ト爲ス卓午戸塚驛ニ餘ス昇夫來リ請ヒ曰ク鎌倉此ヲ距ル遠カラス蓋ソ興ヲ命シ一遊セサルヤ乃チ興ニ登リ野ニ入ル行ク半里丘隴堞ノ如シ昇夫云フ鎌倉盛時郭門ヲ設クル處ナリト又々行ク二里足利等持公ノ影堂アリ古刹荒廢秋草塔ヲ擁シ影像蛛絲ノ網スル所ト爲ル堂後五輪塔モ亦々復々蕪沒シ一ノ香火ヲ薦ムル者無シ天道其僭逆ヲ惡ムニ非ルヲ得ン歎圓覺建長二寺ニ詣ル堂廡宏ニシテ古ナリ鐘アリ正安三年北條定時ノ鑄ル所鶴岡ノ八幡廟ニ詣ル廟屋極メテ宏壯丹碧煌耀ス廟前銀杏樹直上天ヲ摩ス大數牛ヲ廠フ可シ廟東數里鎌倉公及ヒ諸大臣ノ邸址アリ禾黍離滿々目凄然アリ當時赫奕ノ狀ヲ求ムル惟タ敗瓦殘礎ノミ富貴ノ恃ム可カラサル此ノ如シ廟南ヨリ行キ袖浦ニ至ル浦七里濱ト相屬シ東三崎ヲ顧ミル煙樹鶻突ナリ西函根ヲ望ム雲霧頂キヲ罩ム伊豆ノ諸山遠翠一帶時ニ夕陽倒射シ山色皆ナ金碧畫ノ如シ畫島近ク目睫ニ在リ宛然タル蓬瀛ナリ灣廻リ沙深ク歩々前却ス黃昏始メテ島ノ岩本院ニ達ス院客ヲ邀フル驛館ニ異ナラス酒美ニ魚鮮ナリ頽然醉ニ就ク通夕波濤ノ聲床ニ般ナリ曉ヲ交ル能ハス是レ一日ノ閑ヲ得テ鎌倉ニ遊フ旅行記ナリ

●法律書ヲ借用スル文(第二)

拜啓酷寒ノ候ニ候處益御健勝御勉學ノ由欣賀ノ至ニ奉存候陳者迂生義來ル三月十日ヨ  
リ某地方裁判所ニ於テ舉行セラルル裁判所書記登用試験相受度存居候得共法律ノ參考  
書無之爲メ應戰準備ニ困難罷在候依テ甚々申兼候次第乍ラ御手許ニ民事訴訟法刑事訴  
訟法及民法物權編ニ付キ簡單ナル解説ヲ加ヘタルモノ有之候ハハ暫時貸與被下度御願  
申上候尙ホ直ニ拜借願ハレ候ヘハ此者ニ御渡シ被下度候敬白

●京都地方裁判所ノ増築ヲ祝ス(明治三十三年三月 京都地方裁判所書記試驗)

維時明治三十三年三月京都地方裁判所増築工事落成ノ功ヲ告ク仍テ茲ニ本日ヲトシ竣  
成式ヲ舉行セラルル抑當地方裁判所廳舎ハ頗ル狹隘ニシテ殊ニ近時司法事務ノ頻繁ニ伴  
ヒ一層ノ不便アルヲ感シ昨年四月此工事ヲ行フニ決シ爾來孜々汲々トシテ其竣功ヲ急  
キ本年三月全ク工事ヲ了リ宏壯ニシテ嚴乎タル大厦ノ存立ヲ見ルニ至レリ豈ニ賀セサ  
ルヘケンヤ以テ人ヲシテ司法權ノ如何ニ神聖ナルカヲ想念セシムルニ足リ又以テ司法  
事務ノ進捗ニ至便ナルヘシ是レ偏ニ所長某君閣下ノ熱誠ニシテ周到ナル監督ノ致ス所

ナリト雖モ亦主任技師ノ職務ニ精勵ナルト設計其宜シキヲ得タルニ因ラソンハアラス  
聊カ蕪辭ヲ陳シテ之ヲ祝ス

●官吏ノ責務ヲ論ス(明治三十三年四月 岐阜縣文官普通試驗)(第二)

凡ソ吾人ノ世ニ處スルヤ必ス一定ノ責務ナキヲ得ス況ンヤ特ニ職ヲ官ニ奉スルモノニ  
於テオヤ

官吏ハ地位ニ上下ノ區別アリ職ニ輕重ノ差アリ或ハ文武ノ別アリト雖モ等シク國家ノ  
機關トシテ國家ノ爲ニ存シ國家ノ目的ニ從テ行動スル職分ヲ有スルモノナリ故ヲ以テ  
其國家ニ對シテハ須ラク忠順ニシテ且勤勉ナルコトヲ要ス即日夕孜々トシテ其職務ニ  
從事セサル可ラス殊ニ行政官府ハ上下相隸屬シテ獨立ノ地位ヲ有セサルヲ以テ上官ノ  
命スル所下官之ニ服從スルノ義務アリ又官吏タルモノハ職務ノ内外ヲ問ハス威嚴ヲ保  
チ廉恥ヲ重シ苟モ其體面ヲ汚損スルノ行爲アル可ラス是其一言一行ハ直ニ國家ノ威信  
ニ關スレハナリ

若シ夫レ放縱專肆ニシテ漫リニ上官ニ抵抗シ或ハ同僚互ニ相狎昵シ亦ハ疎慢懈怠ニ流  
レテ職務ノ曠廢ヲ來スカ如キハ當ニ複雜ナル行政事務ノ滯滞ヲ招クノミナラス或ハ世

ノ風教ヲ傷ヒ或ハ亦大ニ國運ノ伸暢ヲ防ケ國利民福得テ期ス可ラサルニ至ル其責豈ニ輕シトセムヤ要之官吏ノ責務トシテ數フヘキモノ多シト雖モ忠順勤勉ニシテ修身慎行ノ行爲アルヲ得ハ蓋シ其責務ヲ盡スニ庶幾カラムカ

三六〇

●某縣ニ於テ文官普通試験ヲ施行セムトスルニ當リ曩キニ該試験ヲ行ヒタル他ノ縣ニ對シ參考トナル事項問合ノ文(第二)

不日本縣ニ於テ文官普通試験舉行致度候處貴縣ハ曩キニ本試験施行相成候ニ就テハ左記ノ事項參考ノ爲メ承知致度候御回報相煩シ度此段及御照會候也

明治 年 月 日

某縣文官普通試験委員長某

某縣文官普通試験委員長殿

- 一、試験科目
- 一、試験ノ方法
- 一、試験問題選定ノ方法

●觀櫻記(明治三十三年四月、第一)  
(神戸地方裁判所書記登用試験)

此課題ニ付テハ別項大阪地方裁判所書記登用試験ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

●書記試験ノ及第ヲ父ニ報スル文(第二)

拜啓仕候陳者ハ豫テ申上候神戸地方裁判所書記登用試験ハ豫告ノ通り本月一日ヨリ執行セラレ同日ヲ以テ全ク結了致候處受験者案外ニ多ク殆ト五百名モ有之候以テ世ノ中ニ職ニ謁スルノ士ノ如何ニ多キカヲ想察被致候而シテ今回合格シタル者ハ僅々二十餘名ニシテ小生モ幸ニ及第ノ榮ヲ得一段ノ希望ヲ相達シ候間不取敢御報知申上候何レ拜眉ノ上受験狀況詳述可仕候不具

●在學ノ弟ヲ獎勵スル書(明治三十三年五月、第一)  
(名古屋地方裁判所書記試験)

陽氣發處金石亦透精神一到何事不成トハ千古不拔ノ金言ナリ學ノ成不成ハ氣ノ振不振ニ在リ人ノ智識ハ人々大差アルモノニアラス孔子ノ學ト雖トモ生レナカラニシテ得タルニアラス學ヒ而シテ之ヲ得タルナリ學ノ成不成ハ勉ト不勉トニ在リ唯人ノ身體ニハ強弱アレハ其度ニ應シテ勉學ヲ節シ身體ヲ養フヲ要ス家事及兩親ノ如キニ至テハ余不肖ト雖トモ整理奉仕ノ任ニ當ル可シ幸ヒニ後顧セス直進セヨ敢テ一書ヲ呈シテ机上ヲ

普通學 作文

三六一

●人ノ入營ヲ賀スル文(第二)

明治三十二年三月和歌山地方裁判所書記試驗答案參照

●任地ノ現況ヲ記シ郷友ニ與フル(明治三十三年六月(第一) 盛岡地方裁判所書記試驗)

着任以來日尙ホ淺ク諸般ノ狀況未タ之ヲ詳ニセスト雖モ今其一二ヲ記セハ即チ近年ニ至リ交通ノ便開ケテヨリ商工業大ニ發達シテ他方へ輸出スル所ノ貨物日ニ幾萬ト稱ス殊ニ目下當地ニ於テ附近各縣ノ聯合共進會アリテ各縣皆其優ヲ競ヒツツアリ是レ亦少クトモ商工業家ニ幾分ノ革進ヲ促スノ動機タルコト疑ヒヲ容レヌ而シテ又普通教育熱熾ニシテ子弟ニシテ學齡ニ達シタル者ハ一人トシテ就學セサルモノナク爲メニ幾多ノ校舍狹隘ヲ告グルニ至レリ是レ父兄タル者ノ教育ノ必要ヲ感シタルニ因ルト雖モ抑モ亦當局者カ學政ニ關スル措置其宜敷ヲ得タルト指導其當ヲ得タルトニ因ラヌンハアラス其他風俗ト云ヒ人情ト云ヒ皆善良ニシテ殊ニ隣佑團結シ互ニ相倚リ相俟テ社會共存ノ主義ヲ全フスルノ義風アルハ眞ニ當地ノ一特色ニシテ大ニ世人ニ誇ル所ナリ蓋シ人

情紙ノ如ク浮薄ナル現時代ニ於テ斯ル美風ノ存スルハ惟ニ余等ノ幸福ノミナラス實ニ國家社會ノ爲メニ賀スル所ナリ

以上ハ只其重要ナル現況ヲ叙述シタルニ過キスト雖モ若シ夫レ精細緻密ノ狀況ニ至テハ更ニ異日之ヲ報セム矣

●實地臨檢前所轄警察署ニ諸般ノ準備ヲ依頼スル文(第二)

某被告事件ニ付實地臨檢ノ必要相生シ候ニ付キ明日一行六人出張致シ候間諸事差支ナキ様夫レ々々御準備相願度此段及御依頼候也

●舟遊ノ記(明治三十三年六月(第一) 水戸地方裁判所書記登用試驗)

一日友ヲ誘ヒ舟ヲ某江ニ浮フ兩岸苔滑ニシテ白砂ト相映シ深淵水清フシテ細鱗游泳ス舟ヲ中流ニ放テハ流ニ順フテ駛ルコト疾ク兩岸ノ景眼界ヲ新タニシ來ル所謂水碧一重雲一重ナルモノ其愉快勝ケテ名狀スヘカラス遡リテハ下リ下リテハ遡ル此日ヤ魚竿ヲ手ニセス又網ヲ備ヘス只携フル所ノ酒肴ヲ出シ献酬頻繁殆ト酣ニ及フ然シテ遂ニ半日ヲ消シ尙厭クヲ知ラス快知ルヘキナリ後日更ニ竿網ヲ携ヘテ再ヒ此江ニ遊ハンコト

ヲ約シテ舟ニ棹シテ歸ル

三六四

●端午友人ヲ招ク文(第二)

拜啓陳者來ル五日ハ端午ノ佳節ニシテ加フルニ愚息一郎ノ誕生日ニ相當致シ候ニ付内祝ノ爲メ心斗リノ粗末ナル酒肴差上申度存意ニ御座候尙當日ハ他ノ親戚知友モ相見ヘ候間何半貴兄モ萬障ヲ差繰リ御來車被下度奉待入候草々不具

●觀月ノ記(明治三十三年九月)  
(青森地方裁判所書記試驗)(第二)

(但漢字片假名交リ文)

某日正ニ中秋泛舟ノ行アリ是夜陰雲冥谷回顧了々ナル能ハス唯蟲聲切々哀咽人ヲシテ秋懷肅然タラシムルノミ暫スル焉天晴レ陰雲解駁ノ處清月玲瓏光華的礫猶天仙雲ヲ排シ大虛中ニ行クカ如シ彌望開豁渚露ハレ出テ奇景爭ヒ呈ス而シテ風時ニ波面ヲ吹キ水光蕩漾細ナレハ則チ羅縠ト爲リ旋レハ則チ虎眼ト爲リ疾徐舒蹙練ト爲リ黛ト爲リ虬ト爲リ虹ト爲リ碧瑠璃ト爲リ碎玉散珠ト爲リ千態萬狀端倪ス可カラサルナリ快然一嘯仰テ天宇ヲ見レハ則チ一輪水ノ如ク愈々明ニ而シテ愈清シ衆喜ヒ望外ニ出テ滿引太嘯シ

意爽ニ胸豁ニ身ノ何ノ境ニ在ルヲ知ラサルナリ既ニ而シテ孤倒レ看盡キ談酣ニ興然シ月色西ニ斜ニシテ舟ノ已ニ門前ニ維クヲ知ラス

●裁判所ノ新築落成ヲ司法大臣ニ報告スルノ文(第二)  
但通常公文

當裁判所屋舎トシテ何年何月何日ヨリ起工何所ニ於テ新築中ノ處本月何日竣工落成致候條此段及報告候也

●仲秋月ヲ賞スルノ記(明治三十三年九月)  
(熊本地方裁判所書記試驗)(第二)

金風颯々トシテ秋色將サニ佳ナリ維時仲秋明月ノ佳期ニ際ス仍チ學友數名ヲ招キテ此良夜ヲ樂ントス已ニシテ共ニ中庭ヲ徜徉スレハ皎々タル明月東山ノ間ヨリ出テテ恰モ一大鏡ヲ懸ケタルカ如シ心神爽快トシテ平常ノ俗塵ヲ忘ル時ニ數行ノ過雁遠ク叫ンテ南ニ翔ケルヲ聞ク乃チ簫端ニ杯ヲ舉ケ獻酬數番醉ニ乘シテ吟シ或ハ歌ヒ以テ夜ノ更クルヲ知ラス

●從軍中ノ友人ニ遺ス文(第二)

普通學 作文

三六五



拜啓陳者貴兄今般第一軍ニ屬シ旅順大連ニ轉戦シテ大ニ偉功ヲ奏セラレ候趣殊ニ旅順  
陥落ノ時ハ衆ニ先ンシテ勇奮劇闘被遊候趣承リ候國家ノ爲メ慶賀ノ至リニ存候ノミナ  
ラス亦生等一同ノ欣躍措ク能ハサル所ニ御座候是レ君ノ天資剛毅ニシテ堅忍不撓ノ精  
神ニ基クト雖モ又常ニ義勇奉公ノ四字ヲ胸底ニ藏シ造次顛沛ニモ之ヲ忘レサル忠誠ノ  
致ス所ニ御座候能ク軍人ノ本分ヲ盡サレ候事内外ノ賞賛スル所ナリ即チ上ハ國家ノ干  
城タリ下ハ後進ノ模範ト云フモ過言ニ非スト信シ申候今ヤ歲寒ク任重フシテ途又遠シ  
幸ニ御自愛是祈候頃日偶一句ヲ得タルヲ以テ即書シテ左右ニ致ス御笑讀被下候ハハ幸  
甚之ニ不過候

聞説大連寒劈顔

雄心勃々雪風間

寄言千里君須記

踏破北京城上還

●松ノ説(明治三十三年十月)(第一)  
(福岡地方裁判所書記試験)

地球ノ東端ニ天然ノ一樂土アリ世界ノ人競フテ是コニ遊ハンコトヲ希ヒ一タヒ遊ヘハ  
終生此土ヲ忘レサラシム此樂土此戀人ハ之ヲ呼テ日本國ト云フ日本國カ世界人ノ間ニ  
此カル樂土ト慕ハルル所以ノモノハ何ソヤ其由テ來ル所種々アル可シト雖モ其主ナル

欠

MISSING

ニ二十八名ニ御座候而シテ受験者中ニハ白髪ノ老人アリ又紅顔ノ美少年アリテ口角池ヲ飛ハシテ虹ノ如キ大氣焰ヲ吐キテ滿場(控席)ヲ吹キ倒ス如キ曉吾家モ多々相見受申候得共擊柝一聲共試験場ニ入ル時ハ何レモ同一ニシテ殺束トシテ屠場ニ入ル牛ノ如キ有様ニシテ思ハス失笑致候

亦試験場ハ試験官ノ監督警戒最モ嚴重ニシテ例ノ誤魔カス等ノ不正手段ハ毫モ施スノ傍地無之依テ斯ル卑劣漢モ見受不申候實ニ試験制度ナルモノハ公明ノ善制ニシテ人材登用ノ良方法タルヘキコト今更ナカラ感服致候先ハ概略此ノ如クニ御座候書餘ハ拜眉ノ上萬縷可仕候草々不具

●秋郊ニ遊フノ記(明治三十三年十一月)(長野地方裁判所書記試験)(第一)

一日天氣清明ニシテ塵埃動カス即チ郊外ニ遊ヘハ一望千里萬田黃色ト變シ秋風徐ニ吹テ畦畔ヲ渡レハ稻穂皆靡ヒテ恰モ黄金ノ波ヲ漲ラスカ如シ木葉凋落シテ蕭枝觀ルニ忍ヒス滿郊ノ光景ノ凄然タルヲ觀テ感慨轉々深シ昨ノ春榮ヲ競ヒシモノ今ヤ即チ否ラス春去リ夏來リ秋又將サニ辭セントス嗚呼人生ノ有爲轉變モ亦此四時循環ノ速カナルカ如キ乎ト時ニ日ハ既ニ西山ニ沒シ晚鐘耳邊ニ到ル仍チ家ニ歸テ此記ヲ作ル

●土藏ノ新設ヲ必要トシ其意見ヲ長官ニ具申スル文(第二)

當裁判所ニ於テハ從來物品及書類ヲ貯藏スヘキ一定ノ場所無之殊ニ近時事件ノ取扱大ニ増加シ爲メニ書類推積シテサナキタニ狹隘ヲ感セシ廳舎一層ノ不便ヲ覺ヘ候ノミナラス凡テ書類等ハ一定ノ保存期間モ御示定相成居候且昨今近火頻々ノ折柄過テ此等ノ災害ニ遭遇スルカ如キコトアラハ遺憾此上モナキコトニ御座候間幸ニ構内相當ノ空地モ有之候ニ付此際土藏ノ新築ヲ請ヒ書類品保管上遺憾ナキヲ期シ度存意ニ御座候尤モ豫算上ノ御都合モ可有之義ト存候得共何卒御差繰ノ上至急御採納相成度茲ニ意見ヲ開陳シ此段又具申候也

●公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタル同僚ヲ慰ムル文(明治三十三年十一月(第一))

拜啓陳者今曉某所ニ於テ兇賊逮捕ノ際敵ノ反嚙ヲ受ケ重傷ヲ負ハセラレ候趣承リ驚愕ノ至リニ候之レ畢竟公務ニ御熱心ナルヨリ生シタルコトニ候得ハ世ノ弱行ノ士カ敵ノ威喝ニ逢ヒ遂巡躊躇シテ空シク掌中ノ玉ヲ逸スルモノトハ大ニ其選ヲ異ニシ平素ノ御忠勤モ相表ハレ却テ一ノ御功名ニ相成候段小生等ノ赧然トステ愧入所ニ御座候間御力

落シナク充分御静養ノ程吳々モ惘望致シ候先者不敢取御見舞迄申上度何レ參堂萬々申上ヘク候敬具

●民事訴訟事件ニ付某村長ニ對シ其村役場備付ノ印鑑簿ノ送付方ヲ照會スル文(第二)

目下當裁判所ニ於テ審理中ナル某被告事件ニ關シ貴村役場備付ノ印鑑簿上必要ニ付折返シ御送付相成度此段御照會ニオヨビ候也

●觀楓ノ記(明治三十三年十二月(第一))

(鳥取地方裁判所書記試驗)

(漢字片假名交リ文)

●外國留學生ノ安否ヲ訪ヒ本國ノ模様ヲ報知スル文(往復文)(第二)

拜啓一別以來無音ニ打過キ候處光陰ハ矢ノ如ク既ニ曆モ改マリ候尊體御起居如何ニ候哉定メテ國家ノ爲メ御勤學ニ日モ亦足ラサル事ト存シ候申スモ愚ニハ候ヘ共氣候風俗

普通學 作文

ニモ未タ御憤レ遊ハサレサル異郷ノ事ニ候得ヘハ萬事御障リ無キ様御氣ヲ付ケ被下度被願上候當地ハ今日頃ハ例年ナレハ窓前ノ梅花南枝一輪二輪笑ヒ初ムル頃ナルニ近年稀ナル酷寒ノ爲メソ等モ自然後レ居候昨今ノ新聞紙ニテ見レハ北國地方ハ非常ノ大寒ニテ寒暖計モ間ニ合ハス西比利亞ノ極寒時ト伯仲ストノ事且ツ第八師團第五聯隊第二大隊ノ一大隊合計二百餘人ノ將卒ハ青森地方ニテ雪中行軍中大雪ノ爲メ八九分通凍死セントノ事ニ御座候全國經濟界ハ昨年來未曾有ノ不景氣ニ御座候乍併其反動トシテ今年ハ追々好景氣ニ赴クナラントノ説モ有之候今年ハ珍ラシク年初ヨリ輸出超過ヲ示シ候段樂モシキ事ニ御座候帝國議會ハ今開會中ニテ來年度豫算ハ衆議院ヲ通過シ貴族院ニテ審議中ニ御座候多分多クノ修正モナク通過スル模様ニ御座候豫算案中清國債金債券ヲ歲入ニ組入ルル政府案ニハ政友會ノ反對アリタレトモ結局政友會ヨリ讓歩致シ候其他刑法改正案モ愈々提出セラレ候處通過不通過ハ未タ豫知スルヲ得ス候惡疫ハ別ニ流行致サス候ヘ共唯鷺口瘡カ少々流行スルノミニ御座候先ハ右アラノ申上候尙ホ乍末筆御郷家皆々様御健全ニ御暮シ遊サレ居リ候間御安心ナサル可ク候謹言

●官吏ノ榮轉赴任ヲ賀スル文(往復文)(明治三十四年三月)(第一)

足下久シク當縣書記官ノ任ニ在リ當縣民ヲシテ其德ニ浴セシム今忽チ官命ニ依リ某縣知事ノ重任ヲ拜スト聞ク當縣ノ爲ニハ惜ミテモ尙ホ餘アリト雖モ抑モ亦是獨リ足下ノ榮ノミニアラス實ニ某縣ノ幸ナリ定メテ知ル足下益々平生ノ蘊蓄ヲ發シ熟伎ヲ振ヒ之ヲ實地ニ施シ大ヒニ其成功ノ美ヲ致ス應サニ遠キニ非サルヘキヲ鄙生正ニ眼ヲ拭ヒ以テ之ヲ拜觀セントス乃チ蕉辟一篇ヲ呈シ聊カ祝意ヲ布ク幸ヒニ電囑ヲ賜ヘ

●二遊公園記(第二)

そらふく風も寒からすあつからす木々の梢はいろづきて池の汀の玉萩もいまをさかりと咲きみだれいともさびしき折から一日師の君の此頃のいとよき時を只むなく過ごさむは餘りにあたらしければこむ土曜日には皆うちそろひて大宮公園に遊はんとしたまふにみな人よろこぶ事かきりなし一日ふた日過ぐるまにはや明日ともなりぬそれより學びのこともうちすてしたくもそこにあすの天氣をいのりふしどに入りぬれどなか／＼にいねもやられず一時二時とかぞふる程にいつしか夢をやむすびけむ時計の音におどろき起きいでそとの方を打見やれば有明の月まどよりさし入りいと明きに今うちしは何時ならんとともし火をかづけて見ればいまだやう／＼三時なりさ

りといねもやらざればまづ髪などくしけづりて種々ぬそぎなどするまに時もきぬれば朝飯どもすませ車をはしらせて上野なる停車場へと行きぬいまだ五人六人の友の來給ひしのみなりしばしあるまにやうく皆うちそろひぬとて汽車にのりぬ野に山にまたくひまにすぎゆきて田端王子赤羽などすぐる頃師の君歌よませたまひて御身等もいかにとのたきへばあまりに腰うちかけし所のかたきにつけて

行きつかはたのしからんとおもへども

かたきところにすわるくるしさ

としたゝめて見せまるらすればいたく笑はせ給ひぬとかくする程にわらびと云ふところにつきぬ此所の名をいれてよませ給へる御歌

月のなかの桂ならねどめにし見て

手には折られぬわらびなりけり

皆われもくとうちかんがふるにおのれもからうじてひねり出しぬ

名にしおはいいかにわらびも生ひぬらん

ときだにあらばつみてゆかまし

といふに一人の友のいふやういとふくつけき歌かなかの御坂に陥りし信濃の受領にも

いかでおとらむといふに吾ながらをかしくするまゝに友のはや大宮なりと云ふにおどろきおりにあないにしたがひて公園なる藤戸と云ふやどに入りぬいと景色よくかどに又小きみせありて小猿をかひたり皆めでたがりてながめをるに師の君のいづらへが行かんとたまへばいざまいらんとてこゝかしこそゝあるきするにほどなく午の時になりぬやどに入りてひるげたうべをへていと面白き遊などあまたなすにまもなく歸るべきときぬればをしきけしきをあとにのこして停車場へといそぐ折よく發車の時とて汽車も來合ひたれば之にうちのりて日かげかたぶきてともし火のかげ遠近に見ゆるころやうく上野停車場につきぬ

●某長官ニ仕官ヲ求ムル文(明治三十四年三月)(第一)

閣下名聲籍甚遷生未タ龍光ニ泥ハスト雖トモ景慕依々タリ遷生頃日某所文官普通試験ニ及第シ漸仕官ノ資格ヲ得タリト雖モ固ヨリ驚駭ノ下乗融材ニ乏シク官職ヲ得ルニ道無シ聞ク閣下某省某局某部長ノ職ニ在リト仰キ願ハクハ閣下ノ部下ニ於テ需要ノ存スルアラハ遷生ヲシテ其末席ヲ潰スヲ得セシメヨ若シ夫レ俸給ノ額ノ如キニ至テハ遷生ニ於テ定望無シ宜シク閣下ノ見ル所ニ任ス敢テ尊嚴ヲ冒ス

●某被告事件ニ付證據物件ヲ添ヘ證人訊問ヲ某裁判所ニ囑託スル公用文(第二)

住所族稱職業

何 某

出生年月日

右何某ニ付キ何某ノ何罪被告事件ノ證人トシテ訊問ノ手續煩度證據物件相添ヘ刑事訴訟法百三十二條ニ依リ此段及囑託候也

●余ノ境遇及前途ノ目的(明治三十四年三月) (宮城縣文官普通試驗) (第一)

東都ノ片隅根岸ノ里ニ九尺二間ノ荒破家アリ此茅屋ニ寓居シテ獨リ昂然トシテ世俗ヲ脱シ社會ノ風潮ヲ意トセス滿都ノ子女カ狂ヒ戯ルル春ノ花觀モ吾ニ於テ何カアラム秋ノ月冬ノ雪觀モ之レ風流人ノ物好キノミ吾ニ於テ何ノ痛痒モ感セス吾ハ只吾ノ行フヘキ一定ノ課程ノアルアレハ之ヲ成シ途ケサレハ止マサルノ決心ヲ以テ眞一方ニ協目モフラス日々腰辨當ニ革袍ヲ抱ヘテ本郷ナル赤門(大學)ニ向フコト風雪驟雨ノ日ト雖ト

モ未タ付テ廢セシコトナシ家ニ歸レハ即又復習研鑽ニ餘念モナク屹々トシテ練磨修養ヲ怠ラス夜ノ更クルコト幾度ナルヲ知ラス殊ニ本年ハ卒業シテ法學士テフ月桂冠ヲ戴クヘキ千載ノ一遇逸ス可ラサル好機ナルヲ以テ平素ヨリモ尙一層奮勵シツツアリ然レトモ獨身ノ悲サニハ毎日期朝ハ未明ヨリ臥床ヲ離レテ自ラ炊事ノ勞ニ任シ薪炭ノ用意ヲナシ下女ノ職務ヲ兼ネ行フコトノ五月蠅キコトハ玄ヲ極メ幽ヲ探リ以テ法理ノ蘊奧ヲ究ムルヨリモ却テ困難ヲ感シ轉々煩ニ堪ヘサルノ思ヒアリサレハ時ニ或ハ麵麩ノ殘片ヲ食ヒテ僅カニ其日ヲ送ルコトモ決シテ少ナカラサルヘシ斯克テハ健康保全ノ道ニ非ラスト友ナル人ノ注意ニヨリ日曜日毎ニハ必ラス爐ヲ圍ミテ鮮肉ヲ以テ腹ヲ肥スノ例トナセリ此外何等ノ煩累ナク只樂天的ニ終日終夜徹頭徹尾讀書ノ外他ニ念ヒナキモノ是レ余ノ現時ノ境遇ナリ

サレハ余ノ前途ノ目的亦知ルヘキナリ仍チ世界ニ在ラユル幾萬卷ノ書ヲ讀ミ盡シテ後溫厚篤實ニシテ且學德兼備ノ學者トナリテ世ノ師表ト仰カレンコトコソ余カ畢生ノ目的ナリ矣

附言 此文章ハ恐ラク發題者ノ意思ニ反スルナラム從テ文官普通試驗ノ答案トシテハ或ハ當ヲ得サルカ如シ只茲ニハ其範例ヲ示シタルニ過キササルヲ以テ宜シク取捨

普通學 作文

●友人ニ文官普通試験ノ狀況ヲ報告スル文(第二)

本課題ニ付テハ別ニ解説ヲ付セサルヲ以テ別項三十三年四月十一日神戸地方裁判所書記試験問題解説参照スヘシ

●觀櫻ノ記(明治三十四年四月)(第一)

明治三十二年四月大阪地方裁判所書記試験第一問答案参照

●借覽ノ書籍ヲ返戻スル文(第二)

過日拜借仕候御書籍民事訴訟法講義及刑事訴訟法講義都合二冊本日御返濟仕候間乍御手數御受納被下度候以御蔭過日申上候某地方裁判所所ノ書記登用試験ニ及第者ノ末席ヲ濱シ候間左様御承知被下度候此品ハ珍シカラス候へ共某地ノ名物ニ候へハ御笑味被下候ハ幸甚ニ存候先ハ御返戻ノ辭如此ニ御座候尙ホ拜眉ノ節御禮申上ヘク候

●觀櫻記(明治三十四年四月)(第一)

本課題モ又別項大阪地方裁判所書記登用試験問題ト同一ナルヲ以テ之ヲ省略ス

●書類ノ送付ヲ他官廳ニ照會スル文(第二)

今般當地方裁判所へ控訴シタル某被告事件ニ關スル訴訟記録至急御送付相成候様致度此段及御照會候也

●友人ノ小成ヲ誡ムル文(明治三十四年五月)

洋ノ東西ヲ問ハス時ノ古今ヲ論セス自ラ國家ノ重キニ任シ衰運ヲ挽回シタルノ英雄少ナカラサルニ非スヤ  
又我國歐米ノ文明ヲ輸入シテヨリ茲ニ三十有餘年社會ノ發達ハ人智ノ進歩ヲ促シ亦往日ノ比ニ非ラス自ラ東洋ノ英國ヲ以テ任スルモノ豈先輩ノ啓發開拓ノ賜ニ非スヤ  
足下生レテ此聖世ニ逢フ必ラスヤ之レニ酬ユル覺悟ナカル可ラス然ルニ何ソ圖ラン近時足下ノ行動ヲ見ルニ動モスレハ小成ニ甘ンシ碌々タル徒ト伍ヲ同フシ一小吏ヲ以テ自ラ足レリトナスモノノ如シ是レ余ノ大ニ探ラサル所ナリ足下請フ眼ヲ遠ク世界ノ大



勢ニ注ケヨ又我國ノ前途ニ鑑ミヨ世界的競争ハ駭々トシテ進ミツツアルニ非スヤ東洋ノ天地ハ暗暗トシテ風雨未タ定ラサルノ光景ニアラスヤ將來ノ日本ハ世界的活動ノ新舞臺ニ於テ其優ヲ競ハサル可ラサルニアラスヤ此ノ時ニ處シテ能ク國運ノ進暢ヲ扶ケ國家ノ體面ヲ全フスルモノ夫レ果シテ誰レノ責任ソヤ掛リテ兄等ノ双肩ニ在リ豈ニ碌々ノ徒ト一小天地ニ蟄居シテ井蛙ノ愚ヲ學フノ時ナラムヤ殊ニ足下猶ホ春秋ニ富メリ宜シク奮勵興起シテ他日ノ大成ヲ期セヨ學術界ト云ヒ商工業界ト云ヒ開拓ノ餘地綽々トシテ存セリ其何レニ向フモ其欲スル所ナリ惟鋤鋤ヲ取テ之ヲ國家ニ貢獻セヨ敢テ一言ヲ披瀝シテ覺醒ヲ促ス所以ノモノ一片ノ婆心禁セント欲シテ禁スル能ハサレハナリ足下幸ニ之ヲ諒セヨ焉

●初夏舟遊ノ記(明治三十四年五月)(第一)  
(松江地方裁判所書記試驗)

本課題ハ三十三年六月水戸地方裁判所書記問題ニ相酷似セルヲ以テ省略ス讀者宜シク流暢ノ筆ヲ揮テ之ヲ描出セヨ

●友人ノ凱旋ヲ賀スル文(第二)

啓陳者曩キニ萬歲聲裡ニ都門ヲ發シテ軍ニ北清ニ赴カレ候以來既ニ二星霜ヲ經過致候其間或ハ凜烈ナル寒氣ニ耐ヘ或ハ三伏ノ苦熱ヲ忍ヒ砲煙彈雨ノ内ニ偉功ヲ揮セラレ候處今回和約成リテ日出度凱旋被遊候段御家門ノ御光榮ハ申ス迄モナク實ニ國家ノ爲ニ慶賀之至リニ存候貴兄カ君國ノ爲メニ御盡シ相成候今回ノ偉績ハ永ク青史ニ傳ヘテ赫々トシテ千歲朽チサル事ト存候實ニ名譽此上モナキコトト一同喜欣雀躍罷在候先者不取敢賀詞申上度如此候敬具

●山寺ニ遊フノ記(明治三十四年五月)(第一)  
(青森地方裁判所書記試驗)

林麓ヨリ上ル道愈巍也青崖邃谷匪壘而シテ行ク絮ニシテ履ニ粘スルヲ雲ト曰ヒ紅ヲ纈シ碧ヲ索シ蜿蜒起伏スルヲ峯ト云ヒ怒リ而シテ兀忽悍夫ノ介スル如ク而シテ相怖スヲ巖ト曰フ里餘ニシテ一息杖シ而シテ躋ル泉ニ遇ヘハ則葉ヲ卷キ以テ飲ス進ム數里始テ佛寺ノ山門ヲ望ム泉韻木響皆梵唄ノ如シ林盡キ梵刹上霄ニ出ツ諸峰障シ而シテ立ッ猶天半ニ在リ佛殿甚宏偉頗ル古色アリ一溪綠ヲ漲シ階下ニ冷然タリ已ニ達シ神稍定マリ高ニ倚リ願望ス盤鷹皆其背ヲ見ル少焉アツテ雲縷々トシテ石下ヨリ出テ松ヲ縲リ而シテ過ク茶煙ノ枝ニ在ル如シ已ニシテ乃チ人物鳥獸ノ狀ヲ爲シ忽然地ヲ匝スレハ大地皆

澎湃タリ松ヲ撫シ石ニ坐スル上ハ碧落而シテ下ハ白雲是レ亦タ幽奇變幻ノ極境ナリ走  
リ山僧ニ告ク僧曰ク此レ山中ノ恒ナリ道フニ足ル道シト

●豫審判事ヨリ郵便電信局ニ對シ被告ニ關係アル郵便物廻送方照會文  
(但往復文)(第二)

何縣何郡何村何番地住何某ニ係ル何々罪豫審事件ニ付何々ノ事實發見ノ爲メ必要ニ有  
之候條何月何日付何縣何郡何村何番地何某ヨリ何縣何郡何村何番地何某ニ宛テ振出シ  
タル封書壹通御廻送方煩度刑事訴訟法第百十三條ニ依リ此段及照會候也

●司法權ノ獨立ヲ要スル論(明治三十四年五月)  
(右片假名交リ論文體ニ記スヘシ)

昔「モンテスキュー」氏ハ三權分立論ヲ唱道シ立法司法行政ノ三國權カ一國內ニ於テ相  
分立スヘキモノナルコトヲ論セリ我邦ニ於テハ國權ハ一ニシテ天皇之ヲ總攬シ賜フモ  
メナレハ斯カル說ハ之ヲ容ルルノ餘地無キナリ然レトモ我邦ニ於テモ國權ノ作用ハ之  
ヲ分ツノ要アリ而シテ司法權ハ裁判所ナル機關ヲシテ天皇ノ名ニ於テ之ヲ行ヒ立法權

ハ國會ノ參與ニ依リテ之ヲ行ヒ行政權ハ行政機關ニ委任シテ之ヲ行フ是ニ於テカ司法  
權ハ之ヲ獨立セシメ他ノ機關ヲシテ之ヲ侵サシメサルノ必要ヲ生ス抑モ司法權トハ法  
律ノ適用ヲ司ルモノナリ法律ノ適用ハ端嚴ナラサルヘカラス公正ナラサルヘカラス決  
シテ事情ノ爲メニ左右スヘキモノニアラス若シ他ノ機關ノ干涉ヲ許サンカ時ト場合ト  
ニ依リ法律ノ意義ヲ左右シ事情ノ爲メニ法律ノ解釋ヲ異ニシ何ソ其適用ノ端嚴公正  
ヲ保スルヲ得ンヤ或ハ曰ク裁判所タルト其他ノ機關タルト均シク國家ノ機關ニシテ國  
家ノ目的ノ爲メニ動クモノナリ故ニ法律ノ嚴正ノ適用ヲ希フニ於テ異ナル所無シト夫  
レ然リ然レトモ之レ一ヲ知テニヲ知ラサルノ論ナリ何トナレハ全權ヲ得サレハ全力ヲ  
振フ能ハサルハ當然ノ理ナレハナリ

●公園ニ遊ブノ記(明治三十四年六月)(第一)  
(熊本地方裁判所書記試驗)

本課題ニ付テ三十四年三月大分地方裁判所書記試驗ト同一ニ付省略ス

●登記所設置ノ請願書(第二)

當町ハ從來人口稀少ニシテ且交通ノ便亦開ケサリシモ近年ニ至リテハ大ニ舊時ノ面目

ヲ一新シ人口増加シ人事ノ關係ハ日ニ月ニ愈複雑トナリ商工業ノ盛大ニ赴キント同時ニ取引モ又益類繁ヲ來シ候今日ニ於テ現今ノ如ク登記所ノ遠隔セルハ獨リ不便ヲ極メ居候ノミナラス迅速ヲ尙フ商事ニ於テ遺憾少ナカス候間特別ノ御詮議ヲ以テ當地内ニ登記所御設置被成度候右ハ唯ニ當地住民ノ幸福ノミナラス附近幾多ノ町村亦其餘光ニ浴シ候間此際願意御採用相成度此段奉願候也

● 雨中の述懐 (明治三十四年七月 福岡地方裁判所書記試験)

けふいくか日數へにけん五月雨のと三日五日が程こそ日をも數へつれかくおやみなうては早および折らんともおぼえすいとつれくなるまゝに外の方をながむれど軒の玉水草木の雫見るものいづれしめやかならざるぞなきかゝる折柄いかで訪ふ人もがなとおもどへも間なくふりしきる雨の爲に門邊の小川もみかさまりて道もたえはてぬればふりはへて訪ふ人だになくこれよりと思ふにもなかゝにふみいつべくもあらずいかはせんとたゞくたれこめて古き文どもこれかれくりひろげて見れどもくはれぬながめの窓の下にはいとどわびしき心地のみしてなん

● 避暑ヲ約スル文(第二)

あらがねの土もさくてふ此頃のあつけさにも御さはりなういよく御すこやかにおはし候由誠に御目出度御悅申上候私事は先頃より少し心地すぐれず日々うつくしく居候處醫師もかく暑きに餘りとちこもらんは身の爲かへりて悪しかりなんと申され候間さらば避暑がてら保養にもと箱根湯治を思ひ立ち彼の鎌倉右府の跡おひて沖の小島に波打ちよするけしきなども見まほしく母と同道にて明後日あたり出發致すつもりに候御まへ様にも思しめしは御座なく候哉もし御差支もおはしまさず候はゞ是非御同道願度候まだ名のみ聞きたる倒不二を始として名も恐ろしき大地獄小地獄又は數ある出湯の有様など朝夕に親しく見聞致しなば百度千度人傳に聞よりも面白く又學の道のためよりともなりなにかと存せられ候まゝ御勸め申上候尤逗留は二週間ばかりのつもりにて幼き弟妹をも引連れまゐり候間さぞうさしとおぼしめすらんなれども一つの御なくさみはと御ゆるしの上まげて御同道下され度くれぐも願上まゐらせ候  
なほ末ながら御隠居様始め御母上様にも此義を仰せ上られ御同道祈り候

● 秋夜ノ所感 (明治三十四年十一月 福岡地方裁判所書記試験)

普通學 作文

昨日ハ其園ノ梅今日ハ彼丘ノ桃明日ハ此山ノ櫻ト連日花觀ニ忙ハシキ春ハ霞ト共ニ消  
 エ或ハ避暑旅行或ハ海水浴ト勿體振ル夏ハ雲ト共ニ走リ燈火親シムヘキ秋ハ來ニケリ  
 別シテ今宵ハ窗外月澄ミ渡リ蟲聲何トナク憂ヲ合メリ實ニ日月ノ早キ事矢ノ如ク一タ  
 ヒ行キテ歸ヘラサル事水ノ流ルル如シ故ニ賢者ハ瞬時モ徒ラニ費ササルナリ大禹ハ貴  
 人ナレトモ尙ホ尺璧ヲ貴ハス寸陰ヲ惜ミシト聞ク況ンヤ末世ノ我々ニ於テヲヤ今ニ於  
 テ勉強シ老年ニ至リ後悔セサランコトヲ期セサルヘケンヤ

●觀菊誘引ノ文(第二)

拜啓時下闌風伏雨ノ候ニ候處迂生某地ノ別莊ノ庭園菊花盛開秋色佳適恰モ見頃ニ有之  
 候由依同莊ニ於テ來ル何日觀菊會相催候間是非御出ノ上雅懷ヲ御述ヘ被下席上ヲシテ  
 三日餘香有ラシメラレ度及誘引候尤モ白衣ヨリ酒ヲ送ラレタルニハ無之候得共聊カ濁  
 醪ノ樽ニ滿ツルモノヲ持參致サスヘク候ニ付キ應ニ淵明ノ遺愛ヲ賞シ彼ノ霜下ノ筵ヲ  
 弄スルヲ得ヘシト存シ候敬具

●衛生論(明治三十四年十一月)(第一)